NEC

GVT-017906-001-00 1.0

QX-S1000G シリーズ Ethernet スイッチ

Web コンソール操作マニュアル

改版履歴

版数	日付	改版内容
1.0	2016/10	初版発行

Copyright © NEC Corporation 2016

All Rights Reserved

事前に NEC の書面による許可なく、本マニュアルをいかなる形式または方法で複製または配布することを禁止します。

商標

本マニュアルに記載されているその他の商標は、各社が保有します。

注意

- 本装置は *QX-S1000G シリーズ Ethernet スイッチ コマンドマニュアル*に記載されているコマンドのみ使用することができます。*QX-S1000G シリーズ Ethernet スイッチ コマンドマニュアル*に記載されていないコマンドを使用した場合の動作については保証しません。
- 本マニュアルの内容は、予告なく変更されることがあります。本マニュアルのすべての記述、情報、および推奨事項は、明示的か暗黙的かにかかわらず、いかなる種類の保証の対象になりません。

本マニュアルについて

バージョン

本マニュアルに対応する製品バージョンは Version 5.1.X 以降です。

関連マニュアル

次のマニュアルには、QX-S1000G シリーズ Ethernet スイッチに関する詳細な説明があります

マニュアル	内容
QX-S1000G シリーズ Ethernet スイッチ インスタレーションマニュアル	システムのインストールについて説明しています。
QX-S1000G シリーズ Ethernet スイッチ オペレーションマニュアル	機能の設定について説明しています。
QX-S1000G シリーズ Ethernet スイッチコマンドマニュアル	機能に関するコマンドについて説明しています。
QX-S1000G シリーズ Ethernet スイッチ Web コンソール操作マニュアル	Web コンソールからの装置設定、状態確認等についての操作を記述しています。

マニュアルの構成

QX-S1000G シリーズ Web コンソール操作方法マニュアルは、主に Web コンソールの機能、操作方法について紹介をしています。本マニュアルは QX-S1000G シリーズの各種マニュアル（インスタレーション、オペレーション、コマンド)の内容を補完します。QX-S1000G シリーズの Web コンソールを初めて操作される際に、本マニュアルがお役に立つと思います。

マニュアル上の画面イメージは装置によって若干異なりますが、操作手順に変わりはありません。

- 1 章 Web コンソール機能の概要

  Web コンソールの説明、有効化の設定、端末動作環境について記載しています。

- 2 章 Web コンソールへの接続

  Web コンソールへのログイン、画面の概要について記載しています。

- 3 章 装置管理

  システム時間の設定、Syslog の設定、表示、コンフィグレーションの設定、表示、ファイル管理、ポートミラーリング、ユーザ設定、SNMP、Ethernet インタフェースの統計情報について記載しています。

- 4 章 ネットワーク設定

  VLAN、VLAN インタフェース、LACP、IGMP Snooping、診断ツールについて記載しています。

- 5 章 認証

  ユーザについて記載しています。

- 6 章 セキュリティ

  Port Isolation、ループバック検出機能について記載しています。

- 7 章 QoS

  IPv4 ACL について記載しています。

- 8 章 PoE

  PoE について記載しています。

表記規則

本マニュアルでは、次の表記規則を使用しています。

I. コマンド表記規則

表記規則	説明
太字体	コマンドラインを示すキーワードには**太字体**を使用します。
イタリック体	コマンドの引数は*イタリック体*を使用します。
[ ]	大カッコに囲まれた項目(キーワード、引数)はオプションです。
{ x | y | ... }	選択する項目は、中カッコに入れて縦線で区切ってあります。1 つを選択します。
[x | y | ...]	オプションの選択項目は、大カッコに入れて縦線で区切ってあります。1 つまたは複数を選択します。
{ x | y | ... }*	選択する項目は、中カッコに入れて縦線で区切ってあります。少なくとも 1 つ選択できます。
[x | y | ...]*	オプションの選択項目は、大カッコに入れて、縦線で区切ってあります。1 つあるいは複数選択することも、何も選択しないこともできます。
&<1-n>	&の前のキーワードと引数を組み合わせます。引数で指定した数までキーワードを繰り返し指定できます。
#	#で始まる行はコメントを示します。

II. GUI 表記規則

表記規則	説明
< >	ボタン名は三角カッコに入っています。例えば、<OK>ボタンをクリックします。
[ ]	ウィンドウ名、メニュー項目、データ表、およびフィールド名は大カッコに入っています。例えば、[New User]ウィンドウが表示されます。
/	複数レベルのメニューはスラッシュで区切ってあります。例えば、[File/Create/Folder]。

III. キーボード操作

表記規則	説明
<KEY>	KEY のキーを押します。例えば、 <Enter>は Enter キーを押します。
<KEY1 + KEY2>	複数のキーを同時に押します。例えば、<Ctrl+Alt+A>は 3 つのキーを同時に押すことを表します。
<KEY1, KEY2>	複数のキーを順番に押します。例えば、 <Alt, A>は 2 つのキーを順に押すことを表します。

IV. マウス操作

表記規則	説明
クリック	マウスのボタンを素早く押します。特に指定がない場合は左ボタンを押します。
ダブルクリック	マウスの左ボタンを素早く 2 回押します。
ドラッグ	マウスの左ボタンを押したまま移動します。

V. 記号

表記規則	説明
⚠ **警告**	表示を無視したり指示に従わない場合、利用者が怪我などをする恐れのある重要な情報を示します。
⚠ **注意**	表示を無視したり指示に従わない場合、データの損失や破損、ハードウェアやソフトウェアの損傷などが発生する恐れのある重要な情報を示します。
⚠ **重要**	注意を払う必要がある情報を示します。
🕮 **メモ**	追加または補足となる情報を示します。
🕮 **ポイント**	参考となる情報を示します。

VI. ネットワークアイコン

表記規則	説明
	ルータ、スイッチ、またはファイアウォールなどの一般的なネットワークデバイスを表しています。
	ルータまたはレイヤ 3 スイッチなどのルーティング対応のデバイスを表しています。
	レイヤ 2、レイヤ 3 スイッチまたはレイヤ 2 転送機能に対応したルータなどの一般的なスイッチデバイスを表しています。

VII. 設定例

本マニュアルの設定例は各機能での代表的な設定例を示します。インタフェース番号、システム名の表記、display コマンドで表示される情報は、ご使用の装置と異なることがあります。

VIII. セキュリティ強化

セキュリティ強化のため、simple で設定されたパスワードも cipher や hash で登録されます。

本マニュアルは以下に示す８個の章で構成されています。

01 - Web コンソール機能の概要

02 - Web コンソールへの接続

03 - 装置管理

04 - ネットワーク設定

05 - 認証

06 - セキュリティ

07 - QoS

08 - PoE

目次

1 章 Web コンソール機能の概要 1-1
1.1 Web コンソールの説明 1-1
1.2 Web コンソールの有効化 1-1
1.2.1 コンソール接続 1-1
1.2.2 LAN ケーブルの接続 1-1
1.2.3 装置のアドレスの設定 1-2
1.2.4 PC の設定 1-2
1.2.5 HTTP サービスの有効化 1-5
1.2.6 Web コンソールユーザの作成 1-6
1.3 端末動作環境 1-7
1.3.1 オペレーティングシステム 1-7
1.3.2 ブラウザ 1-7

1章 Web コンソール機能の概要

1.1 Webコンソールの説明

Web コンソールは装置にローカルユーザ、IP アドレスを設定した後、CLI を使用せずに Web ブラウザから装置の設定をすることができます。

VLAN 作成、ポート状態の管理、コンフィグやソフトウェアのアップロードなどを GUI 操作で簡単にできます。

⚠ **注意：**

- Web コンソールを使用する前に、CLI でローカルユーザ、IP アドレスの設定を行う必要があります。
- Web コンソール操作時に表示されるメッセージが､CLI 操作時と異なる場合があります。
- Web コンソールを接続したまま、CLI 等で設定変更を行うと、Web コンソールの操作が正しく行えない場合や、操作上のメッセージが正しく表示されない場合があります。
- Web コンソールで設定を変更する場合、現在の装置情報を確認のうえ、操作を行ってください。

1.2 Webコンソールの有効化

装置に Web コンソール機能が備わっている場合でも､使用する前に Web コンソール機能の有効化と、Web コンソールで設定変更ができる権限を持ったユーザを作成する必要があります。

以下に Web コンソール機能の有効化とユーザの作成の手順を示します。

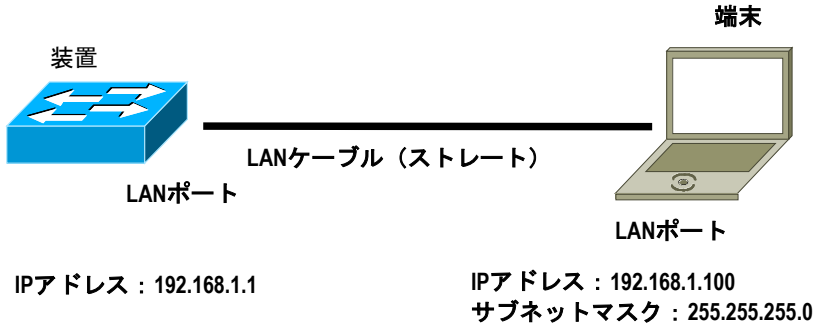
1.2.1 コンソール接続

コンソールケーブルで PC のシリアルポートと装置のコンソールポートを接続し、装置にログインします。

1.2.2 LAN ケーブルの接続

Web コンソールによる操作を行うため、装置の LAN ポートと端末の LAN ポートを LAN ケーブル（ストレート）で接続します。接続する LAN ポートはどこでもかまいません。

図 1-1 LAN ケーブルの接続



1.2.3 装置のアドレスの設定

VLAN 1 を作成します。VLAN 1 に PC に接続されている GigabitEthernet 1/0/1 を追加します。

<Switch> system-view

[Switch] vlan 1

[Switch-vlan1] port gigabitethernet 1/0/1

[Switch-vlan1] quit

VLAN インタフェース 1 に IP アドレス 192.168.1.1、サブネットマスク 255.255.255.0 を割り当てます。

[Switch] interface vlan-interface 1

[Switch-VLAN-interface1] ip address 192.168.1.1 255.255.255.0

[Switch-VLAN-interface1] quit

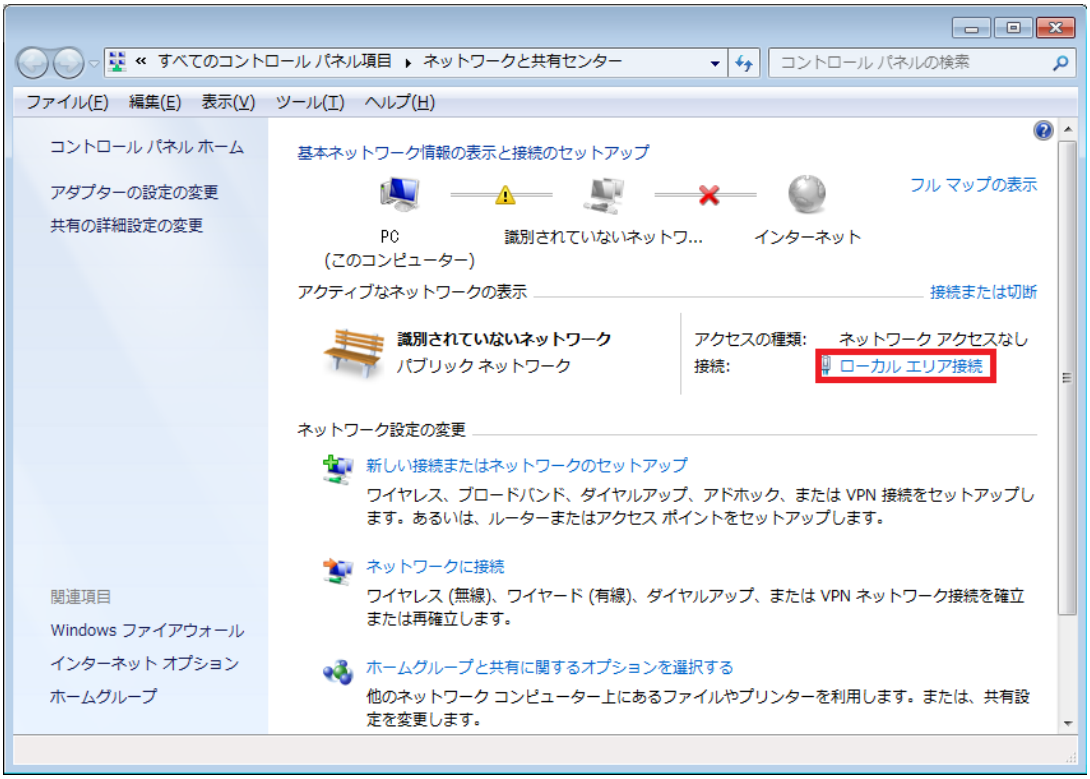
1.2.4 PC の設定

PC にアドレスの設定を行います。コマンドプロンプトを起動します。PC から装置に対して ping を実行し、応答があることを確認します。

以下の手順では Windows 7 を使用しています。PC の環境により適切に通信確認を行ってください。

1) **“スタート“→”コントロールパネル“→”すべてのコントロールパネル項目“→”ネットワークと共有センター“**を開きます。

図 1-2 ネットワークと共有センター



2)　**“アクティブなネットワークの表示”→“ローカルエリア接続”→“プロパティ”→“インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）”→“プロパティ”**を選択します。PC の IP アドレス、サブネットマスクを設定します。装置と異なるネットワーク上にある場合、デフォルトゲートウェイを設定します。その場合、装置にも PC があるネットワークに到達するためのデフォルトゲートウェイが必要です。

図 1-3 ローカルエリア接続のプロパティ

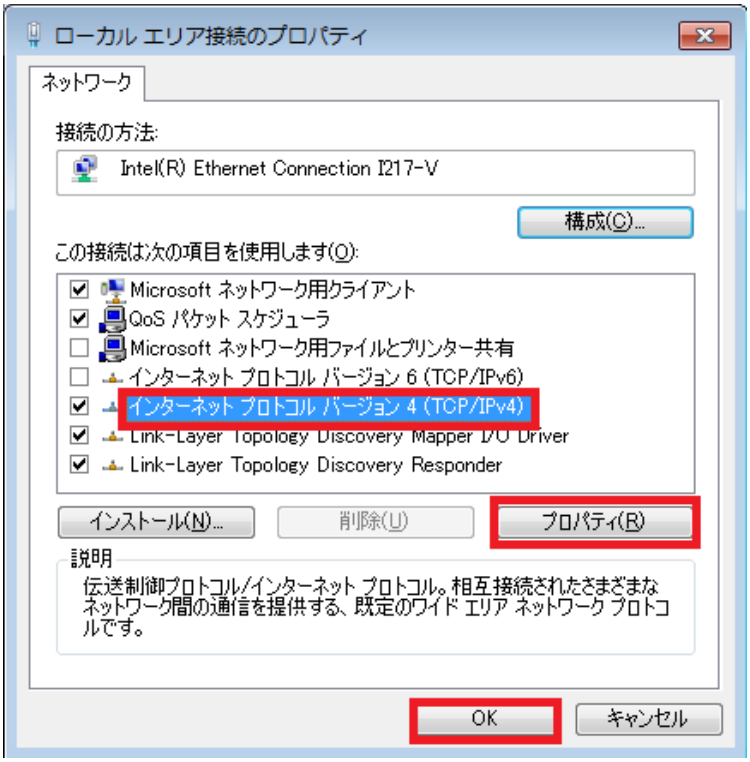
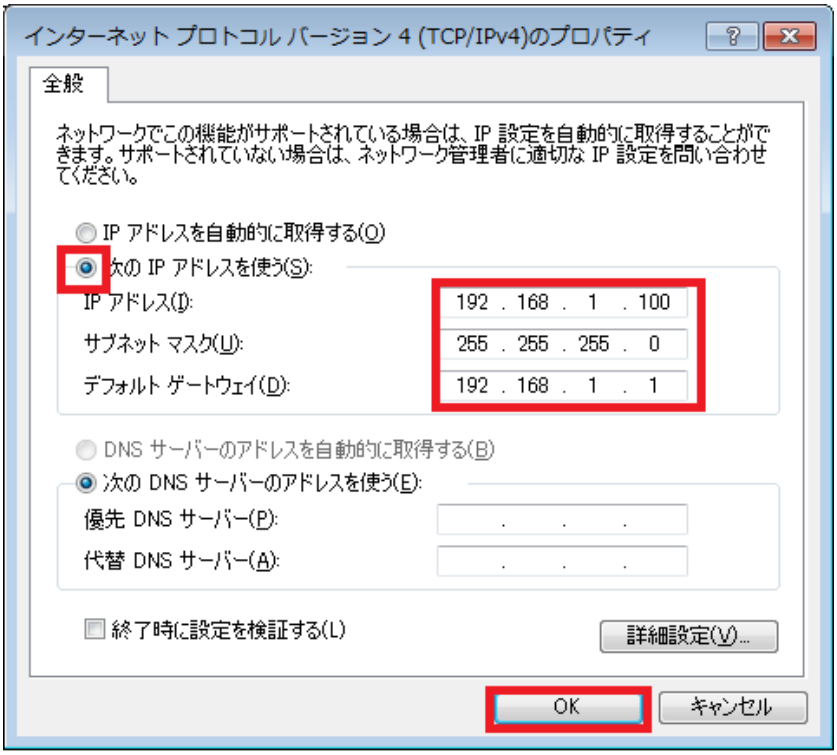


図 1-4 インターネットプロトコルバージョン 4（TCP/IPv4）でのアドレスの設定

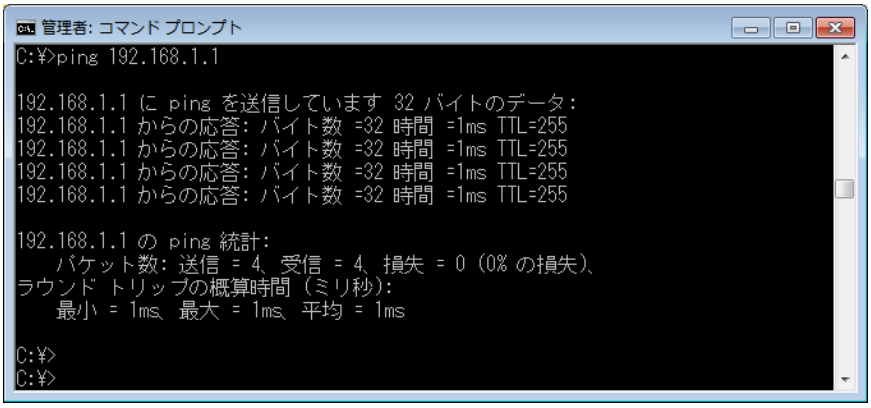


3) **“スタート“→”すべてのプログラム“→”コマンドプロンプト“**の手順でコマンドプロンプトを起動します。PC のアドレスを確認するため、ipconfig を実行します。

図 1-5 PC のアドレスの確認

4) PC から装置に ping を実行します。

図 1-6 ping の実行



1.2.5 HTTP サービスの有効化

Web コンソールに HTTP で接続するために、HTTP サービスを有効になっていることを確認します。HTTP サービスはデフォルトで有効です。

現在の設定で HTTP サービスが無効でないことを確認します。HTTP サービスが無効である場合、カレントコンフィグレーションに **undo ip http enable** コマンドが表示されます。

HTTP サービスが無効の場合の表示例を以下に示します。

[Switch]display this

```
#
 sysname Switch
#
 undo copyright-info enable
#
 domain default enable system
#
 telnet server enable
#
 loopback-detection enable
 loopback-detection multi-port-mode enable
 loopback-detection interval-time 5
#
 undo ip http enable
#
```

HTTP サービスが無効の場合、http サービスを有効にします。

[Switch] ip http enable

[Switch]display this

```
#
 sysname Switch
#
 undo copyright-info enable
#
 domain default enable system
#
 telnet server enable
#
 loopback-detection enable
 loopback-detection multi-port-mode enable
 loopback-detection interval-time 5
#
 password-recovery enable
#
 load xml-configuration
#
return
```

1.2.6 Web コンソールユーザの作成

装置でコンソールユーザを作成します。ローカルユーザ admin を作成し、ユーザのパスワードを admin に設定します。ローカルユーザのサービスタイプを web、コマンド権限レベルを 3 に設定します。

Web コンソールによる設定の詳細はセクション 1 *はじめに オペレーションマニュアル*の“*Web コンソールによるロギング*”を参照してください。

[Switch] local-user admin

[Switch-luser-admin] authorization-attribute level 3

[Switch-luser-admin] password simple admin

[Switch-luser-admin] service-type web

[Switch-luser-admin] save

1.3 端末動作環境

1.3.1 オペレーティングシステム

本装置の Web コンソールは以下のオペレーティングシステムをサポートしています。

- Windows 7 以降
- Linux

1.3.2 ブラウザ

本装置の Web コンソールは以下のブラウザをサポートしています。

- Microsoft Internet Explorer 8.0 以降
- Mozilla Firefox 3.0 以上
- Google Chrome 2.0.174.0 以上

⚠ **注意：**

- 本装置の Web コンソールは、ブラウザの“戻る”、“次へ”、“更新”などのボタンをサポートしていません。これらのボタンを使用すると、Web ページが表示されないなど、異常な状態になる可能性があります。
- Windows ファイアウォールが TCP 接続数を制限するため、IE（Internet Explorer）を使用して装置にログインする場合、Web コンソールに接続できない場合があります。接続できない場合は、ファイアウォールの設定を確認してください。
- Web コンソールで装置のソフトウェアバージョンを変更する場合、IE のキャッシュされたデータを削除するため、確認メッセージが表示される場合があります。

目次

2 章 Web コンソールへの接続 2-1
2.1 Web コンソールへのログイン 2-1
2.2 画面の概要 2-2

2章 Web コンソールへの接続

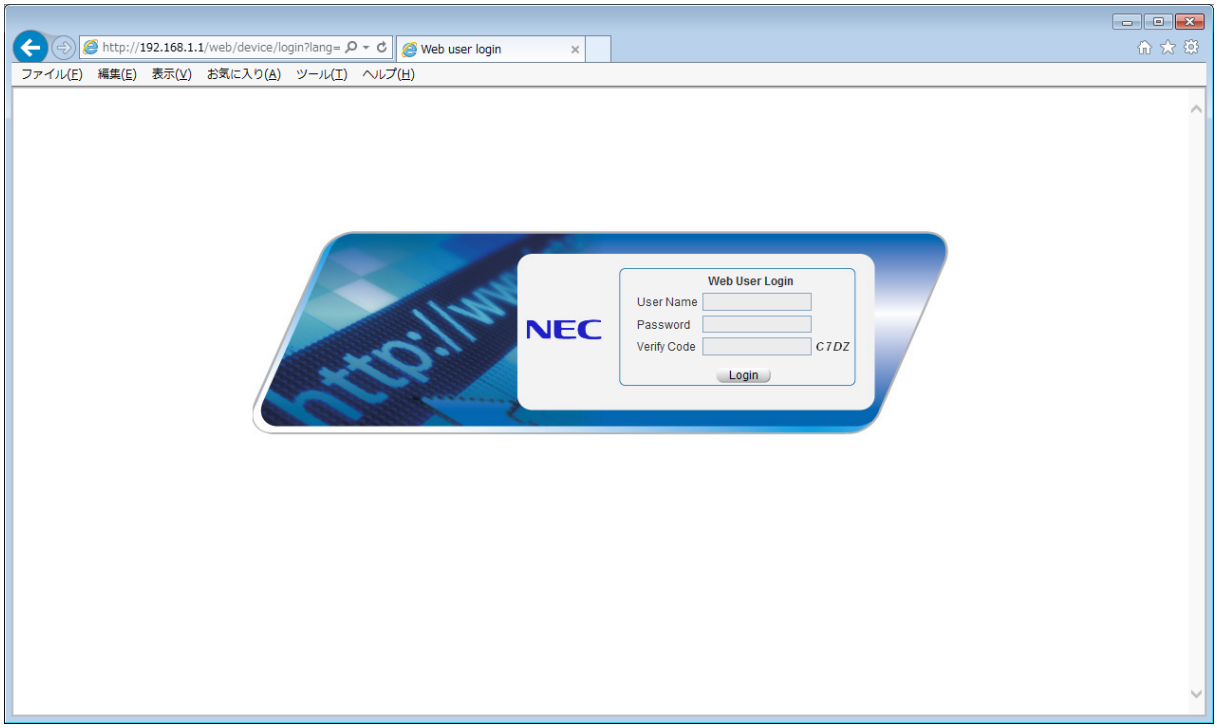
2.1 Webコンソールへのログイン

⚠ **注意：**
端末の設定（PROXY サーバ、Firewall、セキュリティ）などにより、設定を変更しないと Web コンソールに接続できない場合があります。

1) PC 上のブラウザのアドレスバーに“http://*装置の IP アドレス*”を入力します。
“http://192.168.1.1”を入力します。

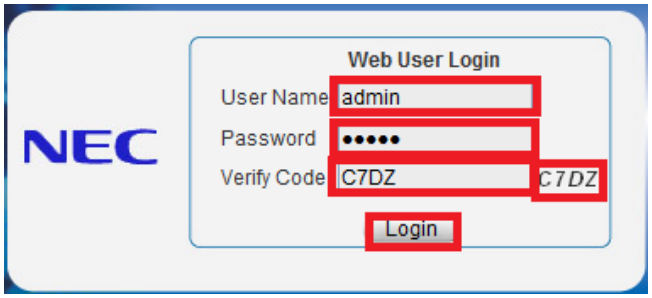
接続が完了するとログイン画面が表示されます。

図 2-1 Web ログインページ



2) ユーザ名 admin、パスワード admin を入力します。大文字、小文字を区別します。Verify Code に記載されている英字を入力します。図 2-1の例では“*C7DZ*”です。入力後、“Login”をクリックします。

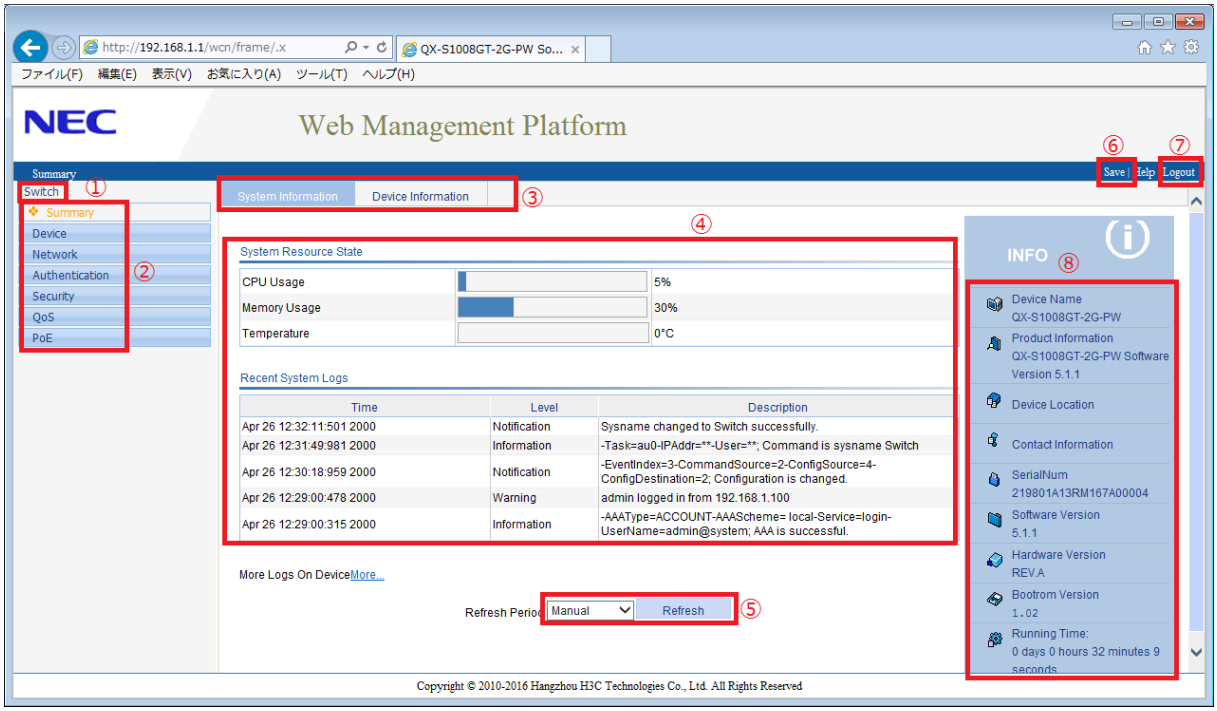
図 2-2 ユーザ名、パスワード、Verify Code の入力



2.2 画面の概要

ログインすると以下のような画面を表示します。

図 2-3 画面表示の概要



以下に画面上のアイコンの概要について記載します。詳細は後述の各章を参照してください。

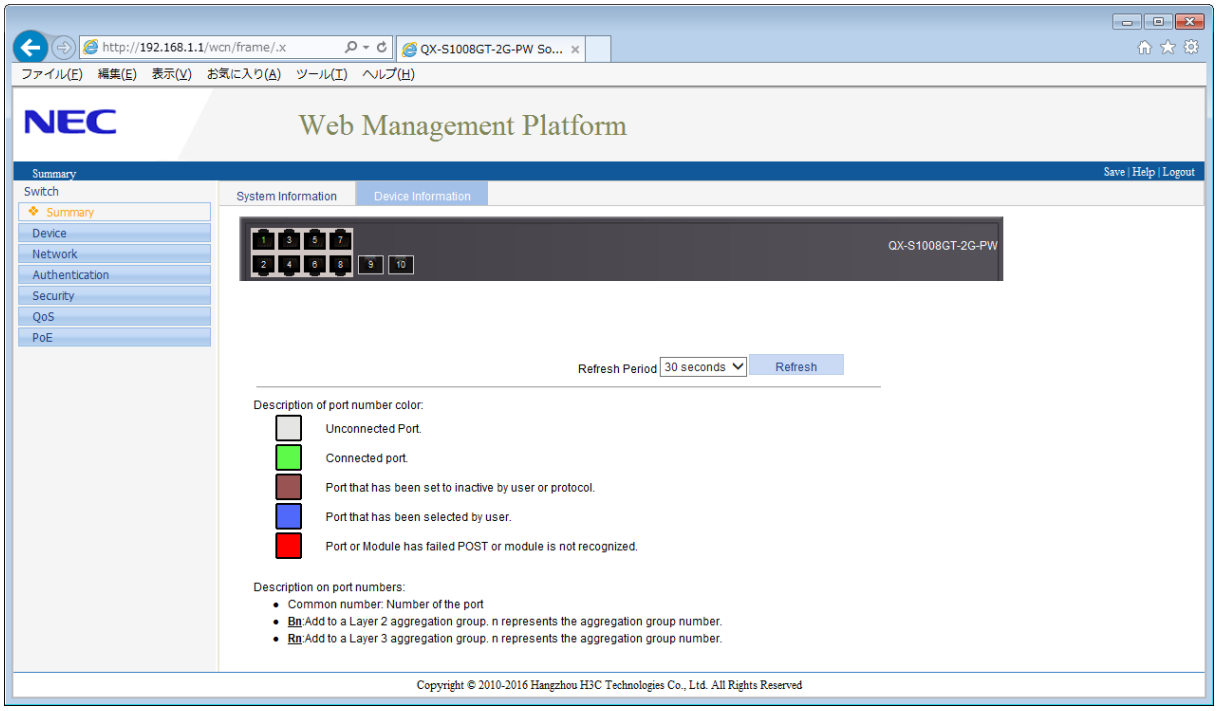
1) 装置名です。装置名をクリックすると 2）の設定メニューを閉じます。再度クリックすると設定メニューを表示します。
2) 設定、情報メニューです。文字をクリックすると設定、情報メニューのサブ設定、情報メニューを表示します。サブ設定メニューをクリックすると各設定、情報画面に移行し、画面中央に該当する内容を表示します。メニューが選択されると文字が青から黄色に変更します。

図 2-3の例では設定、情報メニューは“Summary”です。概要情報が画面中央に表示されています。

3) 設定、情報メニューに関して複数のメニュー画面がある場合、メニューを変更する切り替えタブです。

図 2-3の例では概要情報に関するメニュー画面は“System Information”、“Device Information”があります。ログインしたのち、“System Information”画面が表示されています。“Device Information”をクリックすると装置のポート状態を表示します。図 2-4に示します。

図 2-4 装置のポート状態



4) 設定、情報画面を表示します。

図 2-3の例では設定、情報メニュー“Summary”の“System Information”が表示されます。装置のリソース情報、ログ情報が表示されます。

5) システム情報の更新設定です。画面を最新の状態に更新する間隔を設定します。“Refresh”をクリックすると、即座に画面を更新します。確認メッセージは表示されません。

6) 設定画面を保存します。“Save”をクリックすると、図 2-5に示すように現在の設定を保存するかどうかの確認ダイアログが表示されます。“OK”をクリックすると図 2-6に示すように“Save”の左側に保存中を示す画面が表示されます。保存が完了すると図 2-7に示すような保存完了ダイアログが表示されます。“OK”をクリックします。

図 2-5 保存確認画面

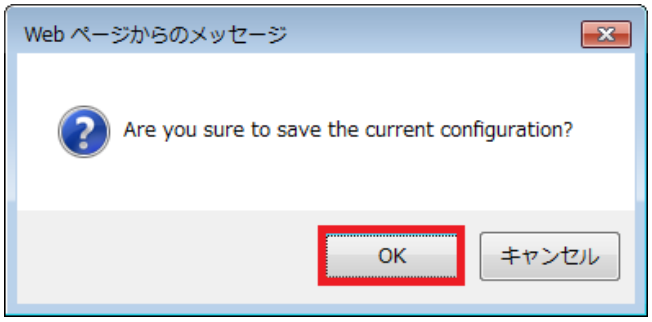


図 2-6 保存中の画面

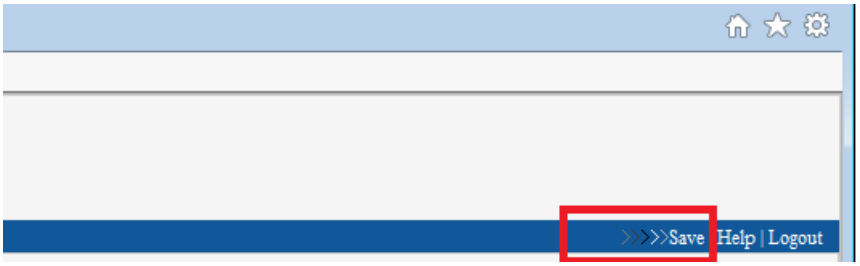


図 2-7 保存完了画面

7) Web コンソールからログアウトします。“Logout” をクリックすると図 2-1の Web ログインページに戻ります。確認メッセージは表示されません。
8) 装置の情報です。装置モデル、ソフトウェアバージョン、シリアル番号、BootRom バージョン、稼働時間などの情報を表示します。

⚠ **注意：**

ログイン後、Web コンソール画面上でなにも操作しない場合、自動的にログアウトします。アイドルタイムアウト時間はデフォルトで 10 分です。

目次

3 章 装置管理 3-1
3.1 基本設定 3-2
3.1.1 装置名の設定 3-3
3.1.2 アイドルタイムアウト時間の設定、表示 3-3
3.2 装置管理 3-3
3.2.1 ソフトウェアのダウンロード 3-4
3.2.2 装置の再起動 3-6
3.2.3 診断情報の取得 3-7
3.3 システム時間の設定 3-9
3.3.1 タイムゾーンの設定 3-10
3.3.2 システムクロックの設定 3-11
3.4 Syslog 3-12
3.4.1 Syslog 情報の表示 3-13
3.4.2 ログホスト 3-15
3.4.3 ログホストの設定 3-16
3.5 コンフィグレーション設定 3-16
3.5.1 コンフィグレーションファイルのバックアップ 3-17
3.5.2 コンフィグレーションファイルの復元 3-18
3.5.3 コンフィグレーションファイルの保存 3-20
3.5.4 設定の初期化 3-21
3.6 ファイル管理 3-22
3.7 ポート管理 3-25
3.7.1 ポート概要表示 3-25
3.7.2 ポート詳細表示 3-26
3.7.3 ポートの設定 3-27
3.8 ポートミラーリング 3-28
3.8.1 ポートミラーリングの概要 3-29
3.8.2 ローカルミラーリンググループの追加 3-30
3.8.3 ローカルミラーリンググループの削除 3-31
3.8.4 ポートの追加 3-32
3.9 ローカルユーザ設定 3-33
3.9.1 ローカルユーザの概要 3-34
3.9.2 ユーザ権限レベルのパスワードの設定 3-34
3.9.3 ログインユーザの作成 3-35
3.9.4 ログインユーザの変更 3-36
3.9.5 ログインユーザの削除 3-37
3.10 SNMP 3-38
3.10.1 SNMP の設定 3-39
3.10.2 SNMP コミュニティの設定 3-40
3.10.3 SNMP グループの設定 3-42
3.10.4 SNMP ユーザの設定 3-43
3.10.5 SNMP トラップの設定 3-45
3.10.6 SNMP の表示 3-47
3.11 Ethernet インタフェースの統計情報 3-49

3章 装置管理

設定、情報メニューで“Device”を選択します。

“Device”メニューには図 3-1に示すように以下のサブ設定、情報メニューがあります。

図 3-1 Device メニューのサブ設定、情報メニュー画面

- **基本設定（Basic）**－装置名、アイドルタイムアウト時間の設定、表示を行います。
- **装置管理（Device Maintenance）**－ソフトウェアのアップグレード、再起動、装置の統計情報の表示を行います。
- **システム時間の設定（System Time）**－システムクロック、タイムゾーンの設定、表示を行います。
- **Syslog**－Web インタフェースに出力された Syslog の設定、表示、およびログホストの設定、表示を行います。
- **コンフィグレーション設定（Configuration）**－コンフィグレーション設定のバックアップ、回復、保存、削除を行います。
- **ファイル管理（File Management）**－フラッシュメモリのファイル設定、表示を行います。
- **ポート管理（Port Management）**－Ethernet インタフェースの設定、表示を行います。
- **ポートミラーリング（Port Mirroring）**－ポートミラーリングの設定、表示を行います。

- **ユーザ設定（Users）**－ローカルユーザの追加、削除、ユーザ権限レベルの変更を行います。
- **ループバックテスト（Loopback）**－ループバックテストを行います。
- **ケーブル接続テスト（VCT）**－ケーブル接続テストを行います。
- **Flow Interval**－Ethernet インタフェースの統計情報のポーリング間隔を表示します。
- **RMON**－RMON の設定、表示を行います。
- **SNMP**－SNMP の設定、表示を行います。
- **Ethernet インタフェースの統計情報（Interface Statistics）**－Ethernet インタフェースの統計情報を表示します。

本章ではループバックテスト、ケーブル接続テスト、Flow Interval、RMON の記述を省略します。*QX-S1000G シリーズコマンドマニュアル*、*QX-S1000G シリーズオペレーションマニュアル*を参照してください。

3.1 基本設定

“Device”メニューのサブ設定、情報メニューで“Basic”をクリックします。

装置名、Web インタフェースのアイドルタイムアウト時間を設定することができます。

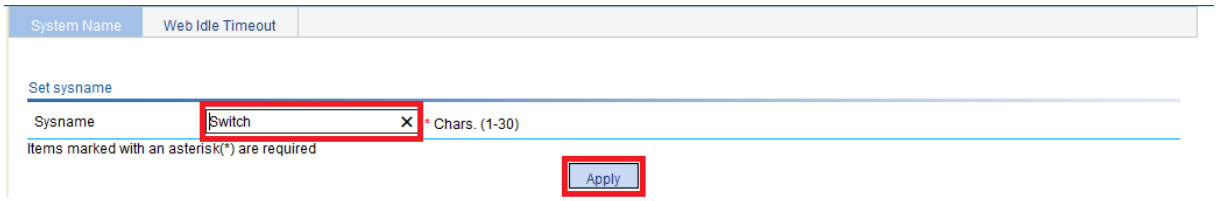
図 3-2 Basic の選択

3.1.1 装置名の設定

“Basic” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “System Name” をクリックします。図 3-3に示すような画面が表示されます。

装置名を設定することができます。設定範囲は 1～30 文字です。値を入力したのち、“Apply” をクリックします。

図 3-3 Device メニュー画面装置名の設定



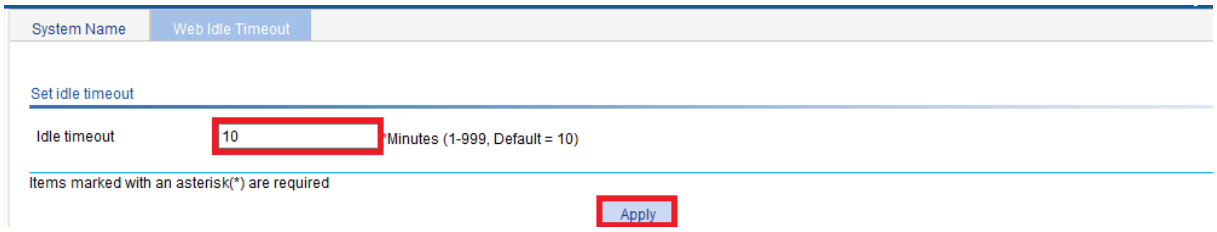
3.1.2 アイドルタイムアウト時間の設定、表示

“Basic” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Web idle Timeout” をクリックします。

図 3-4に示すような画面が表示されます。Web インタフェースのアイドルタイムアウト時間を設定することができます。

デフォルトは 10 分です。設定範囲は 1～999 分です。値を入力したのち、“Apply” をクリックします。

図 3-4 アイドルタイムアウト時間の設定、表示



3.2 装置管理

“Device” メニューのサブ設定、情報メニューで “Device Maintenance” をクリックします。

ソフトウェアのアップグレード、再起動、装置の統計情報の表示を行います。

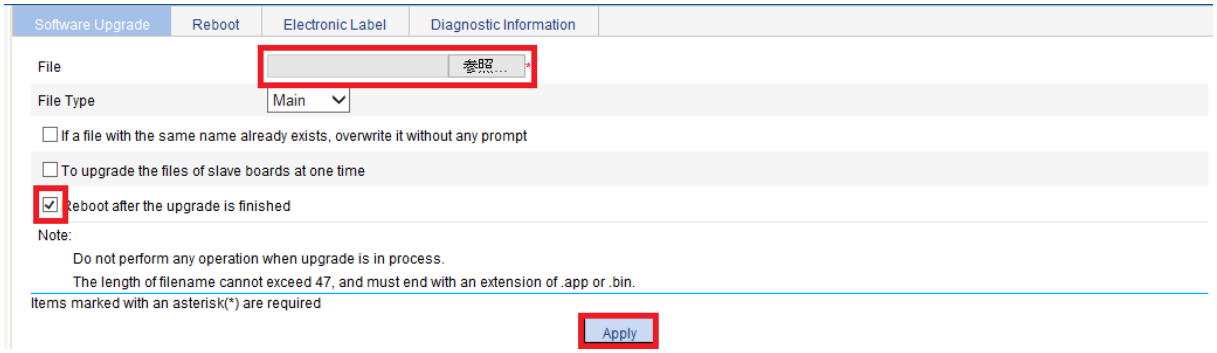
図 3-5 Device Maintenance の選択

3.2.1 ソフトウェアのダウンロード

“Device Maintenance”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Software Upgrade”をクリックします。図 3-6に示すような画面が表示されます。

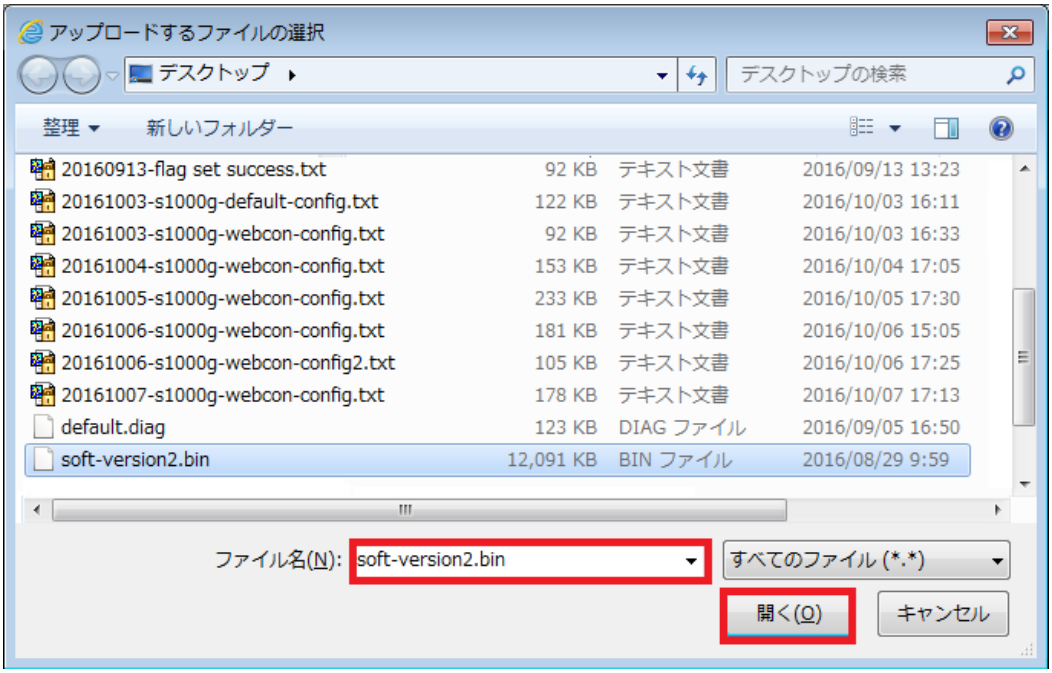
ソフトウェアイメージのダウンロードを行うことができます。

図 3-6 ソフトウェアのダウンロード



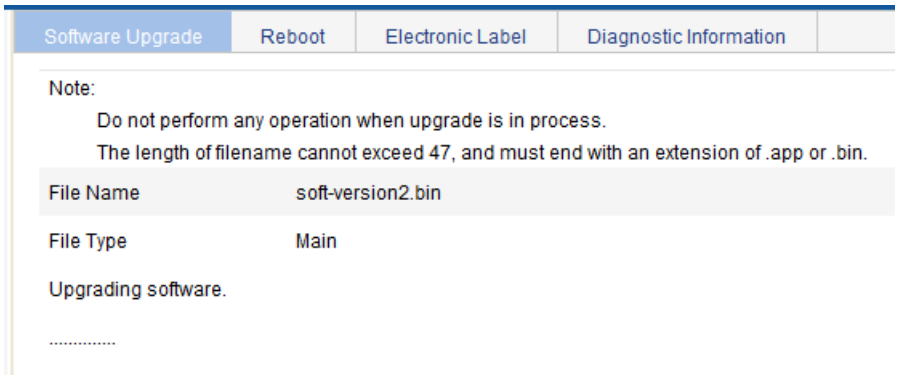
1) 図 3-7に示すように“File”の“参照”をクリックし、ダウンロードするファイルを選択します。“開く”をクリックします。

図 3-7 ダウンロードするファイルの選択



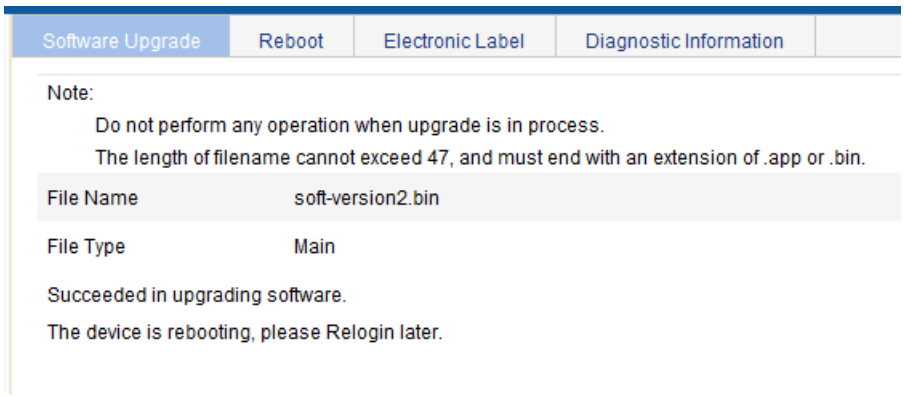
2) “Reboot after the upgrade is finished” を選択し、“Apply” をクリックします。
3) 図 3-8に示すように PC から装置にファイルの転送が行われます。

図 3-8 ソフトウェアのダウンロード画面



4) ダウンロードの完了後、ダウンロードを行ったソフトウェアが次回の起動に適用されます。そして自動で装置の再起動が行われます。
5) 図 3-9に示すようにソフトウェアのダウンロード後のメッセージが表示されます。Web ブラウザから再度ログインしてください。

図 3-9 ソフトウェアのダウンロード後のメッセージ画面



注意：

ソフトウェアのダウンロードを行う前に、“save“をクリックし、設定が保存されていることを確認してください。詳細は”Web コンソールへの接続“の”画面の概要”を参照してください。

3.2.2 装置の再起動

“Device Maintenance”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Reboot”をクリックします。装置を再起動することができます。図 3-10に示すような画面が表示されます。

カレントコンフィグレーションを次回の起動に使用するスタートアップコンフィグレーションファイルに保存するため“Check whether the current configuration is saved in the next startup configuration file”がチェックされていることを確認します。

1) “Reboot”をクリックします。
2) 図 3-11に示すように再起動を確認するダイアログが表示されます。“OK”をクリックします。
3) Web ブラウザから再度ログインしてください。

注意：

装置の再起動を行う前に、“save“をクリックし、設定が保存されていることを確認してください。“Check whether the current configuration is saved in the next startup configuration file”がチェックされている場合、再起動が行われません。詳細は”Web コンソールへの接続“の”画面の概要”を参照してください。

図 3-10 装置の再起動画面

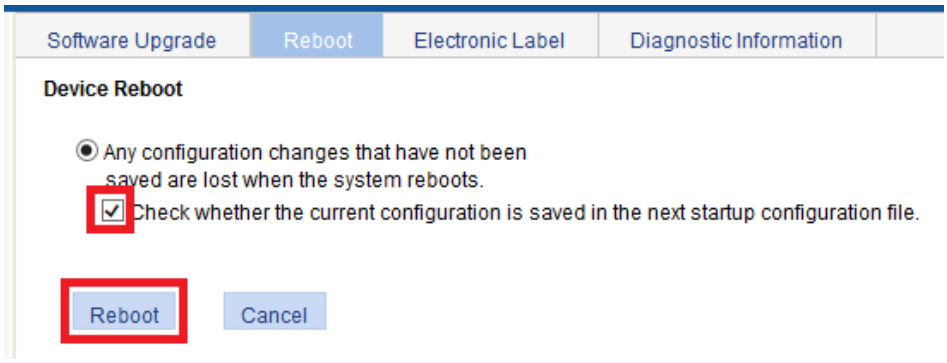
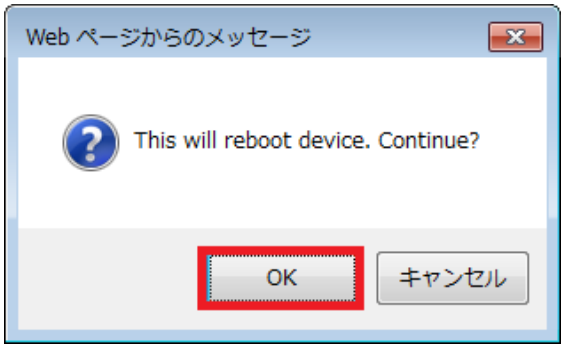
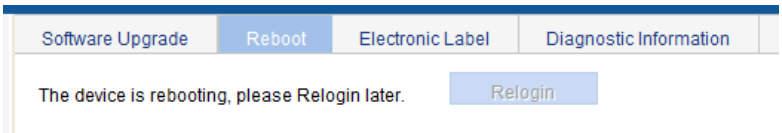


図 3-11 再起動確認ダイアログ



再起動中、図 3-12に示すように再起動中を示すメッセージが表示されます。

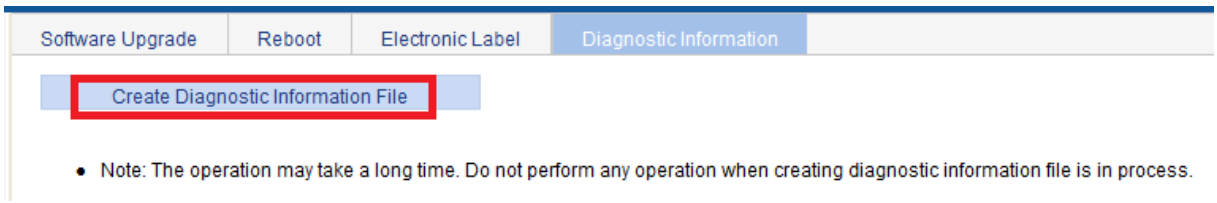
図 3-12 再起動中のメッセージ



3.2.3 診断情報の取得

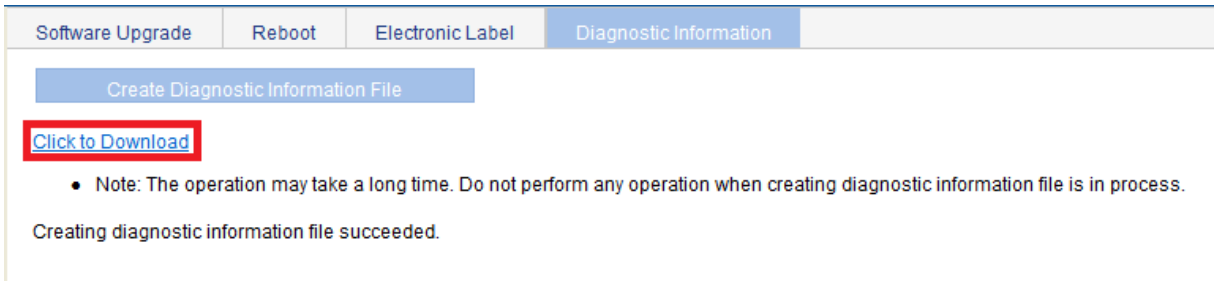
“Device Maintenance” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Diagnostic Information” をクリックします。図 3-13に示すような画面が表示されます。

図 3-13 診断情報の取得画面



1) “Create Diagnostic Information File”をクリックします。
2) 図 3-14に示すようなメッセージが表示されます。診断情報が Web ブラウザで設定されているダウンロードフォルダに“default.diag”ファイルが保存されます。

図 3-14 診断情報の完了画面



3) “Click to Download”をクリックすると、図 3-15に示すようにファイルの確認ダイアログが表示されます。
4) “保存”をクリックします。図 3-16に示すようにダウンロードファイルの処理を促すダイアログが表示されます。
5) “フォルダを開く”をクリックします。図 3-17に示すように“default.diag”ファイルが保存されたフォルダを表示します。

図 3-15 ファイルの確認ダイアログ

図 3-16 ダウンロードファイルの処理ダイアログ

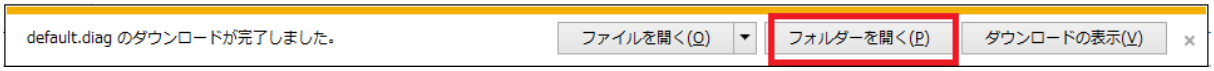
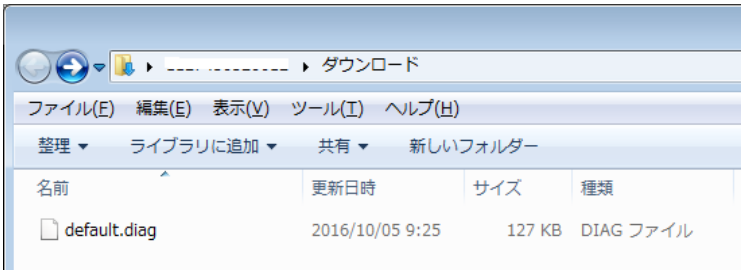


図 3-17 ダウンロードフォルダ



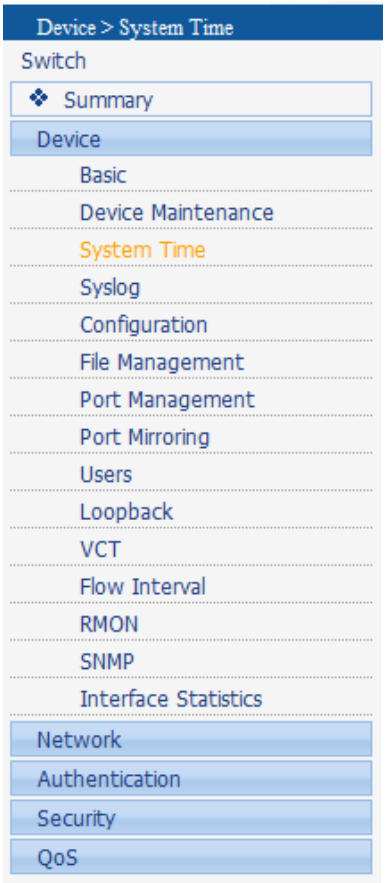
注意：
装置での自己診断情報ファイル default.diag は上書きされます。

3.3 システム時間の設定

“Device”メニューのサブ設定、情報メニューで“System Time”をクリックします。

システムクロック、タイムゾーンの設定、表示を行います。

図 3-18 System Time の選択



3.3.1 タイムゾーンの設定

“System Time”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Time Zone”をクリックします。図 3-19に示すような画面が表示されます。

タイムゾーンを設定することができます。

1) 図 3-20に示すように“Set System Time Zone”を選択し、“（GMT +9:00） Osaka, Sapporo, Tokyo”を選択します。
2) “Apply”をクリックします。

図 3-19 タイムゾーンの設定

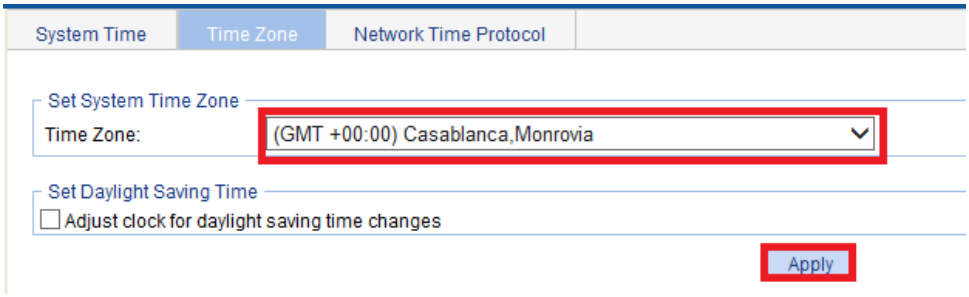


図 3-20 日本時間の設定

3.3.2 システムクロックの設定

“System Time”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“System Time”をクリックします。図 3-21に示すような画面が表示されます。

システムクロックを設定することができます。

1) 図 3-21に示すように“System Time Configuration”の“カレンダーマーク”をクリックします。図 3-22に示すようにカレンダー表示で現在時刻を設定することができます。
2) “Today”をクリックし、“Time”を設定します。設定が完了したら“OK”をクリックします。
3) “Apply”をクリックします。

メモ：

装置は、システムクロックを装置内にバックアップすることができません。
再起動した場合、システムクロックは初期化されます。

図 3-21 システムクロックの設定

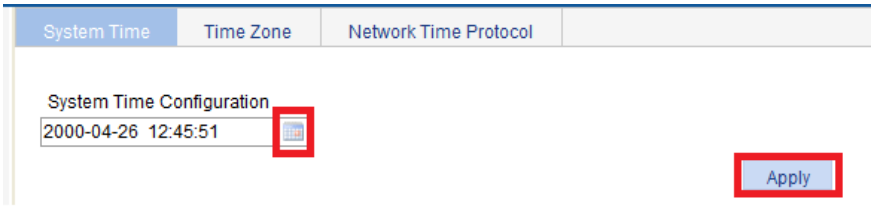
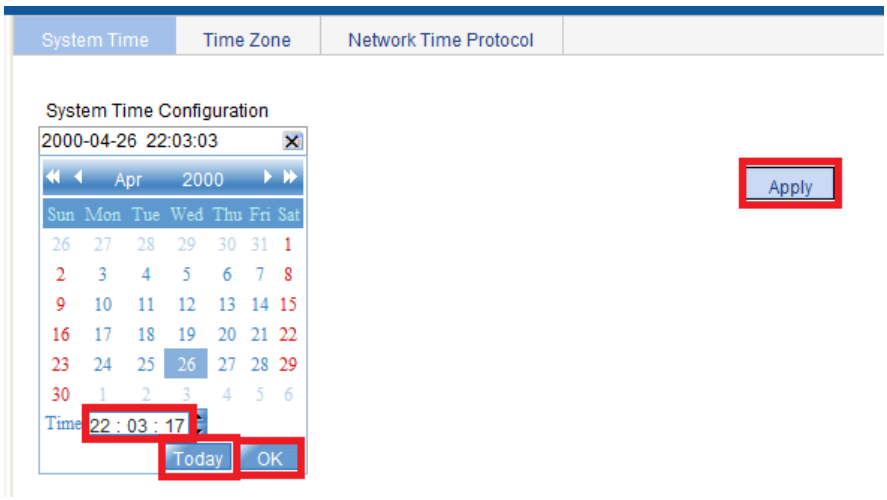


図 3-22 カレンダーマークを利用したシステムクロックの設定



3.4 Syslog

“Device” メニューのサブ設定、情報メニューで “Syslog” をクリックします。

Web インタフェースに出力された Syslog の設定、表示、およびログホストの設定、表示を行います。

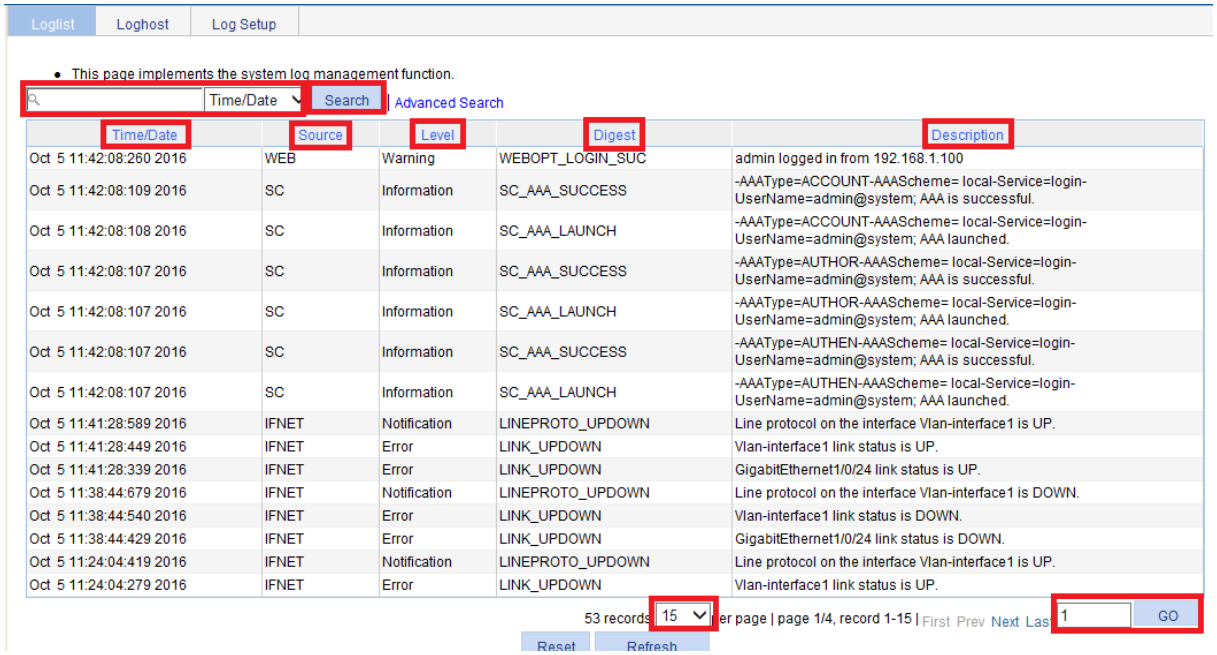
図 3-23 Syslog の選択

3.4.1 Syslog 情報の表示

“Syslog” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Loglist” をクリックします。図 3-24 に示すような画面が表示されます。

Web コンソールに Syslog 情報を表示することができます。

図 3-24 Syslog 情報画面

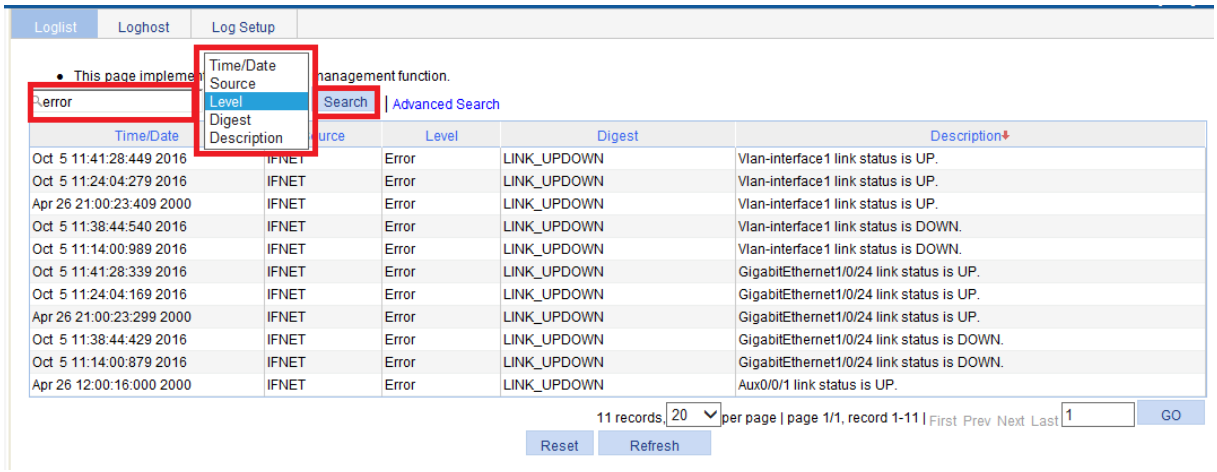


“Time/Date”、“Source”、“Level”、“Digest”、“Description” をクリックすることで項目ごとにソートすることができます。

図 3-25に示すように Syslog 情報を各項目で検索することができます。

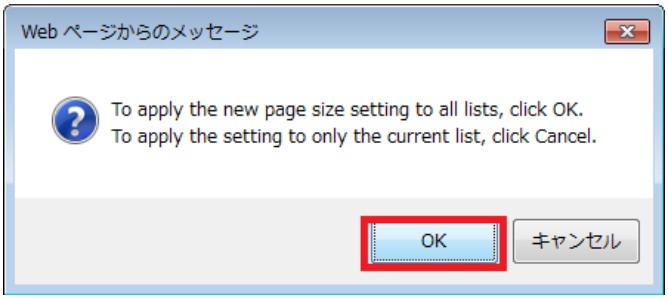
検索する文字列を入力し、該当する項目を “Time/Date”、“Source”、“Level”、“Digest”、“Description” から選択し、“Search” をクリックします。

図 3-25 Syslog 情報の検索



下部にあるページ表記行数枠を選択し、表示する行数を変更することができます。5～100 行まで設定することができます。図 3-26に示すように変更ダイアログが表示されるため、“OK” をクリックします。

図 3-26 表記行数の変更ダイアログ



ログ情報が複数ある場合、該当ページを入力し、“GO” をクリックすることで、複数ページへジャンプすることができます。

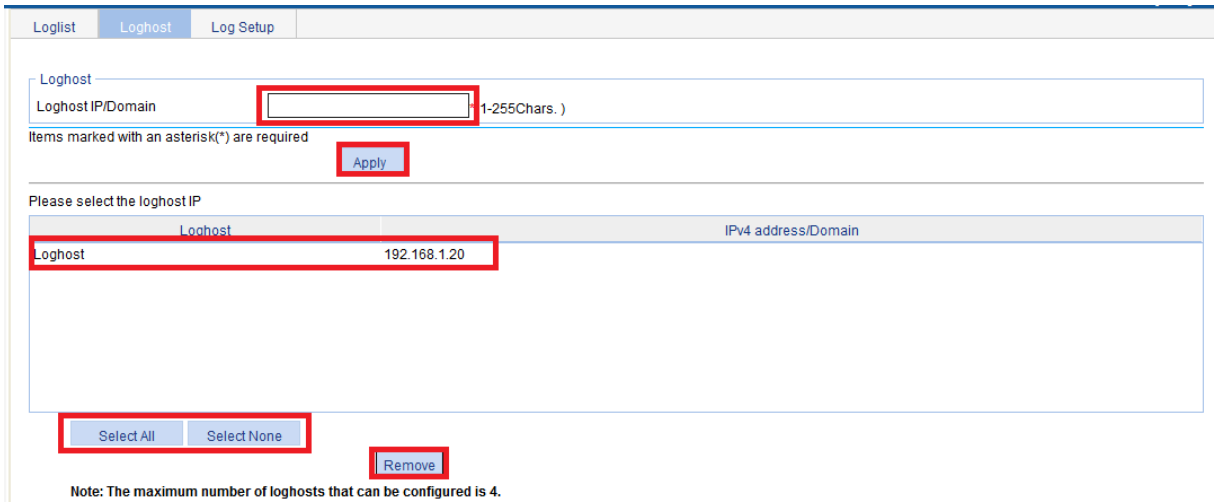
3.4.2 ログホスト

“Syslog”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Loghost”をクリックします。図 3-27 に示すような画面が表示されます。

ログホスト情報を設定、表示することができます。

1) loghost の “loghost IP/Domain “に出力ログの IP アドレスあるいはドメイン名を入力します。
2) “Apply” をクリックします。

図 3-27 ログホスト画面



ログホストを削除することができます。

1) “Please select the loghost IP” のリストから削除するログホスト選択します。あるいは “Select all” をクリックし、すべてのログホストを選択します。選択を削除する場合、“Select None” をクリックします。

2)　“Remove”をクリックします。

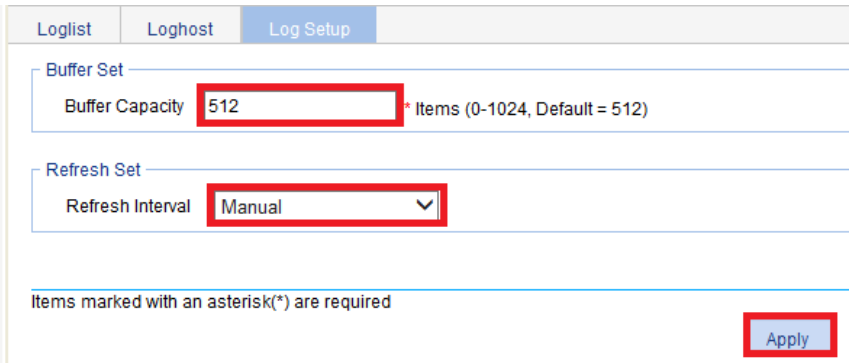
3.4.3 ログホストの設定

“Syslog”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Log Setup”をクリックします。図 3-28に示すような画面が表示されます。

Web コンソールで Syslog 情報を保存するバッファサイズ、更新間隔を設定することができます。

1)　Syslog 情報を保存するバッファサイズを“Buffer Capacity”に設定します。設定範囲は 0～1024 です。デフォルトは 512 です。
2)　Syslog 情報の更新間隔を“Refresh Interval”に設定します。手動、1 分毎、5 分毎、10 分毎から選択します。
3)　“Apply”をクリックします。

図 3-28 Syslog 情報の設定

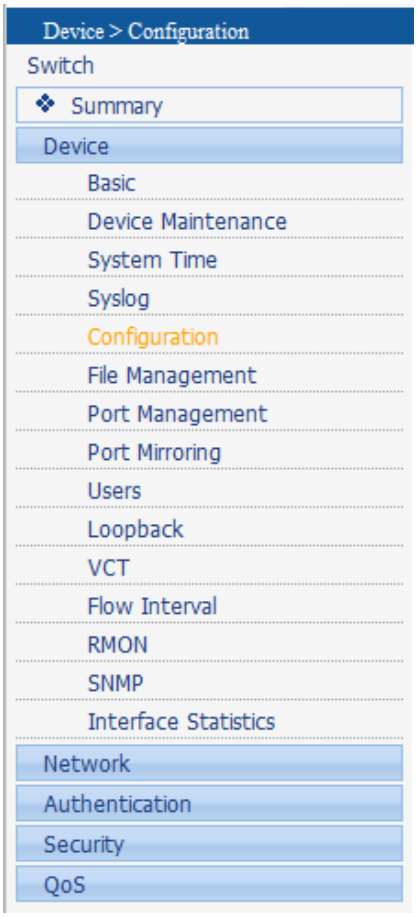


3.5 コンフィグレーション設定

“Device”メニューのサブ設定、情報メニューで“Configuration”をクリックします。

コンフィグレーション設定のバックアップ、回復、保存、削除を行います。

図 3-29 Configuration の選択



3.5.1 コンフィグレーションファイルのバックアップ

“Configuration”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Backup”をクリックします。図 3-30に示すような画面が表示されます。

1) “Backup the configuration file with the extension ".cfg"”の“Backup”をクリックします。
2) 図 3-31に示すようなダイアログが表示されます。ダウンロードフォルダに装置の起動で使用するコンフィグレーションファイル“startup.cfg”が保存されます。
3) “保存”をクリックします。図 3-32に示すようにダウンロードファイルの処理を促すダイアログが表示されます。
4) “フォルダを開く”をクリックします。図 3-33に示すように“startup.cfg”ファイルが保存されたフォルダを表示します。

図 3-30 コンフィグレーションファイルのバックアップ

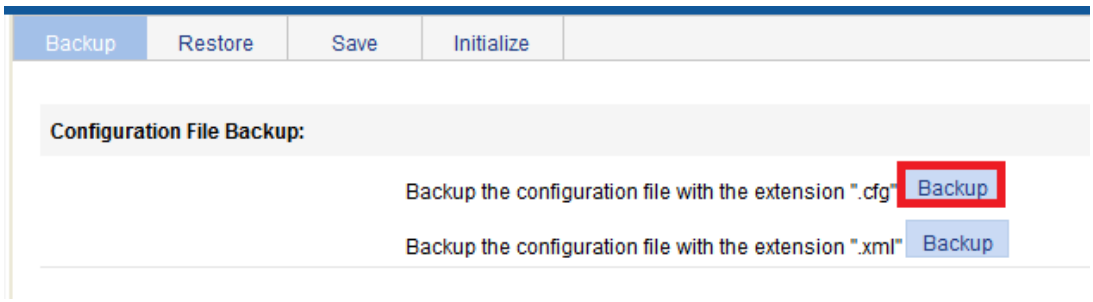
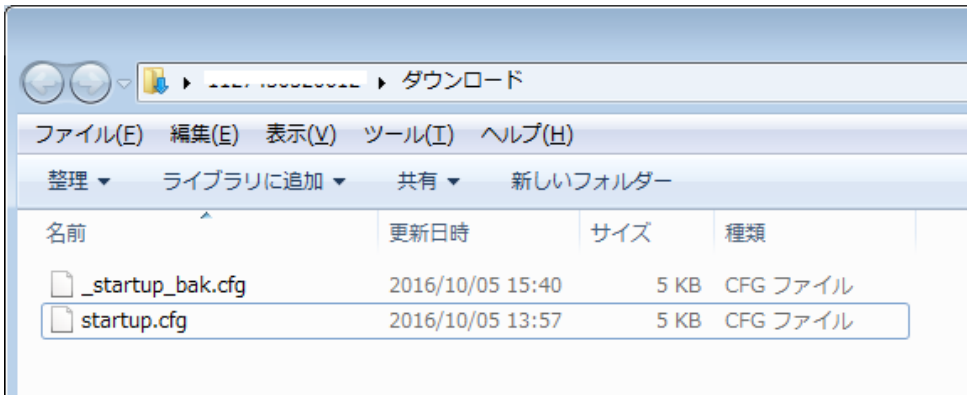


図 3-31 コンフィグレーションファイルの確認ダイアログ

図 3-32 コンフィグレーションファイルの処理ダイアログ

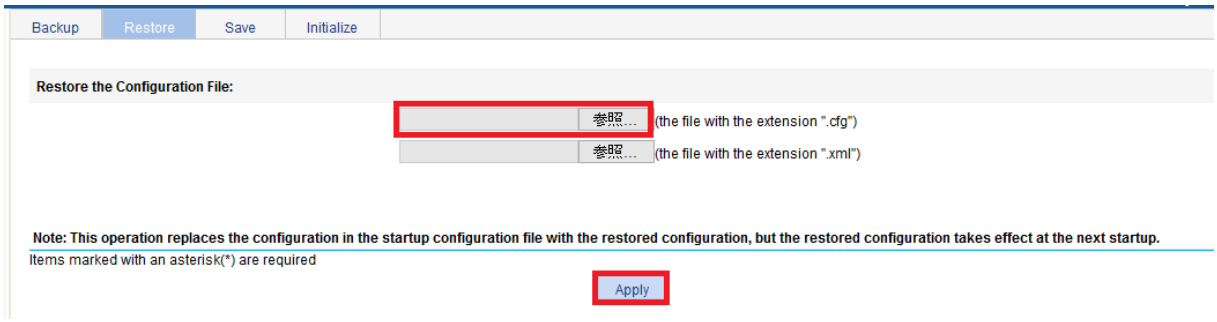
図 3-33 ダウンロードフォルダ



3.5.2 コンフィグレーションファイルの復元

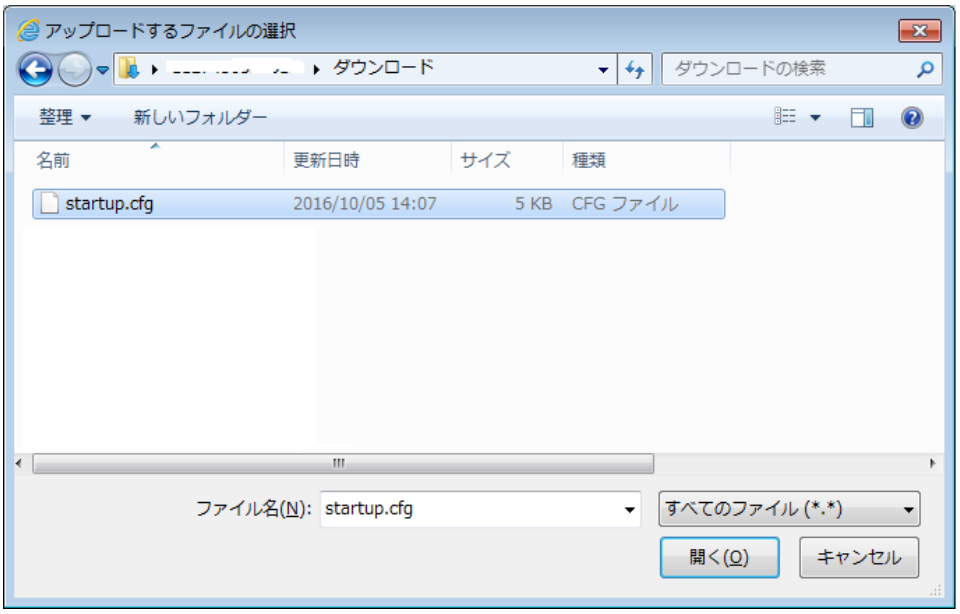
“Configuration” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Restore” をクリックします。図 3-34に示すような画面が表示されます。

図 3-34 コンフィグレーションファイルの復元



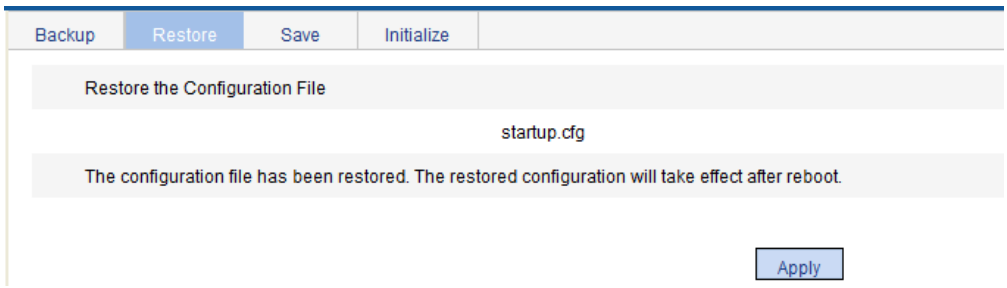
1) 図 3-35に示すように“File”の“参照”をクリックし、ダウンロードするファイルを選択します。

図 3-35 コンフィグレーションファイルの選択



2) “Apply”をクリックします。図 3-36に示すようにコンフィグレーションファイルの復元完了画面が表示されます。

図 3-36 コンフィグレーションファイルの復元完了画面



3)　装置の再起動を行います。

⚠ **注意：**

ソフトウェアのダウンロードを行う前に、“save“をクリックし、設定が保存されていることを確認してください。詳細は”Web コンソールへの接続“の”画面の概要”を参照してください。

3.5.3 コンフィグレーションファイルの保存

“Configuration”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Save”をクリックします。図 3-37に示すような画面が表示されます。

1)　“Save Current Settings”をクリックすると、図 3-38に示すようにファイルの確認ダイアログが表示されます。
2)　“OK”をクリックします。保存が完了し図 3-39に示すようにコンフィグレーションファイルの保存完了ダイアログが表示されます。

図 3-37 コンフィグレーションファイルの保存画面

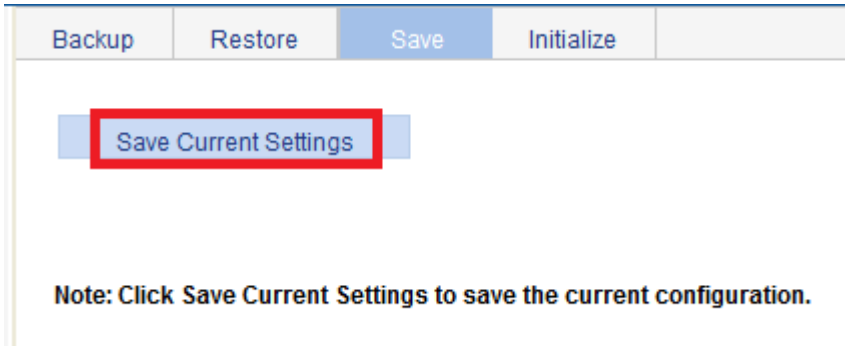


図 3-38 コンフィグレーションファイルの保存確認ダイアログ

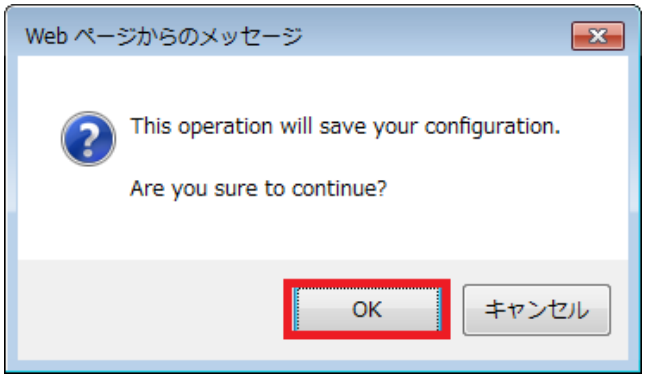
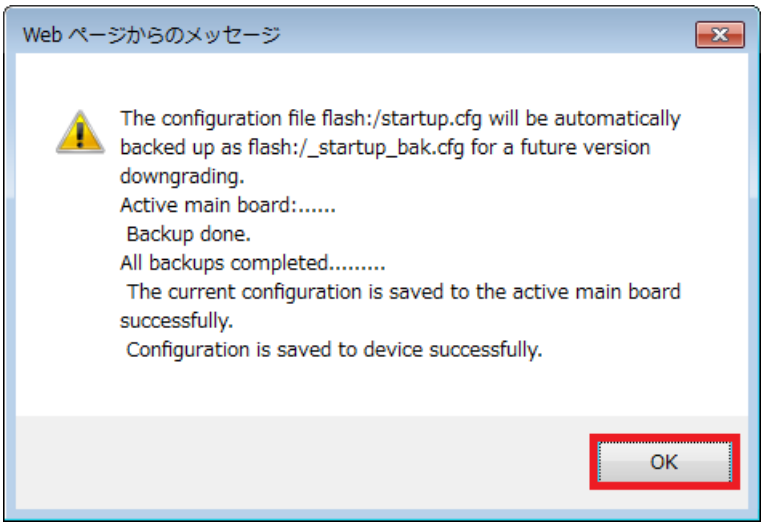


図 3-39 コンフィグレーションファイルの保存完了ダイアログ



3.5.4 設定の初期化

“Configuration”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Initialize”をクリックします。図 3-40に示すような画面が表示されます。

“Restore Factory-Default Settings”をクリックします。図 3-41に示すような“OK”をクリックします。

⚠ **注意：**

装置は自動で再起動します。Web インタフェースに接続する場合、Web コンソールへの接続の設定を行い、再度装置にログインしてください。

図 3-40 設定の初期化

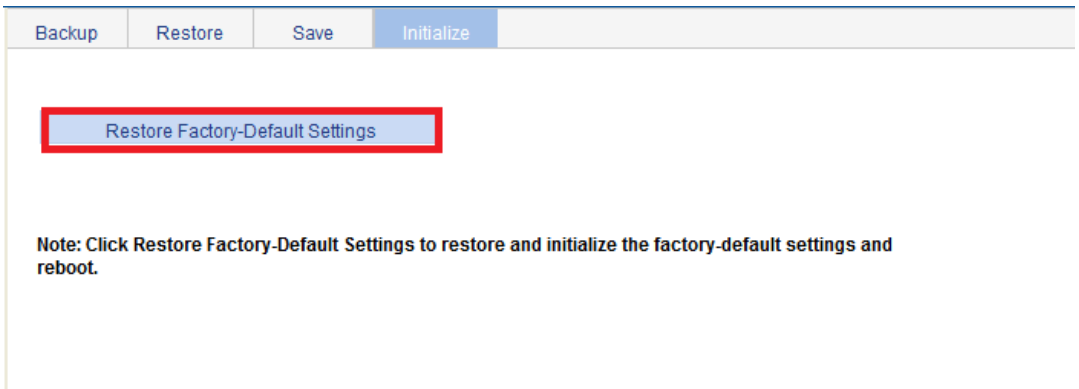
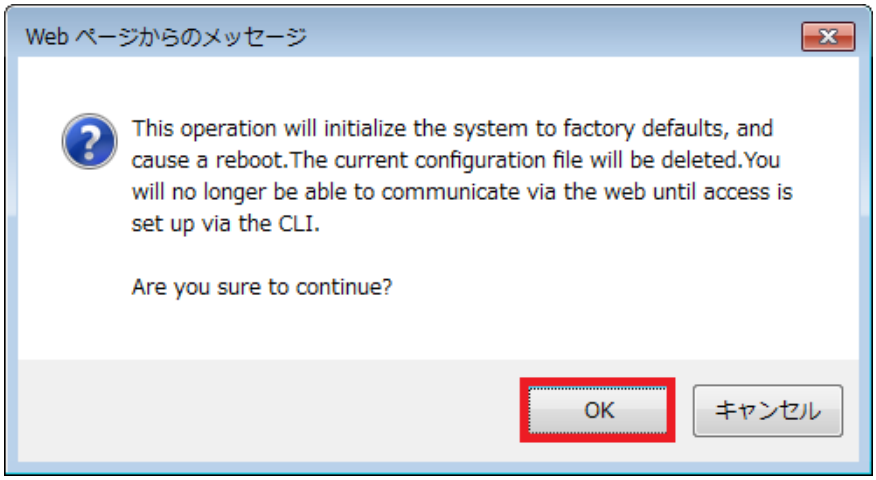


図 3-41 初期化の確認ダイアログ



3.6 ファイル管理

“Device” メニューのサブ設定、情報メニューで “File Management” をクリックします。フラッシュメモリのファイル設定、表示を行います。

図 3-42 File Management の選択

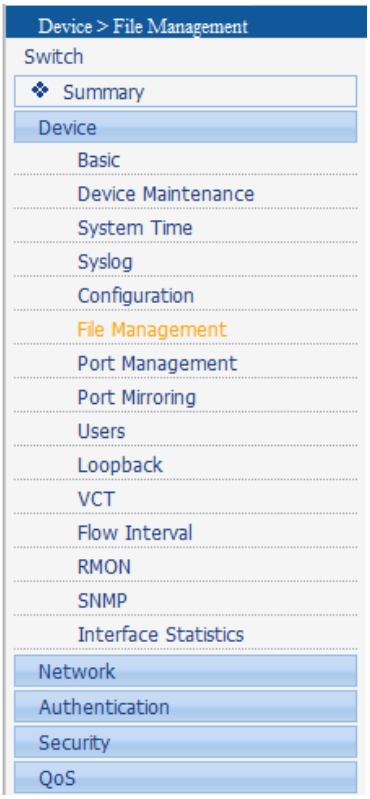
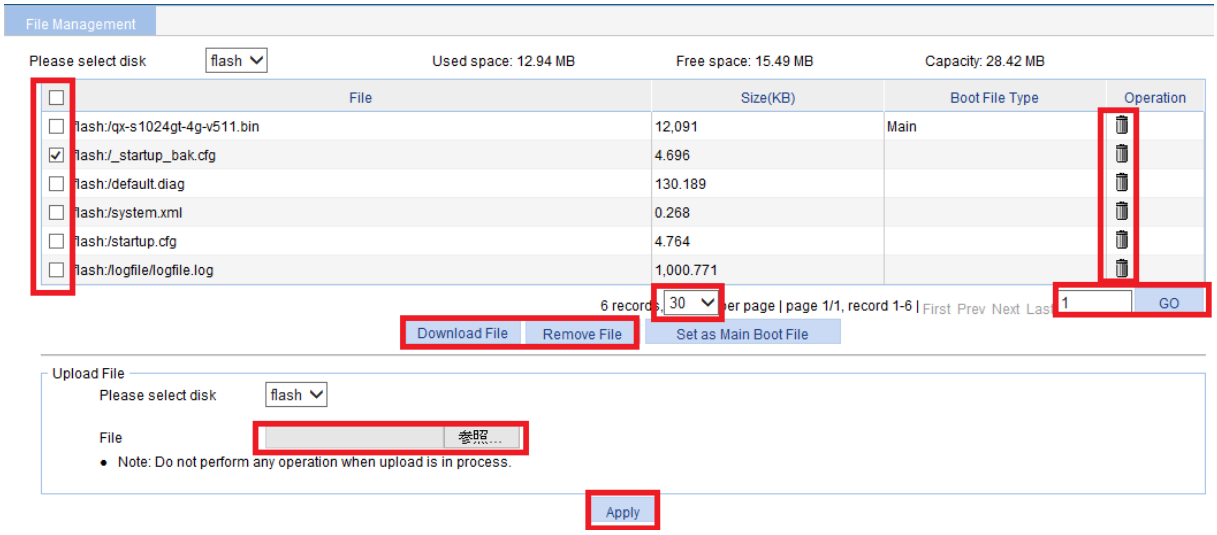


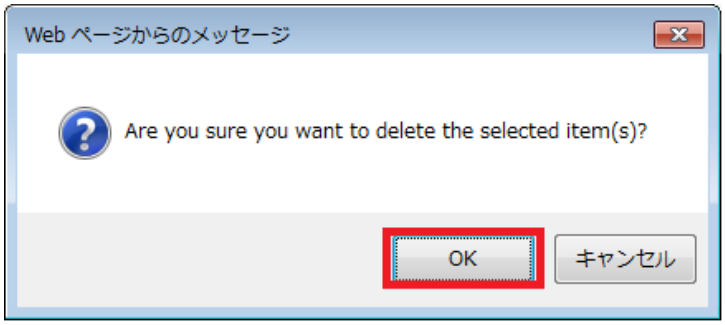
図 3-43に示すような画面が表示されます。

図 3-43 フラッシュメモリのファイル画面



フラッシュメモリのファイルを削除する場合、ファイル名の左側の□マークをチェックし、“Remove File”を選択します。あるいは右側のごみ箱をクリックします。図 3-44に示すようなフラッシュメモリの削除確認ダイアログが表示されます。“OK”をクリックします。

図 3-44 フラッシュメモリのファイル削除確認ダイアログ



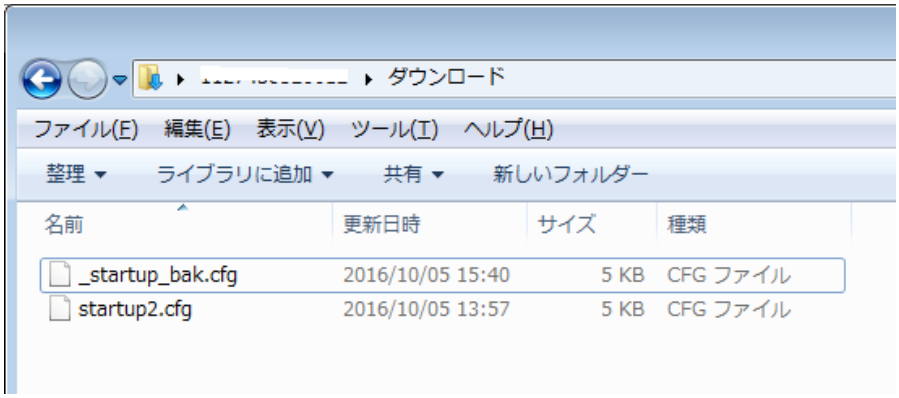
フラッシュメモリのファイルをダウンロードする場合、以下の手順を実行します。

1) ファイル名の左側の□をチェックします。“Download File”を選択します。図 3-45に示すような確認ダイアログが表示されます。
2) “保存”をクリックします。図 3-45に示すようにダウンロードファイルの処理を促すダイアログが表示されます。
3) “フォルダを開く”をクリックします。図 3-47に示すように“_startup_bak.cfg”ファイルが保存されたフォルダを表示します。

図 3-45 フラッシュメモリのダウンロード確認ダイアログ

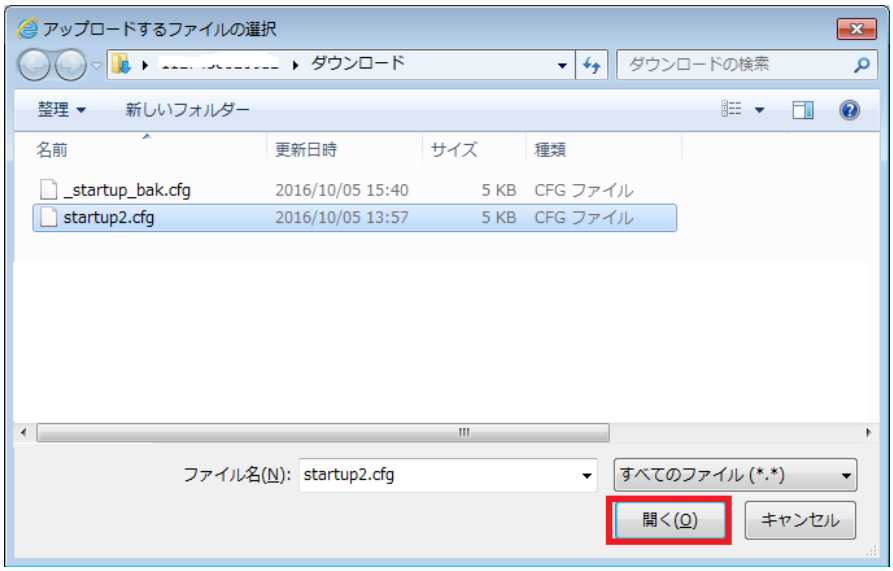
図 3-46 フラッシュメモリのダウンロード処理ダイアログ

図 3-47 ダウンロードフォルダ



フラッシュメモリのファイルをアップロードする場合、“Upload File”の“参照”をクリックします。図 3-47に示すようにアップロードするファイルを選択し、“開く”をクリックし、“Apply”をクリックします。

図 3-48 フラッシュメモリのアップロード



3.7 ポート管理

“Device” メニューのサブ設定、情報メニューで “Port Management” をクリックします。

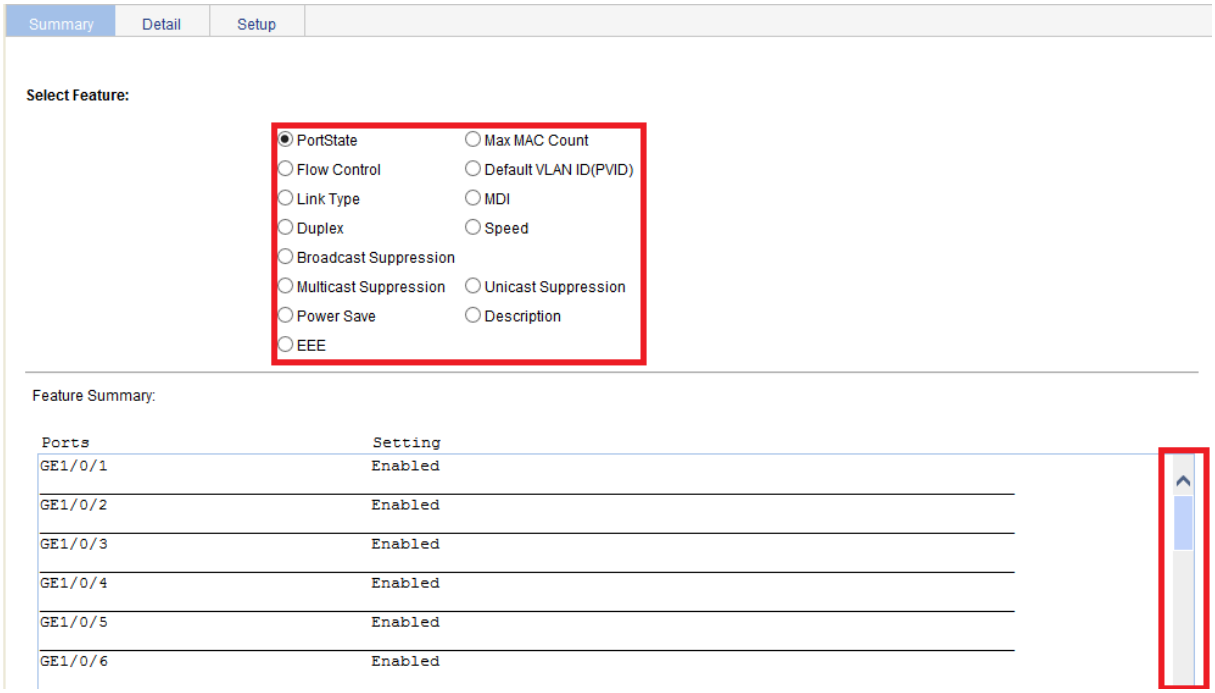
Ethernet インタフェースの設定、表示を行います。

3.7.1 ポート概要表示

“Port Management” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Summary” をクリックします。図 3-49に示すような画面が表示されます。

“Select Feature:” を選択すると、“Feature Summary:” 画面に該当する状態を表示します。右側のスクロールボタンを使用してポート情報を表示します。

図 3-49 ポート状態の概要表示

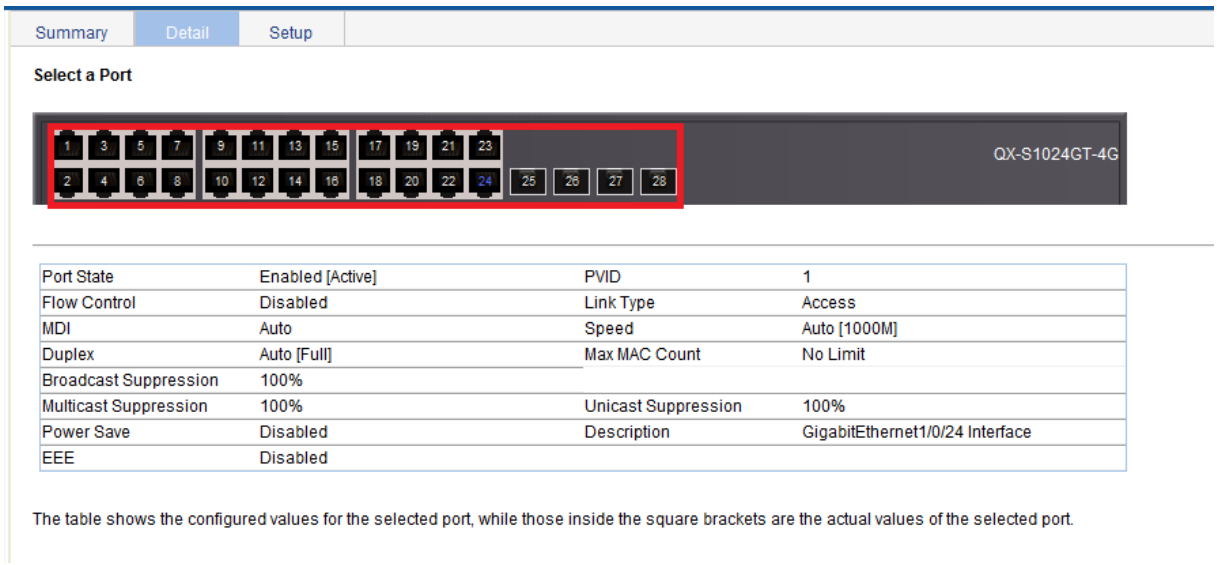


3.7.2 ポート詳細表示

“Port Management”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Detail”をクリックします。図 3-50に示すような画面が表示されます。

装置前面のポートを選択します。ポートの各設定状態を表示することができます。

図 3-50 ポート状態の詳細表示

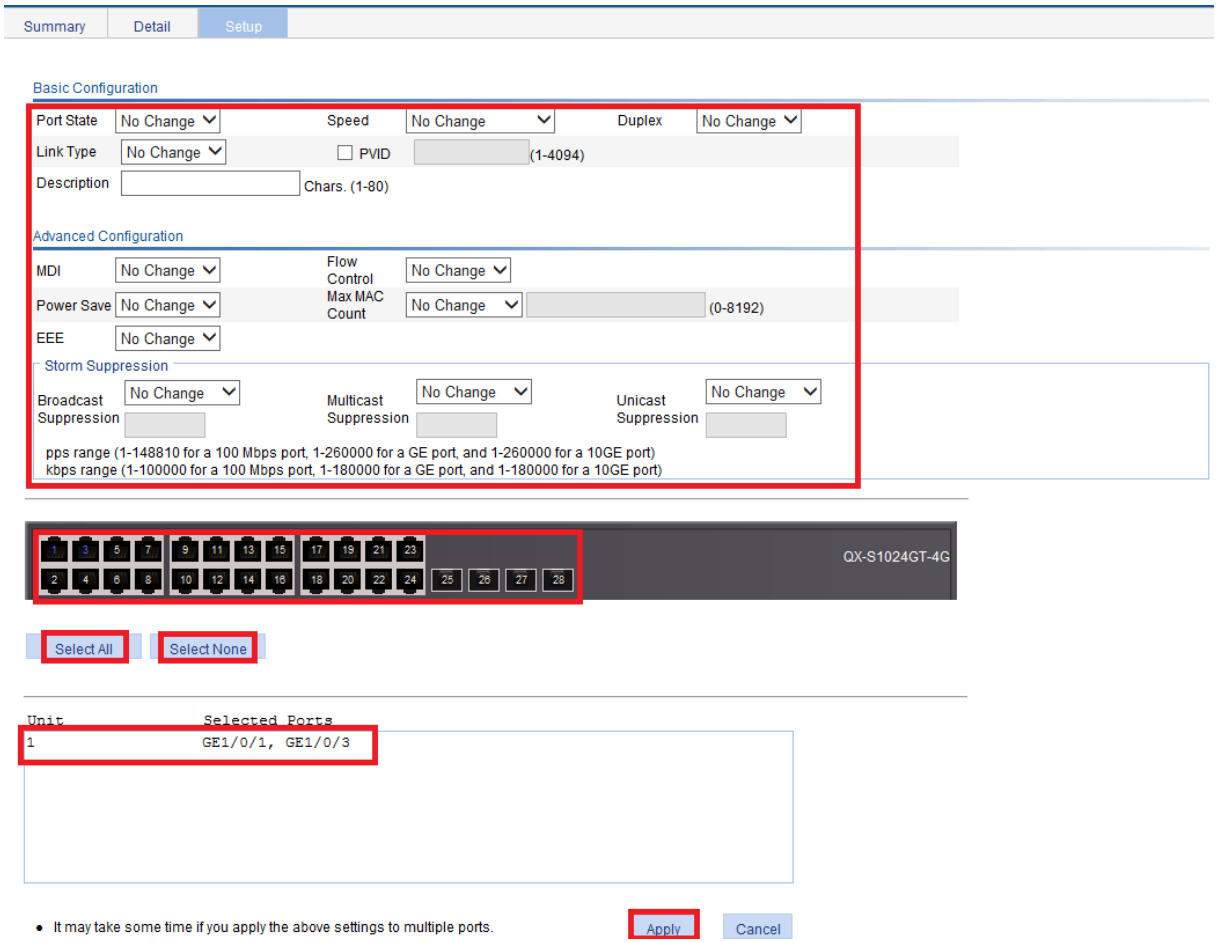


3.7.3 ポートの設定

“Port Management” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Setup” をクリックします。図 3-51に示すような画面が表示されます。

ポートの設定を表示することができます。

図 3-51 ポート設定

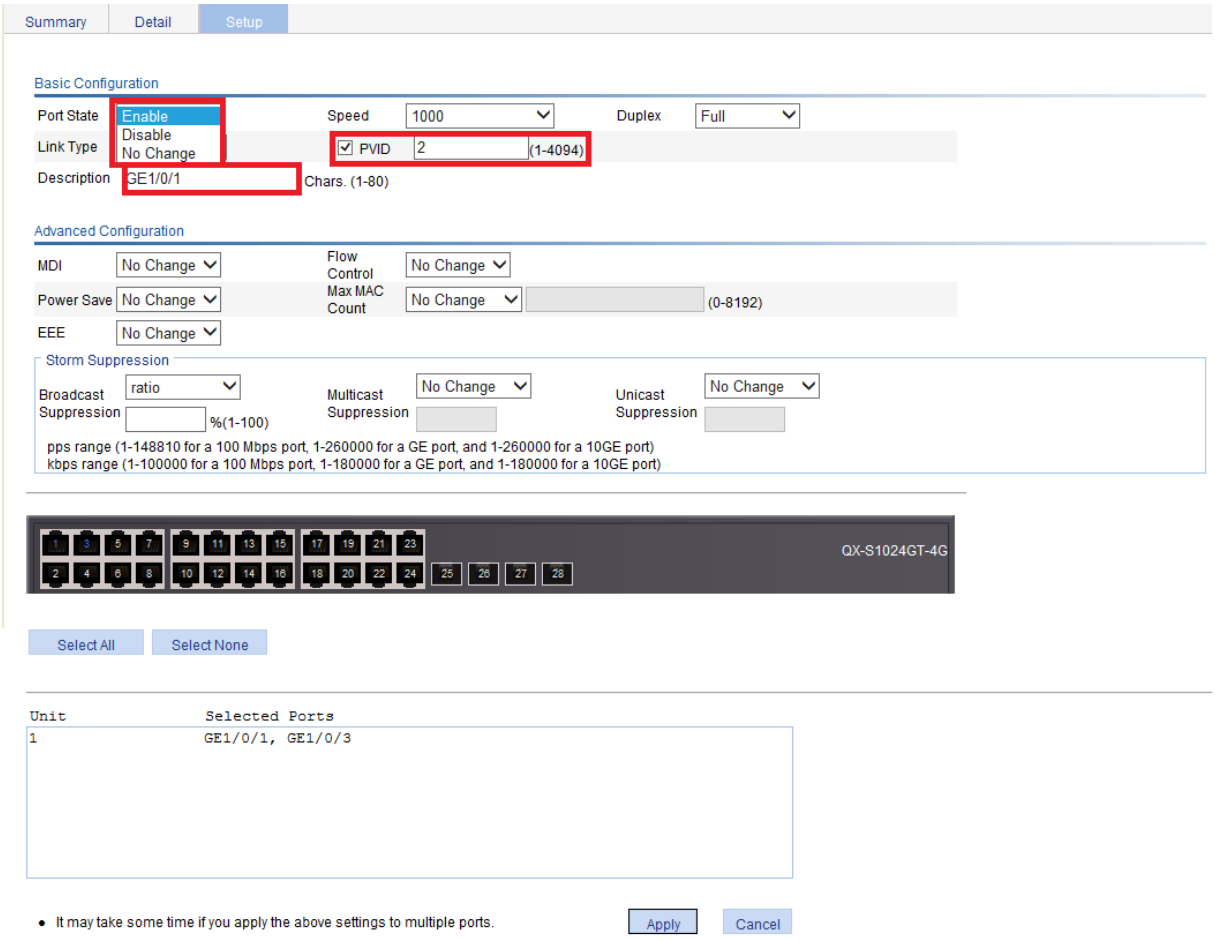


1) 装置前面のポートを選択します。あるいは “Select All” をクリックします。選択したポートは装置外観の下にリストアップされます。
2) “Basic Configuration”、“Advanced Configuration”、“Storm Suppression” を設定することができます。図 3-52にポート GE1/0/1、GE1/0/3 の設定を行う例を示します。

   設定を選択する場合、リストから選択します。たとえば、図 3-52では Port State が “Enable”、“Disable”、“No Change” から設定を選択できます。

   設定を入力する場合、項目をチェックし、値を入力します。たとえば、図 3-52では PVID の項目をチェックし、値を入力します。
3) “Apply” をクリックします。

図 3-52 ポート設定の画面

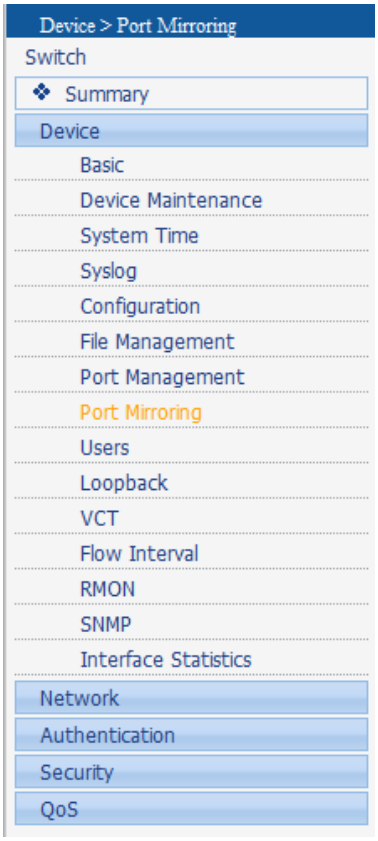


3.8 ポートミラーリング

“Device”メニューのサブ設定、情報メニューで“Port Mirroring”をクリックします。

ポートミラーリングの設定、表示を行います。

図 3-53 ポートミラーリングの選択

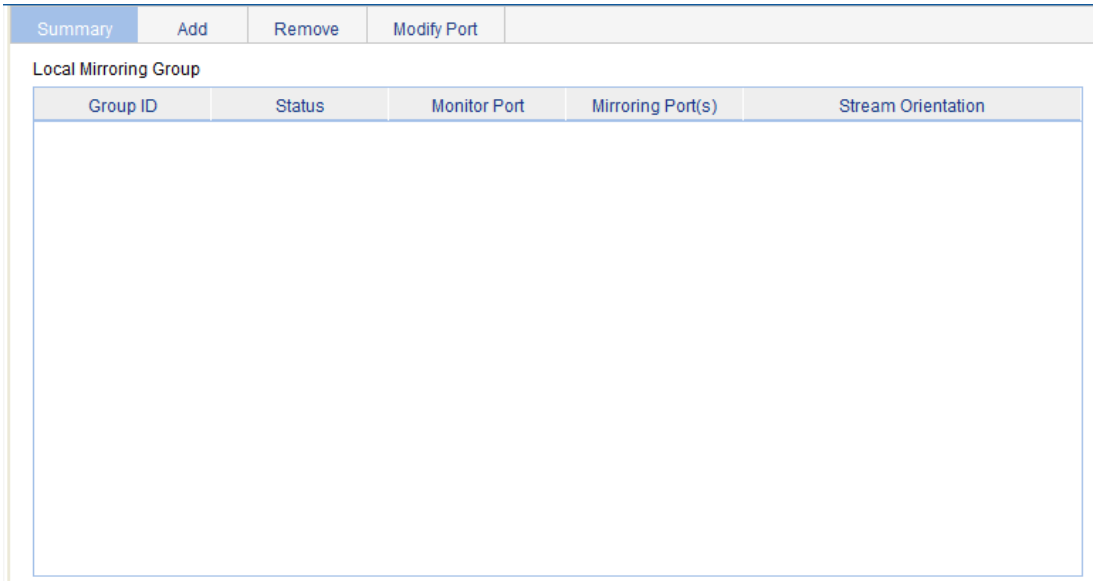


3.8.1 ポートミラーリングの概要

“Port Mirroring”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Summary”をクリックします。図 3-54に示すような画面が表示されます。

ポートミラーリングの設定を表示します。

図 3-54 ポートミラーリングの概要

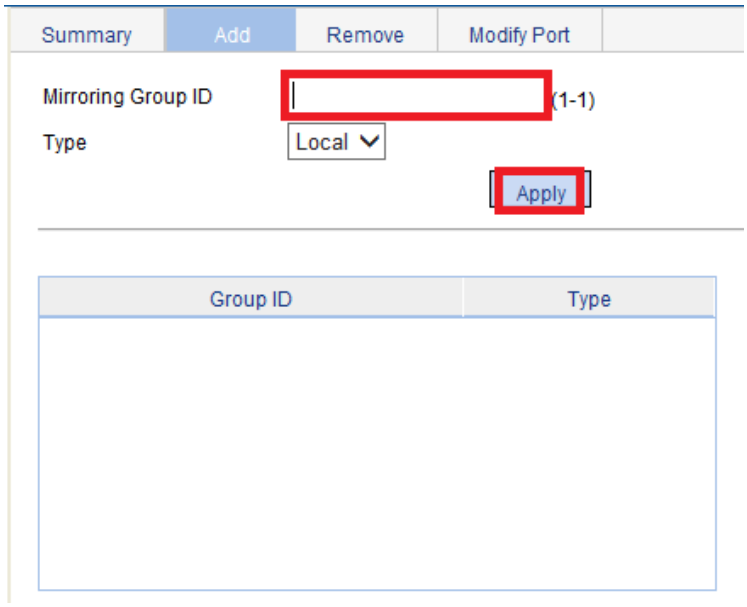


3.8.2 ローカルミラーリンググループの追加

“Port Mirroring”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Add”をクリックします。図 3-55に示すような画面が表示されます。

1) “Mirroring Group ID”に 1 を入力します。
2) “Apply”をクリックします。

図 3-55 ローカルミラーリンググループの追加



3.8.3 ローカルミラーリンググループの削除

“Port Mirroring”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Remove”をクリックします。図 3-56に示すような画面が表示されます。

1) “Group ID”で“1”を選択します。あるいは“Select All”をクリックします。
2) “Remove”をクリックします。図 3-57に示すようなローカルミラーリンググループの削除の確認ダイアログが表示されます。“OK”をクリックします。

図 3-56 ローカルミラーリンググループの削除

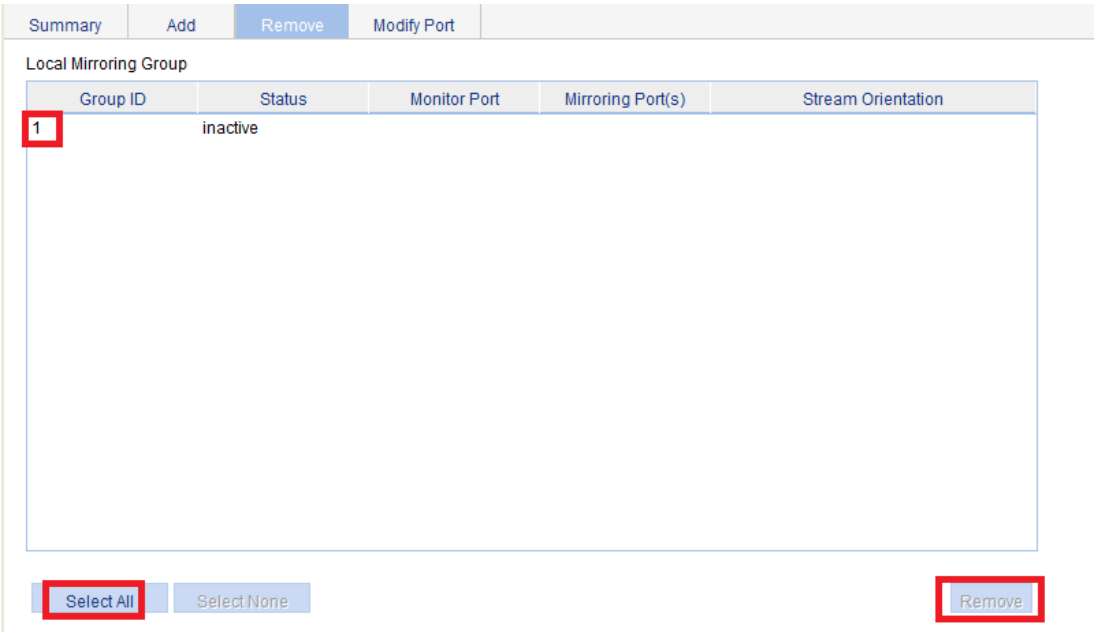
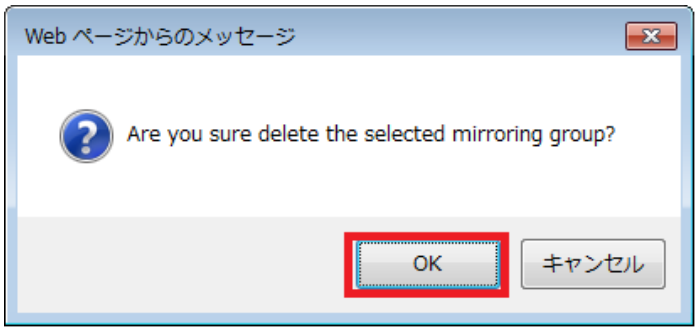


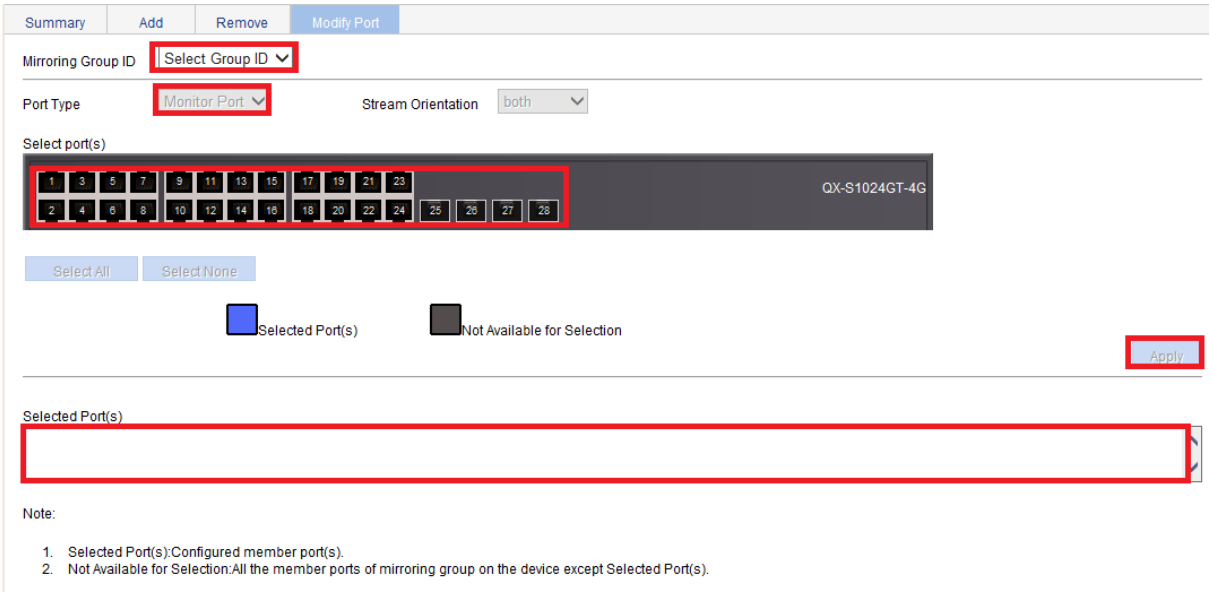
図 3-57 ローカルミラーリンググループの削除の確認ダイアログ



3.8.4 ポートの追加

“Port Mirroring”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Modify Port”をクリックします。図 3-58に示すような画面が表示されます。モニタポートとソースポートの両方を設定します。

図 3-58 ポートの追加



1) モニタポートにポートを追加します。

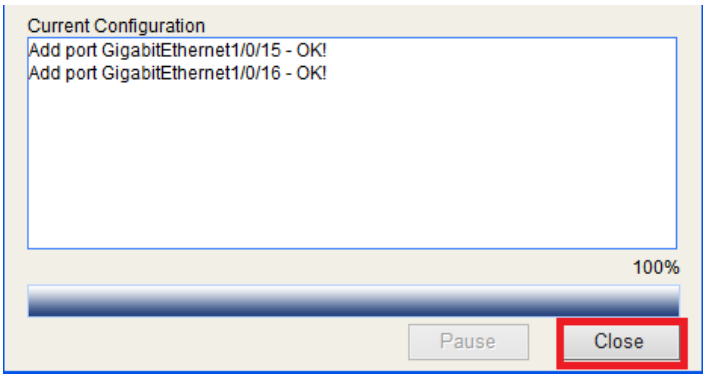
a) “Mirroring Group ID”で“1-Local”を選択します。

b) “Port Type”で“Monitor Port”を選択します。

c) 装置外面で該当するポートをクリックします。

d) “Apply”をクリックします。図 3-59に示すようにポートの追加確認メッセージが表示されます。“Close”をクリックします。

図 3-59 ポートの追加確認メッセージ



2) ソースポートにポートを追加します。

a) “Mirroring Group ID”で“1-Local”を選択します。

b) “Port Type”で“Mirror Port”を選択します。

c) “Stream Orientation”で“inbound”を選択します。

d) 装置外面で該当するポートをクリックします。

e) “Apply”をクリックします。図 3-59に示すようにポートの追加確認メッセージが表示されます。“Close”をクリックします。

3.9 ローカルユーザ設定

“Device”メニューのサブ設定、情報メニューで“Users”をクリックします。

ローカルユーザの追加、削除、ユーザ権限レベルの変更を行います。

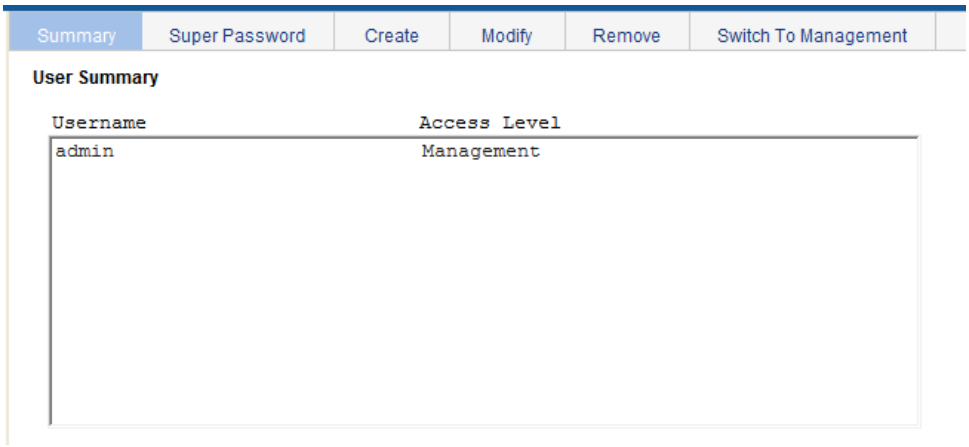
図 3-60 ローカルユーザの選択

3.9.1 ローカルユーザの概要

“Users”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Summary”をクリックします。図 3-61に示すような画面が表示されます。

ローカルユーザを表示します。

図 3-61 ローカルユーザの概要



3.9.2 ユーザ権限レベルのパスワードの設定

“Users”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Super Password”をクリックします。図 3-62に示すような画面が表示されます。

1) ユーザ権限レベルのパスワードを作成します。

a) “Create”をクリックします。

b) “パスワードをPassword”に入力します。確認のためパスワードを“Confirm Password”に再度入力します。

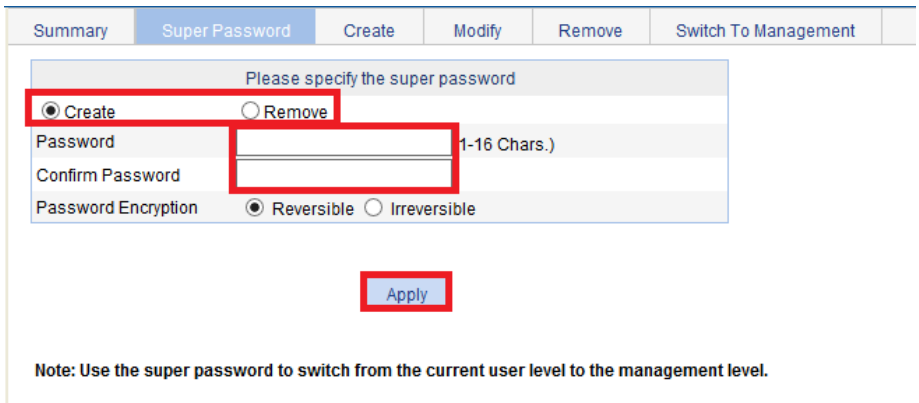
c) “Apply”をクリックします。

2) ユーザ権限レベルのパスワードを削除します。

a) “Create”をクリックします。

b) “Apply”をクリックします。

図 3-62 ユーザ権限レベルのパスワードの設定



3.9.3 ログインユーザの作成

“Users” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Create” をクリックします。図 3-63 に示すような画面が表示されます。

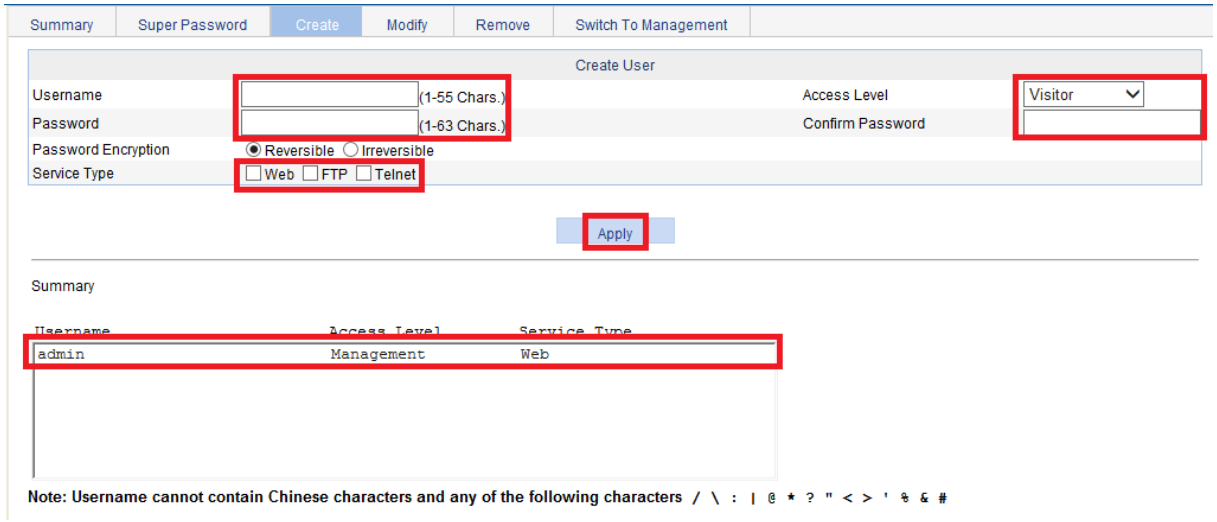
1) ユーザ名を “Username” に入力します。
2) ユーザの権限レベルを “Access Level” に設定します。

   ユーザ権限レベルは visit=0、monitor=1、system=2、manage=3 の 4 つに分類されています。

3) パスワードを “Password” に入力します。確認のため再度パスワードを “Confirm Password” に入力します。
4) サービスタイプを “Web”、“FTP”、“Telnet” から選択します。
5) “Apply” をクリックします。

作成されたログインユーザは “Summary” に表示されます。

図 3-63 ログインユーザの作成



3.9.4 ログインユーザの変更

“Users” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Modify” をクリックします。図 3-64 に示すような画面が表示されます。

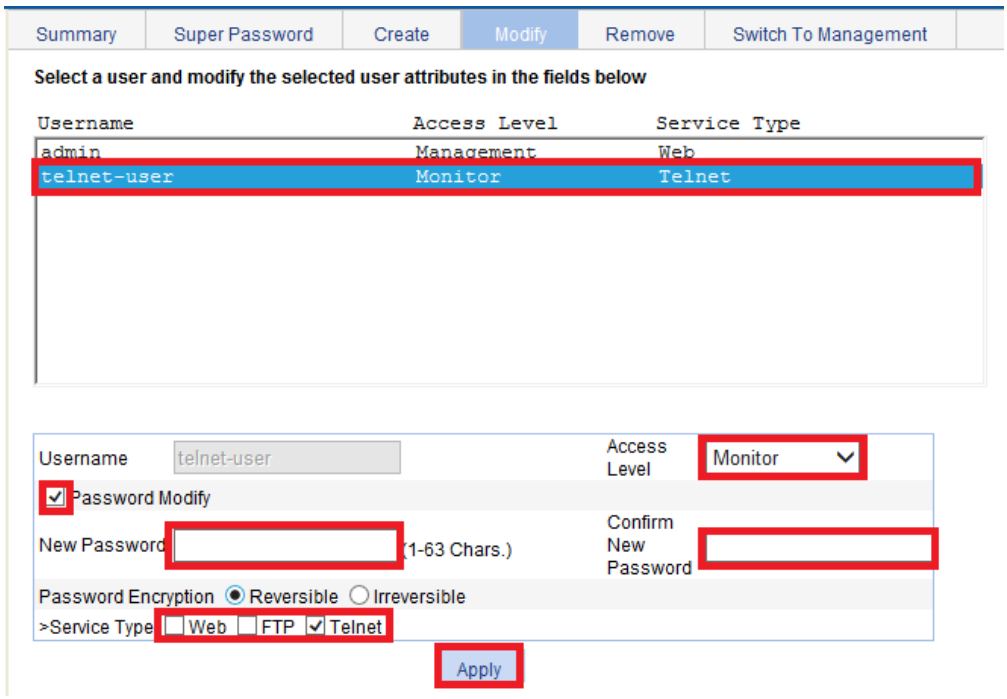
ログインユーザのユーザの権限レベル、パスワード、サービスタイプを変更することができます。

1) 変更するログインユーザをクリックします。
2) 変更するパラメータを選択します。

- ユーザの権限レベルを変更する場合、“Access Level” を選択します。
- パスワードを変更する場合、“Password Modify” をクリックします。パスワードを “New Password” に入力します。確認のためパスワードを “Confirm New Password” に再度入力します。
- サービスタイプを変更する場合、“Web”、“FTP”、“Telnet” から選択します。

3) “Apply” をクリックします。

図 3-64 ログインユーザの変更



3.9.5 ログインユーザの削除

“Users” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Remove” をクリックします。図 3-65 に示すような画面が表示されます

1) 削除するログインユーザをクリックします。
2) “Apply” をクリックします。図 3-66に示すようなログインユーザの削除確認ダイアログが表示されます。

図 3-65 ログインユーザの削除

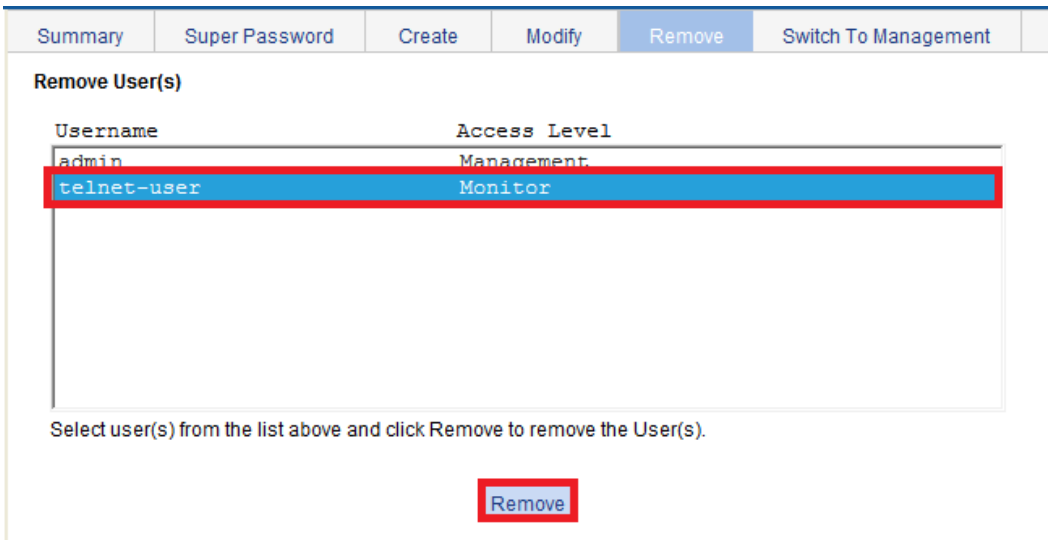
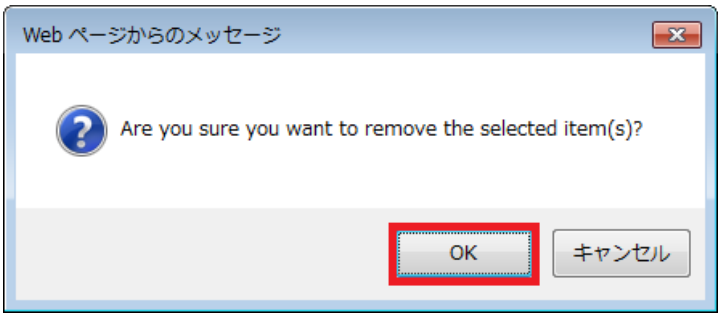


図 3-66 ログインユーザの削除確認ダイアログ

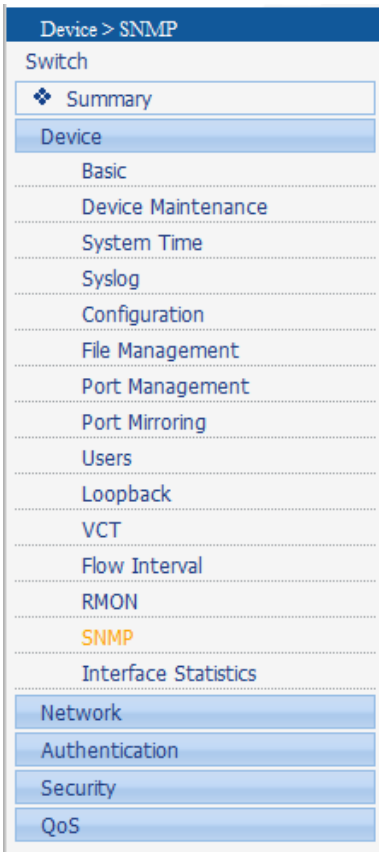


3.10 SNMP

“Device” メニューのサブ設定、情報メニューで “SNMP” をクリックします。

SNMP の設定、表示を行います。

図 3-67 SNMP の選択



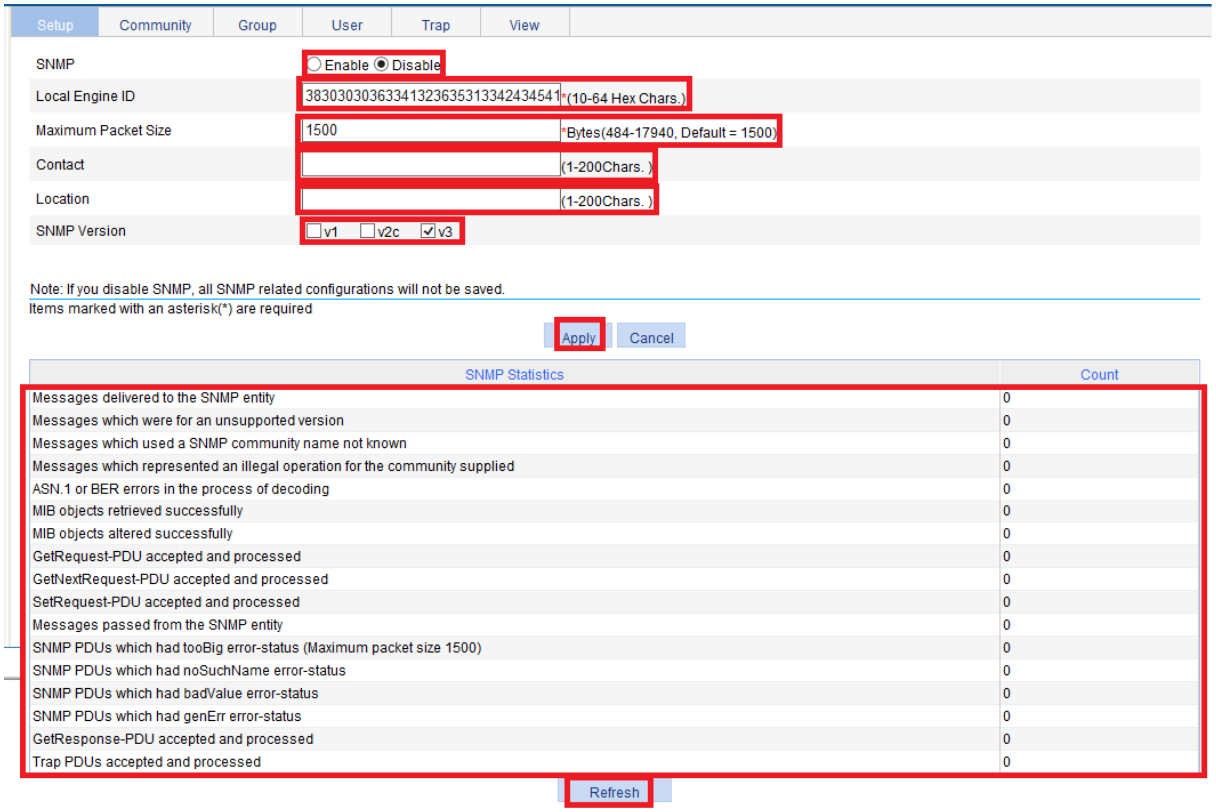
3.10.1 SNMP の設定

“SNMP” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Setup” をクリックします。図 3-68 に示すような画面が表示されます。

1) “SNMP” を有効にするかどうか選択します。
2) “Local Engine ID” を入力します。
3) “Maximum Packet Size” を入力します。
4) “Contact” を入力します。
5) “Location” を入力します。
6) “SNMP Version” を選択します。
7) “Apply” をクリックします。

“Refresh” をクリックすると統計情報を更新します。

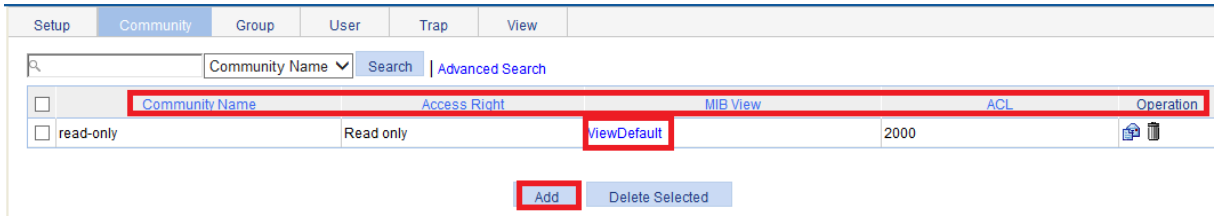
図 3-68 SNMP の設定



3.10.2 SNMP コミュニティの設定

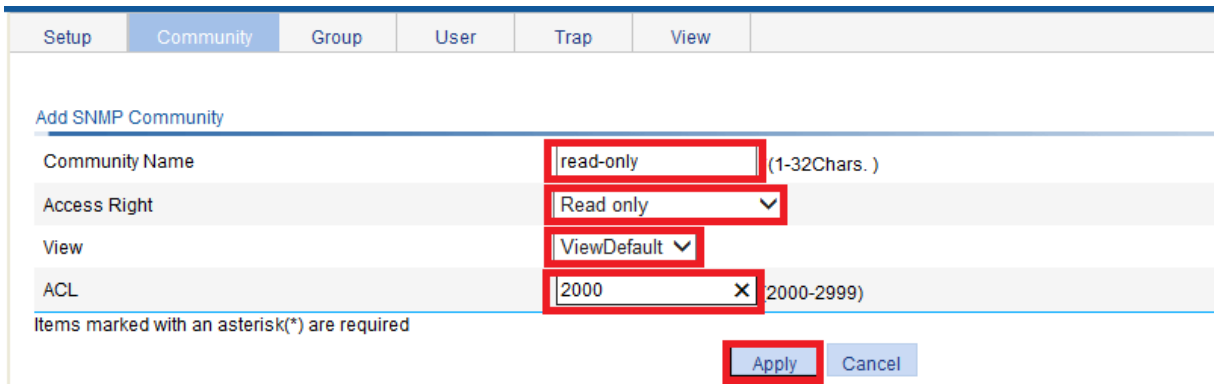
“SNMP”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Community”をクリックします。図 3-69に示すような画面が表示されます。

図 3-69 SNMP コミュニティの設定



1) ”Add“をクリックします。図 3-70に示すような SNMP コミュニティの追加画面が表示されます。

図 3-70 SNMP コミュニティの追加



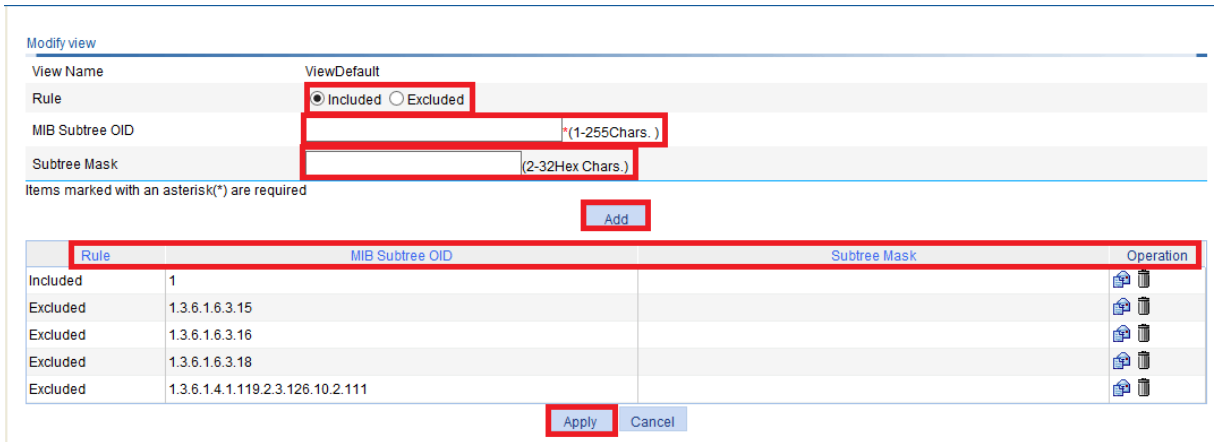
2) “Community Name” を入力します。
3) “Access Right” を選択します。
4) “View” を選択します。
5) “ACL” を入力します。
6) “Apply” をクリックします。

“Operation” の編集マークをクリックすると SNMP コミュニティを変更することができます。“Operation” のごみ箱マークをクリックすると SNMP コミュニティを削除することができます。

“Community Name”、“Access Right”、“MIB View”、“ACL”、“Operation” クリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

“MIB View” の “ViewDefault” をクリックすると図 3-71に示すような MIB view の変更画面が表示されます。

図 3-71 MIB View の変更画面



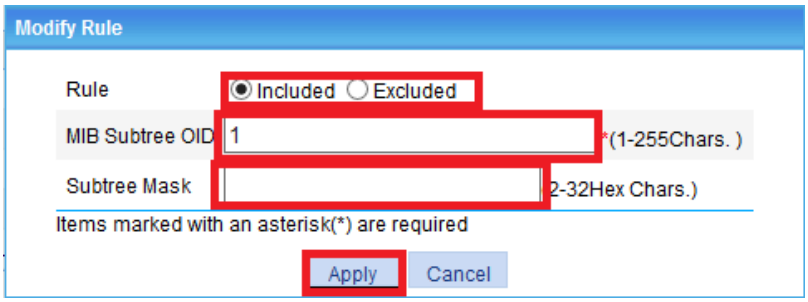
1) “Rule” を選択します。
2) “MIB Subtree OID” を入力します。
3) “Subtree Mask” を入力します。
4) “Add” をクリックします。

5)　“Apply” をクリックします。

“Rule”、“MIB Subtree OID”、“Subtree Mask”、“Operation” をクリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

“Operation” の編集マークをクリックすると図 3-72に示すように選択した Rule を直接変更することができます。“Operation” のごみ箱マークをクリックすると Rule を削除することができます。

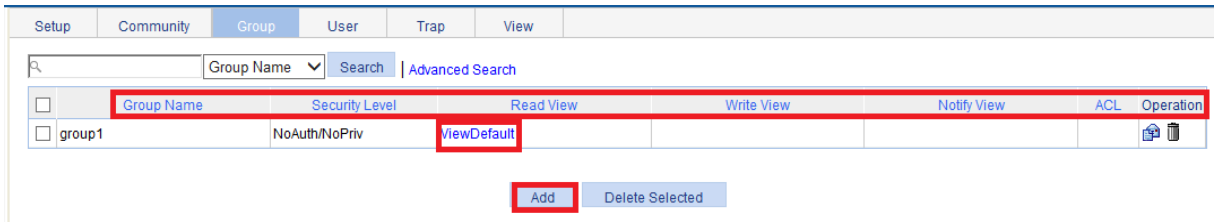
図 3-72 Rule の変更画面



3.10.3 SNMP グループの設定

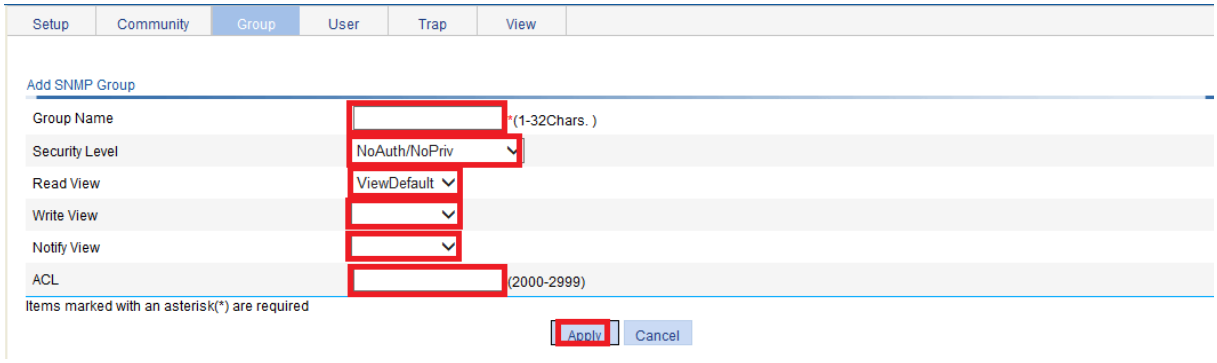
“SNMP” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Group” をクリックします。図 3-73 に示すような画面が表示されます。

図 3-73 SNMP グループの設定



1)　” Add “をクリックします。図 3-74に示すような SNMP コミュニティの追加画面が表示されます。

図 3-74 SNMP グループの追加



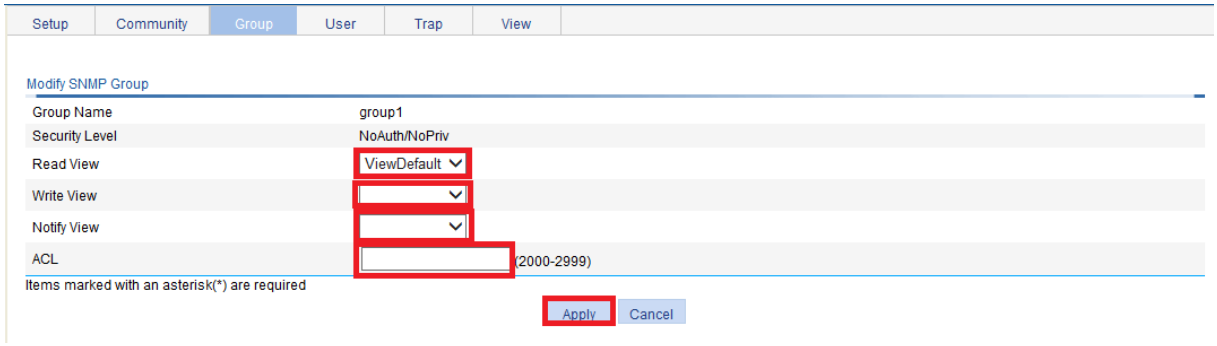
2) “Group Name” を入力します。
3) “Severity Level” を選択します。
4) “Read View” を選択します。
5) “Write View” を選択します。
6) “Notify View” を選択します。
7) “ACL” を入力します。
8) “Apply” をクリックします。

各 “View” の “ViewDefault” をクリックすると図 3-71に示すような MIB View の変更画面が表示されます。

“Group Name”、Severity Level”、“Read View”、“Write View”、“Notify View”、“ACL”、“Operation” をクリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

“Operation” の編集マークをクリックすると図 3-75に示すような SNMP グループの変更画面が表示されます。“Operation” のごみ箱マークをクリックすると SNMP グループを削除することができます。

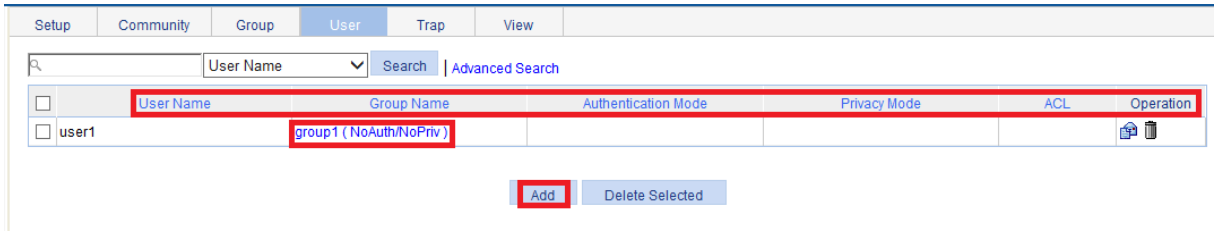
図 3-75 SNMP グループの変更画面



3.10.4 SNMP ユーザの設定

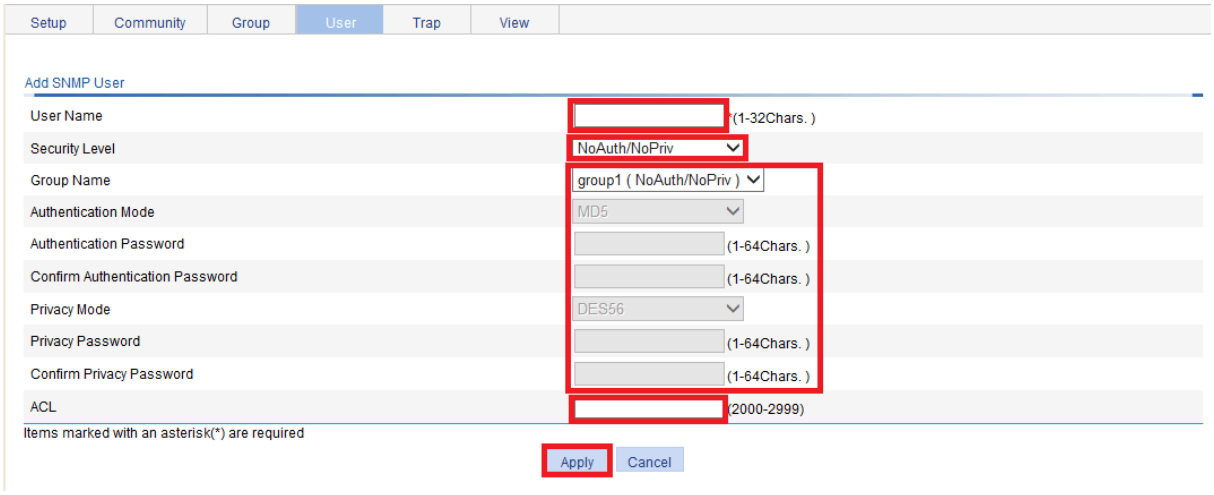
“SNMP” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “User” をクリックします。図 3-76 に示すような画面が表示されます。

図 3-76 SNMP ユーザの設定



1) ”Add“をクリックします。図 3-77に示すような SNMP ユーザの追加画面が表示されます。

図 3-77 SNMP ユーザの追加



2) “User Name”を入力します。
3) “Severity Level”を選択します。Severity Level によって必要な 5）～10）を設定します。

“Auth/NoPriv”を選択した場合、“Authentication Mode”、“Authentication Password”、“Confirm Authentication Password”を入力します。

“Auth/Priv” を選択した場合、“Authentication Mode”、“Authentication Password”、“Confirm Authentication Password”、“Privacy Mode”、“Privacy Password”、“Confirm Privacy Password”を入力します。

“NoAuth/NoPriv”を選択した場合、“Authentication Mode”、“Authentication Password”、“Confirm Authentication Password”、“Privacy Mode”、“Privacy Password”、“Confirm Privacy Password”は設定しません。

4) “Group Name”を入力します。
5) “Authentication Mode”を選択します。
6) “Authentication Password”を入力します。
7) “Confirm Authentication Password”を入力します。
8) “Privacy Mode”を選択します。
9) “Privacy Password”を入力します。
10) “Confirm Privacy Password”を入力します。

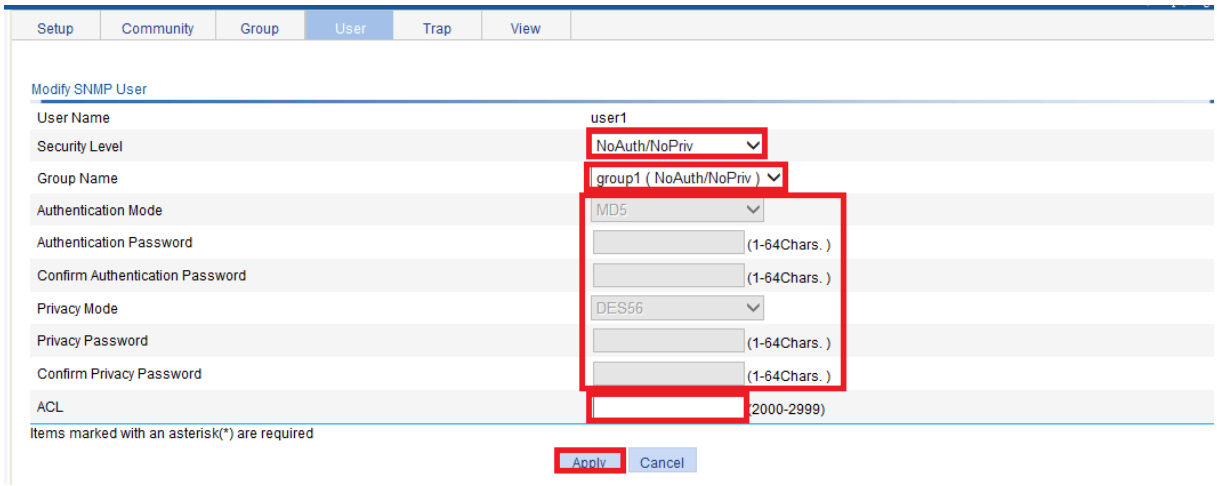
11)　“ACL”を入力します。
12)　“Apply”をクリックします。

“User Name”、“Group Name”、“Authentication Mode”、“Privacy Mode”、“ACL”、“Operation”をクリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

“Group Name”のグループをクリックすると図 3-77に示すような SNMP ユーザの追加画面が表示されます。

“Operation”の編集マークをクリックすると図 3-78に示すような SNMP グループの変更画面が表示されます。“Operation”のごみ箱マークをクリックすると SNMP グループを削除することができます。

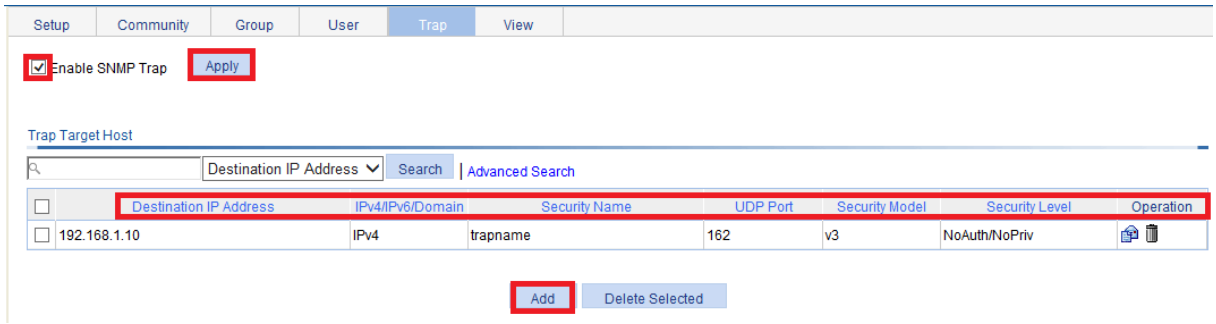
図 3-78 SNMP ユーザの変更画面



3.10.5 SNMP トラップの設定

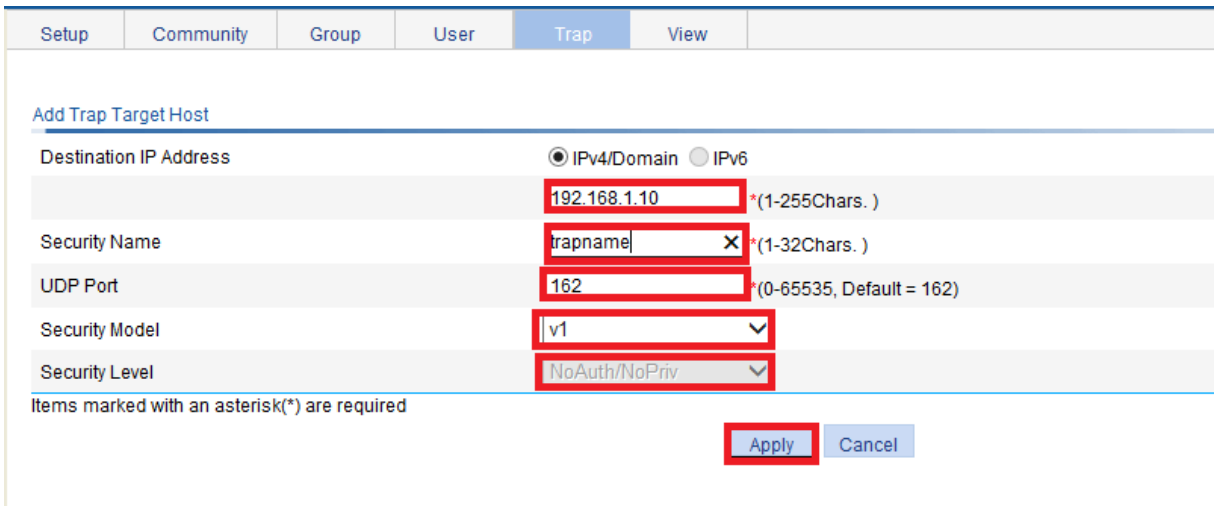
“SNMP”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Trap”をクリックします。図 3-79に示すような画面が表示されます。

図 3-79 SNMP トラップの設定



1)　”Add“をクリックします。図 3-80に示すような SNMP トラップの追加画面が表示されます。

図 3-80 SNMP トラップの追加



2) “Destination IP Address” を入力します。
3) “Security Name” を入力します。
4) “UDP Port” を入力します。
5) “Security Model” を選択します。“Security Model” によって必要な “Security Level” を設定します。

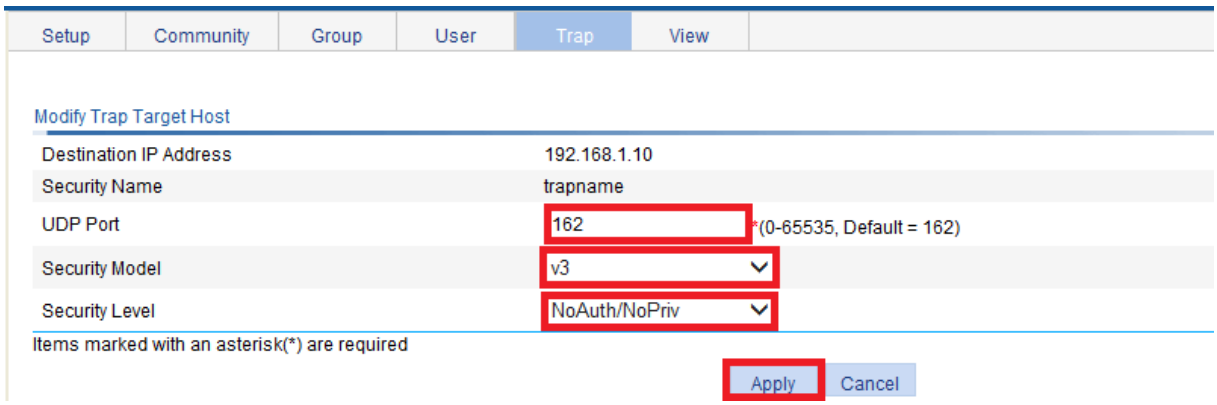
   “v1”、“v2c” を選択した場合、“Security Level” は設定しません。

   “v3” を選択した場合、“Security Level” を設定します。
6) “Apply” をクリックします。SNMP トラップの設定画面に戻ります。
7) “Enable SNMP Trap “をクリックします。
8) “Apply” をクリックします。

“Destination IP Address”、“Security Name”、“UDP Port”、“Security Model”、“Operation” をクリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

“Operation” の編集マークをクリックすると図 3-81に示すような SNMP トラップの変更画面が表示されます。“Operation” のごみ箱マークをクリックすると SNMP トラップを削除することができます。

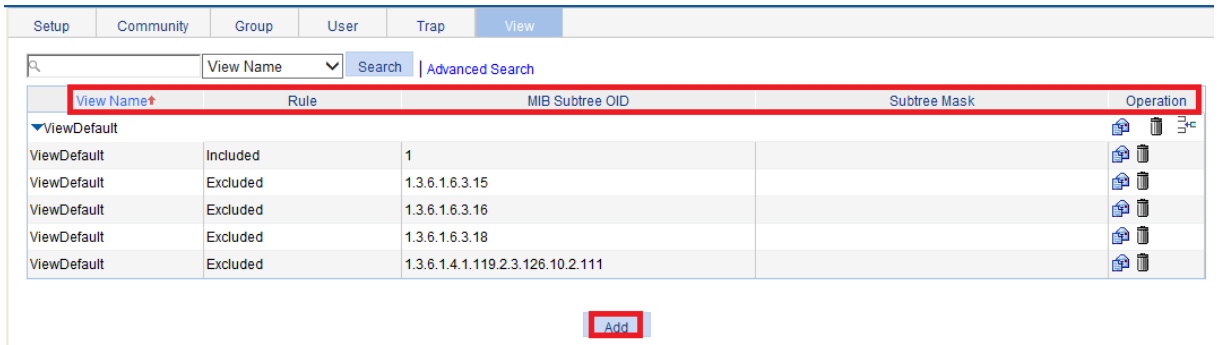
図 3-81 SNMP トラップの変更画面



3.10.6 SNMP の表示

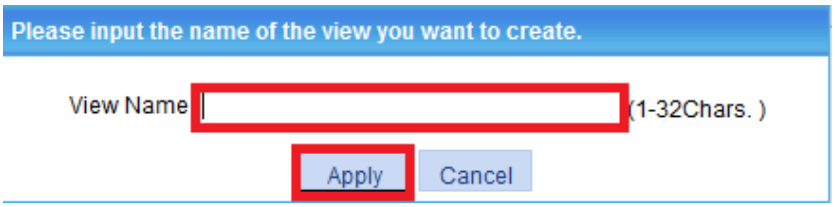
“SNMP” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “View” をクリックします。図 3-82 に示すような画面が表示されます。

図 3-82 SNMP の表示



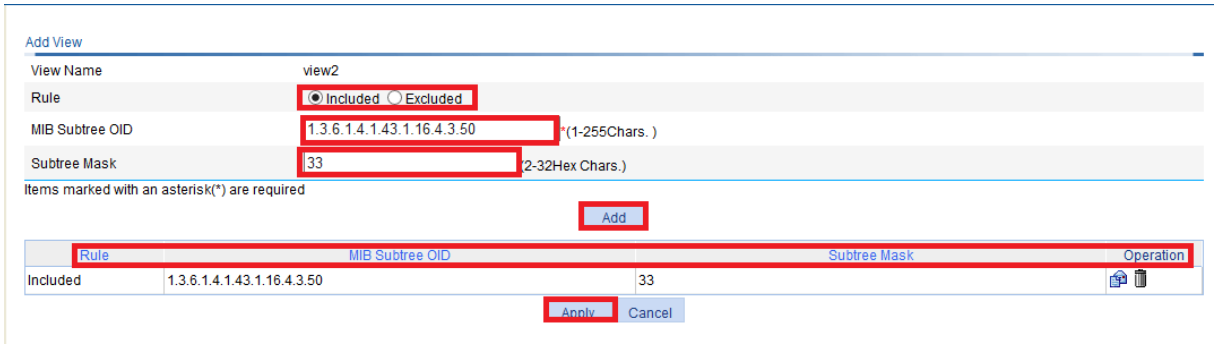
1) ” Add “をクリックします。図 3-83に示すような View の追加画面が表示されます。

図 3-83 View の追加



2) View の追加画面で新しい View 名を入力します。
3) “Apply” をクリックします。図 3-84に示すような View の追加設定画面が表示されます。

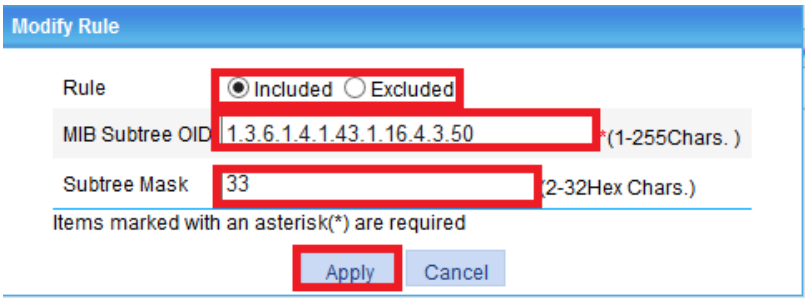
図 3-84 View の追加設定画面



4)　“Rule”、“Rule MIB Subtree OID”、“Subtree Mask”、“Operation” を入力します。
5)　” Add “をクリックします。

“Operation” の編集マークをクリックすると図 3-85に示すような指定 View のルール変更画面が表示されます。“Operation” のごみ箱マークをクリックすると指定した View を削除することができます。

図 3-85 指定 View のルール変更画面



6)　View が追加されるため、“Apply” をクリックします。

“Rule”、“Rule MIB Subtree OID”、“Subtree Mask”、“Operation” をクリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

“Operation” の編集マークをクリックすると図 3-86に示すような View の変更画面が表示されます。“Operation” のごみ箱マークをクリックすると View を削除することができます。“Operation” の追加マークをクリックすると図 3-87に示すような指定 View のルール追加画面が表示されます。

図 3-86 View の変更画面

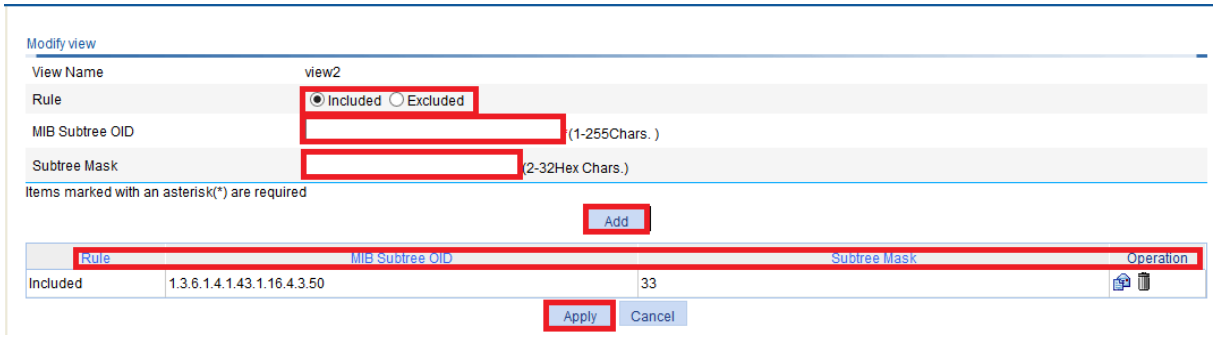
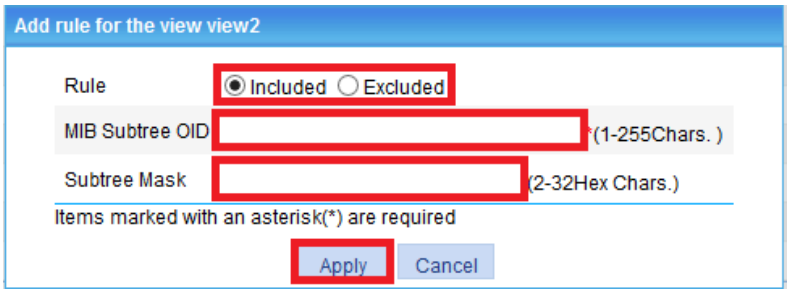


図 3-87 指定 View のルール追加画面



3.11 Ethernetインタフェースの統計情報

“Device” メニューのサブ設定、情報メニューで “Interface Statistics” をクリックします。

Ethernet インタフェースの統計情報を表示します。

図 3-88 Ethernet インタフェースの統計情報の選択

図 3-89に示すような画面が表示されます。

“ Interface Name ”、“ InOctets ”、“ InUcastPkts ”、“ InDiscards ”、“ InErrors ”、“ InUnknownProtos ”、“ OutOctets ”、“ OutUcastPkts ”、“ OutNUcastPkts ”、“OutDiscards”、“OutErrors”、“Last statistics clearing time” をクリックすることで項目ごとにソートすることができます。

Ethernet インタフェースの統計情報を検索することができます。

検索する文字列を入力し、“Interface Name”、“Last statistics clearing time” から選択し、“Search” をクリックします。

図 3-89 Ethernet インタフェースの統計情報

Interface Statistics

Interface Name　Search　| Advanced Search

Interface Name	InOctets	InUcastPkts	InNUcastPkts	InDiscards	InErrors	InUnknownProtos	OutOctets	OutUcastPkts	OutNUcastPkts	OutDiscards	OutErrors	Last statistics clearing time
GigabitEthernet1/0/1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/18	336	4	1	0	0	0	336	4	1	0	0	-
GigabitEthernet1/0/19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/24	8939362	9010	30555	0	0	0	5728568	7861	4269	0	0	-
GigabitEthernet1/0/25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
GigabitEthernet1/0/27	336	4	1	0	0	0	336	4	1	0	0	-
GigabitEthernet1/0/28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
NULL0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
Vlan-interface1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-

30 records, 30 per page | page 1/1, record 1-30 | First Prev Next Last 1 GO

Reset Selected　Reset All

目次

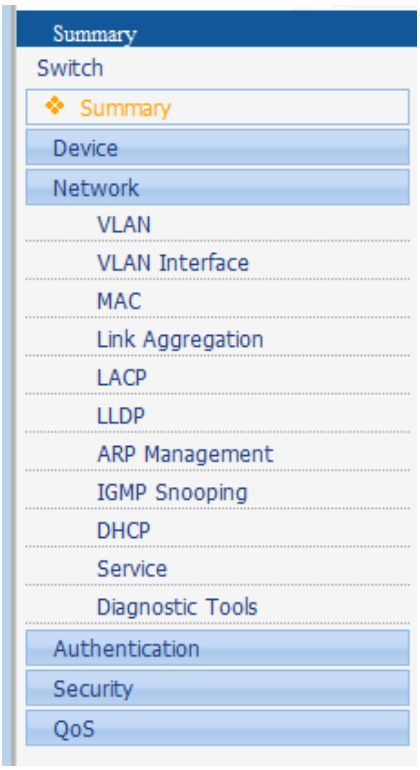
4 章 ネットワーク設定 4-1
4.1 VLAN 4-2
4.1.1 VLAN の選択 4-2
4.1.2 VLAN の作成 4-3
4.1.3 ポートの VLAN 表示 4-4
4.1.4 VLAN の詳細 4-5
4.1.5 VLAN の変更 4-5
4.1.6 ポートの変更 4-6
4.1.7 VLAN の削除 4-7
4.2 VLAN インタフェース 4-8
4.2.1 VLAN インタフェースの概要 4-9
4.2.2 VLAN インタフェースの作成 4-10
4.2.3 VLAN インタフェースの変更 4-11
4.2.4 VLAN インタフェースの削除 4-12
4.3 リンクアグリゲーション 4-13
4.3.1 リンクアグリゲーションの概要 4-14
4.3.2 リンクアグリゲーションインタフェースの作成 4-15
4.3.3 リンクアグリゲーションインタフェースの変更 4-16
4.3.4 リンクアグリゲーションインタフェースの削除 4-17
4.4 LACP 4-18
4.4.1 LACP の概要 4-19
4.4.2 LACP の設定 4-20
4.5 IGMP Snooping 4-21
4.5.1 IGMP Snooping の基本設定 4-22
4.5.2 IGMP Snooping の拡張設定 4-23
4.6 診断ツール 4-23
4.6.1 IPv4 Ping 4-24
4.6.2 IPv4 Traceroute 4-25

4章 ネットワーク設定

設定、情報メニューで“Network”をクリックします。

“Network”メニューには図 4-1に示すように以下のサブ設定、情報メニューがあります。

図 4-1 Network メニューのサブ設定、情報メニュー画面



- **VLAN**－VLAN の設定、表示を行います。
- **VLAN インタフェース（VLAN Interface）**－VLAN インタフェースの設定、表示を行います。
- **MAC**－MAC アドレスの設定、表示を行います。
- **リンクアグリゲーション（Link Aggregation）**－リンクアグリゲーションの設定、表示を行います。
- **LACP**－LACP の設定、表示を行います。
- **LLDP**－LLDP の設定、表示を行います。
- **ARP Management**－ARP テーブル、Gratuitous ARP に関する設定、表示を行います。
- **IGMP Snooping**－IGMP Snooping の設定、表示を行います。
- **DHCP**－DHCP の設定、表示を行います。
- **Service**－FTP、Telnet などのサービスの設定、表示を行います。
- **診断ツール（Diagnostic Tools）**－診断ツールを実行します。

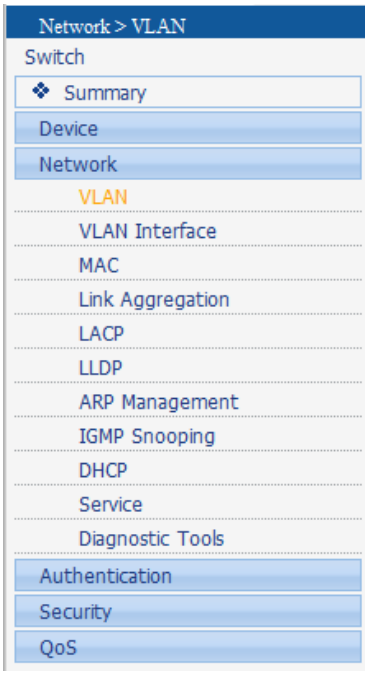
本章では MAC、LLDP、ARP Management、DHCP、Service の記述を省略します。*QX-S1000G シリーズコマンドマニュアル*、*QX-S1000G シリーズオペレーションマニュアル*を参照してください。

4.1 VLAN

“Network”メニューのサブ設定、情報メニューで“VLAN”をクリックします。

VLAN の設定、表示を行います。

図 4-2 VLAN の選択

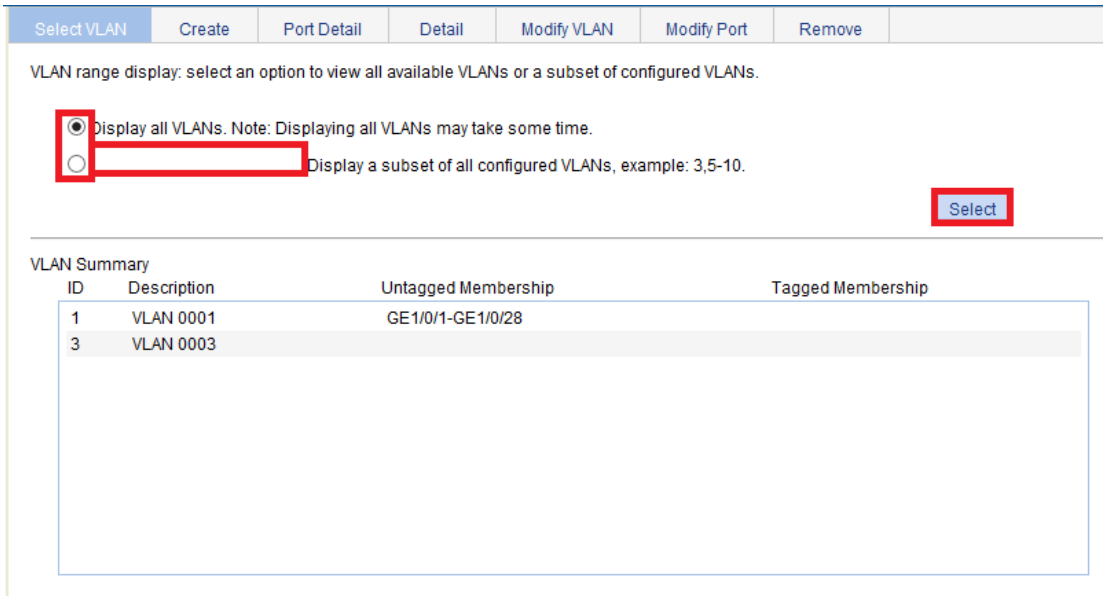


4.1.1 VLAN の選択

“VLAN”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Select VLAN”をクリックします。図 4-3に示すような画面が表示されます。

1) すべての VLAN あるいは指定 VLAN を選択します。
2) 指定 VLAN を選択した場合、VLAN を入力します。
3) “Select”をクリックします。
4) VLAN に割り当てられているインタフェースが表示されます。

図 4-3 VLAN の選択



4.1.2 VLAN の作成

“VLAN” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Create VLAN” をクリックします。図 4-3に示すような画面が表示されます。

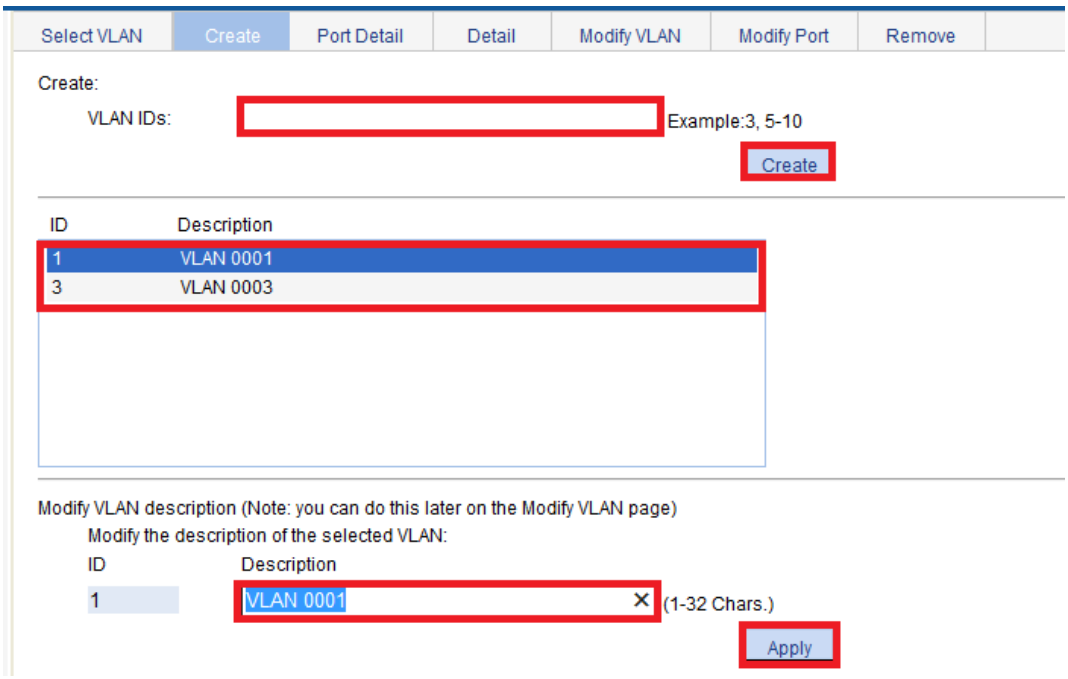
1) “VLAN IDs:” に VLAN ID を入力します。
2) “Create” をクリックします。
3) VLAN ID の説明を変更する場合、

a) 画面中央の “ID” 、あるいは “Description” を選択します。

b) “Modify the description of the selected VLAN:” の “Description” に説明を入力します。

c) “Apply” をクリックします。

図 4-4 VLAN の作成

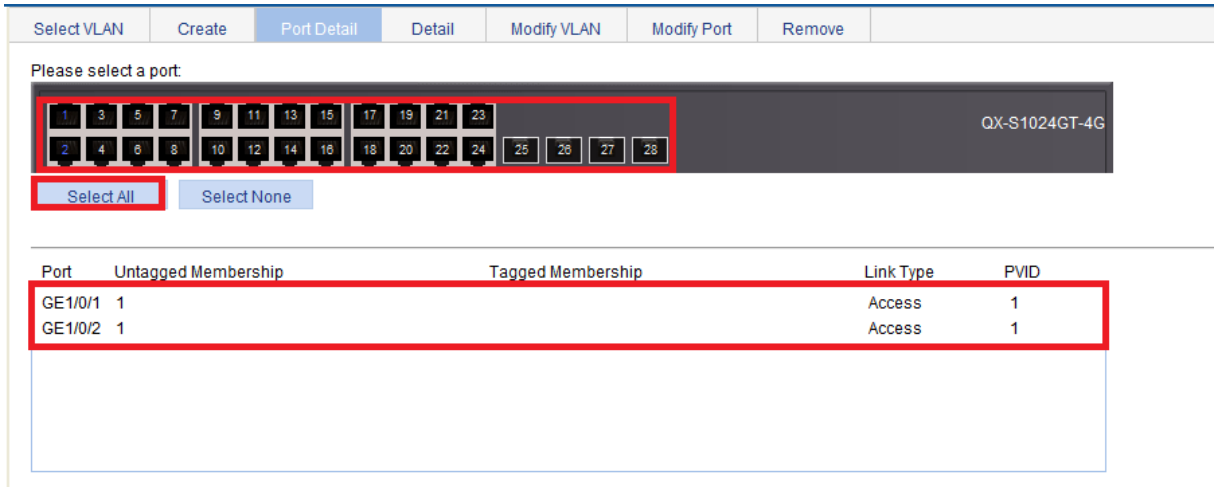


4.1.3 ポートの VLAN 表示

“VLAN”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Port Detail”をクリックします。図 4-5に示すような画面が表示されます。

1) 装置前面のポートを選択します。あるいは“Select All”をクリックします。
2) 選択されたポートの VLAN の詳細情報を表示します。

図 4-5 ポートの VLAN 表示

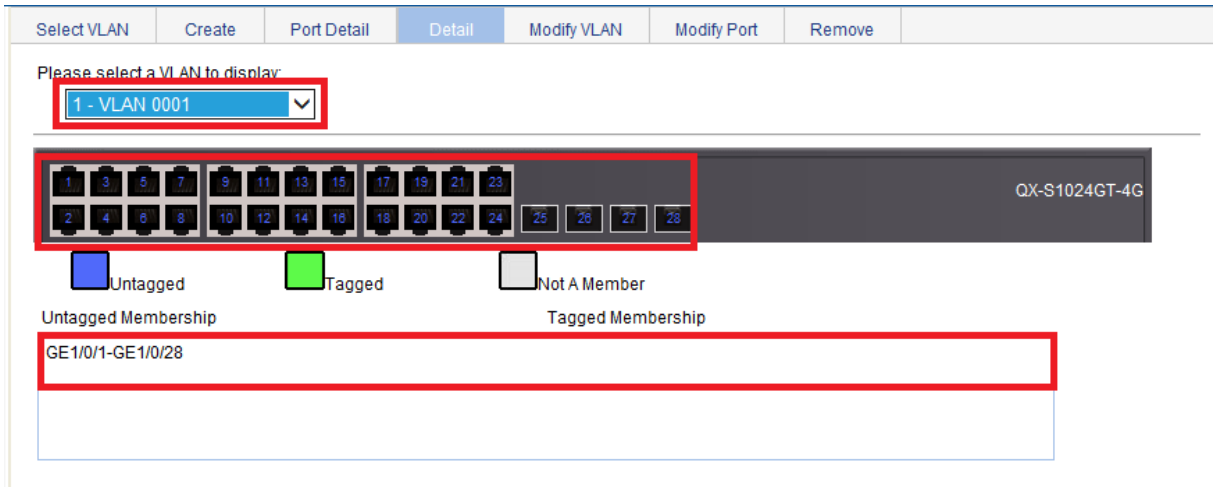


4.1.4 VLAN の詳細

“VLAN”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Detail”をクリックします。図 4-6 に示すような画面が表示されます。

VLAN を選択します。装置前面のポート画面、表に割り当てられたポートを示します。タグなし、タグ付き、VLAN に割り当てなしが表示されます。

図 4-6 VLAN に割り当てられたポート

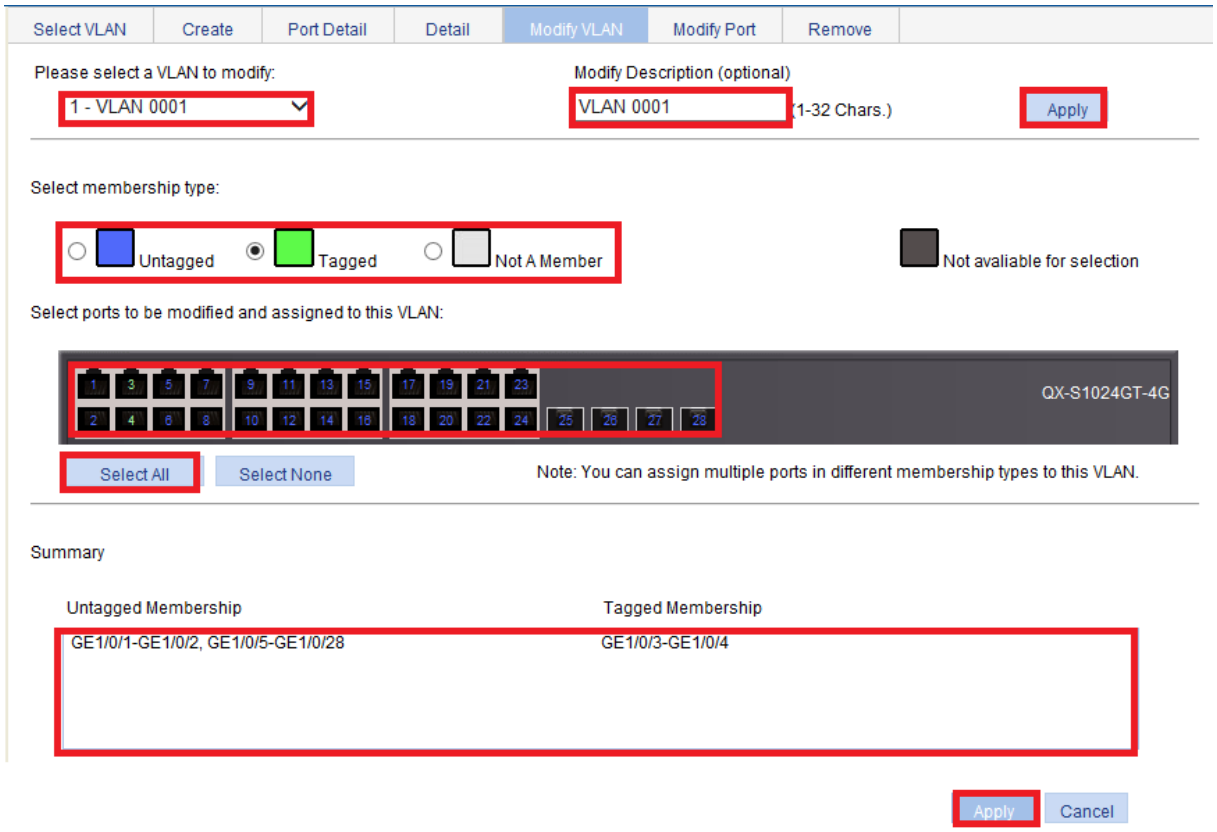


4.1.5 VLAN の変更

“VLAN”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Detail”をクリックします。図 4-7 に示すような画面が表示されます。

1) VLAN を選択します。
2) VLAN の説明を記載します。
3) “Apply”をクリックします。
4) “Select membership type:”を選択します。
5) “Select ports to be modified and assigned to this VLAN:”で装置前面のポートを選択します。あるいは“Select All”をクリックします。
6) 現在のポートの状態が“Summary”に表示されます。
7) “Apply”をクリックします。

図 4-7 VLAN の変更



4.1.6 ポートの変更

“VLAN”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Modify Port”をクリックします。図 4-8に示すような画面が表示されます。

1) 装置前面のポートを選択します。あるいは“Select All”をクリックします。
2) “Select membership type:”を選択します。
3) VLAN を入力します。
4) “Apply”をクリックします。図 4-9に示すようなポートの確認ダイアログが表示されます。
5) “OK”をクリックします。

図 4-8 ポートの変更

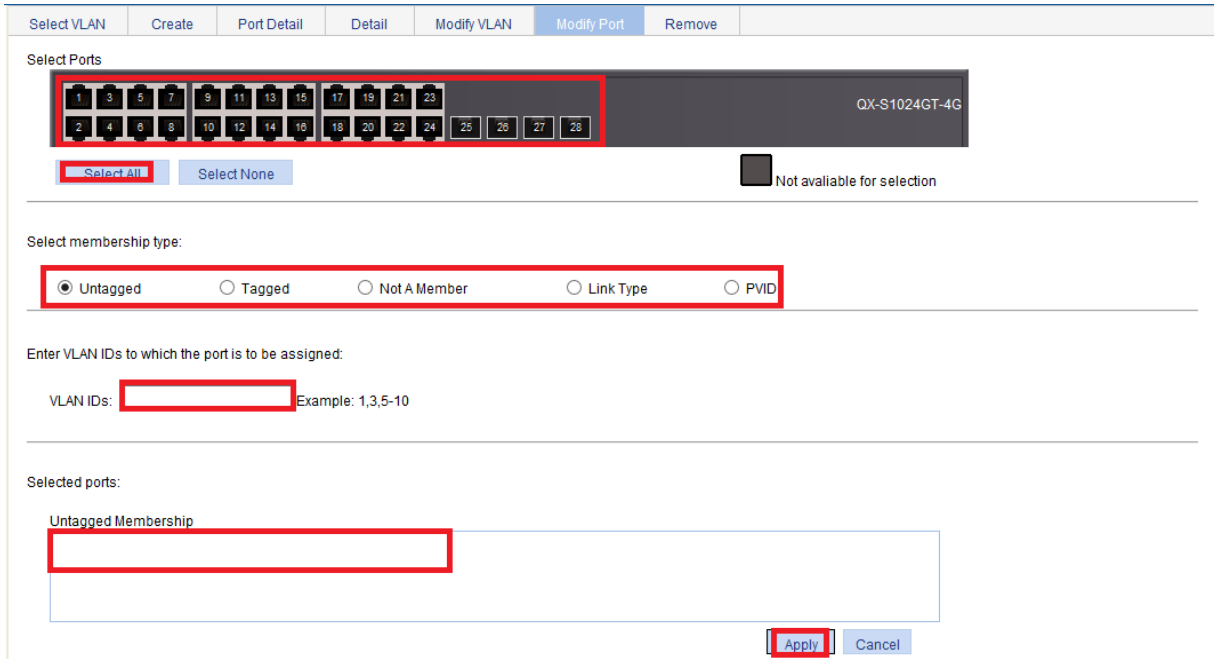
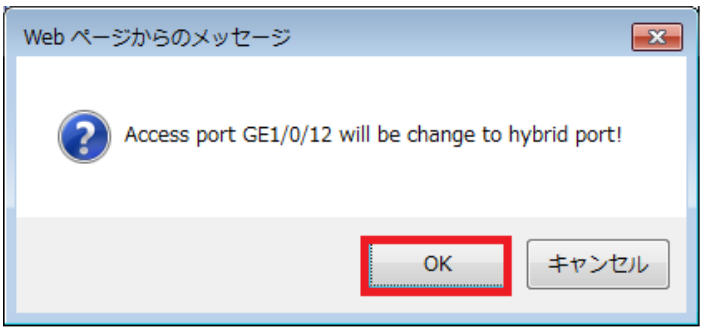


図 4-9 ポートの変更確認ダイアログ



4.1.7 VLAN の削除

“VLAN”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Modify Port”をクリックします。図 4-10に示すような画面が表示されます。

1) “Enter VLAN IDs to remove”で VLAN を入力します。
2) “Remove”をクリックします。

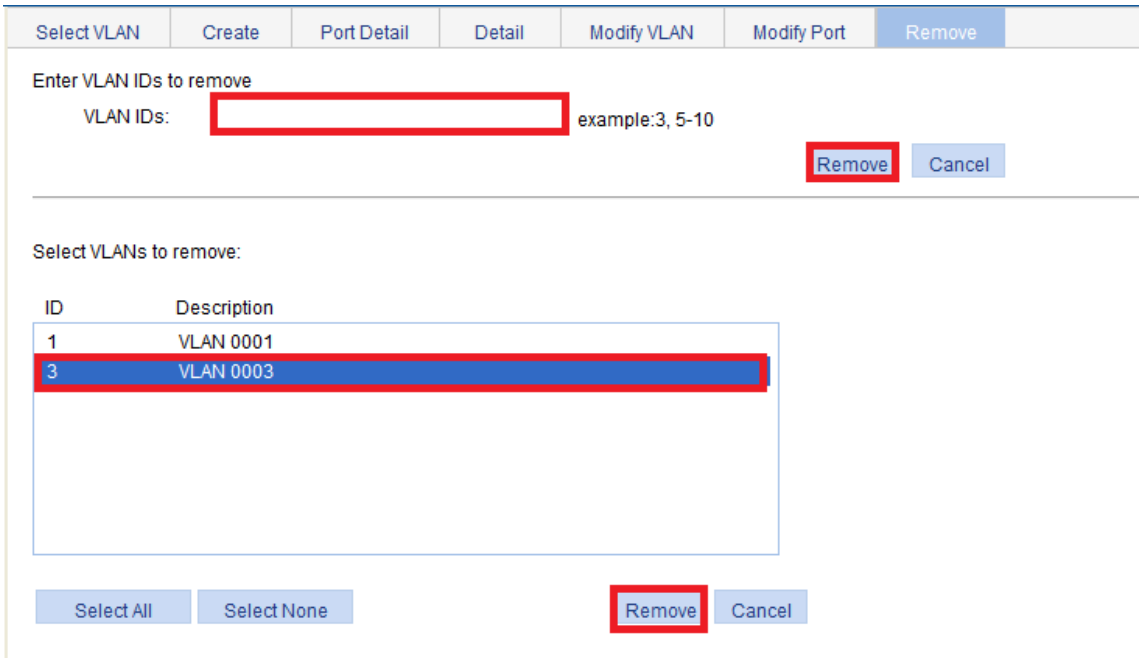
あるいは以下のように VLAN を選択します。

1) “Select VLANs to remove:”の一覧リストから VLAN を選択します。
2) “Remove”をクリックします。

⚠ **注意：**

デフォルト VLAN は削除することができません。

図 4-10 VLAN の削除



4.2 VLANインタフェース

“Network”メニューのサブ設定、情報メニューで“VLAN Interface”をクリックします。

VLAN インタフェースの設定、表示を行います。

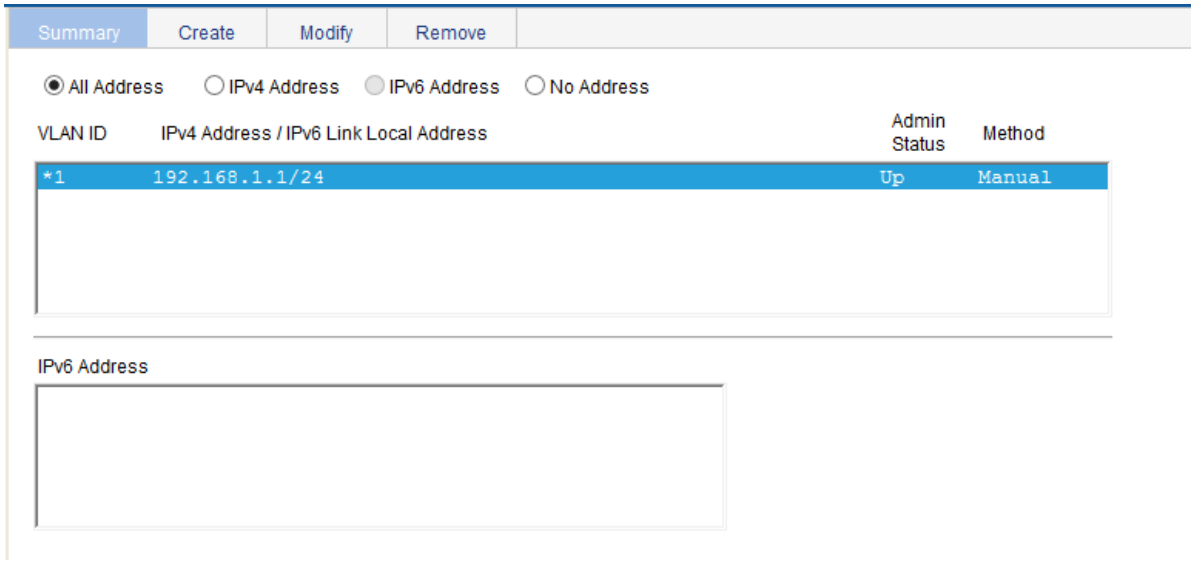
図 4-11 VLAN インタフェースの選択

4.2.1 VLAN インタフェースの概要

“VLAN Interface”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Summary”をクリックします。図 4-12に示すような画面が表示されます。

VLAN インタフェースの概要を表示します。

図 4-12 VLAN インタフェースの概要



4.2.2 VLAN インタフェースの作成

“VLAN Interface”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Create”をクリックします。図 4-13に示すような画面が表示されます。

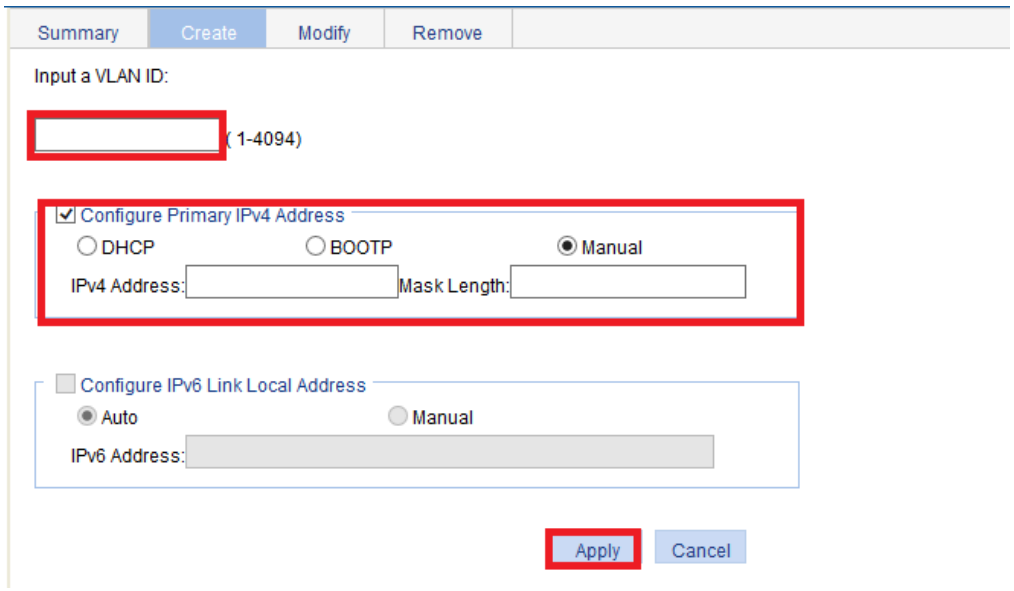
1) VLAN ID を入力します。
2) プライマリ IPv4 アドレスを入力します。

- ”Manual“を選択する場合、IPv4 アドレス、マスク長を入力します。
- “DHCP”、“BOOTP”を選択する場合、クリックします。

⚠ **注意：**

QX-S1000G シリーズは 1 つの VLAN インタフェースをサポートしています。2 つ以上の VLAN インタフェースを追加することはできません。

図 4-13 VLAN インタフェースの作成



4.2.3 VLAN インタフェースの変更

“VLAN Interface”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Modify”をクリックします。図 4-14に示すような画面が表示されます。

1) プライマリ IPv4 アドレスを入力します。
- ”Manual“を選択する場合、IPv4 アドレス、サブネットマスクを入力します。
- “DHCP”、“BOOTP”を選択する場合、クリックします。

2) VLAN インタフェースの状態を選択します。
3) “Apply”をクリックします。

⚠ **注意：**

VLAN インタフェースを変更した場合、Web インタフェースの接続が切断されます。図 4-15 に示すようなダイアログが表示されます。

図 4-14 VLAN インタフェースの変更

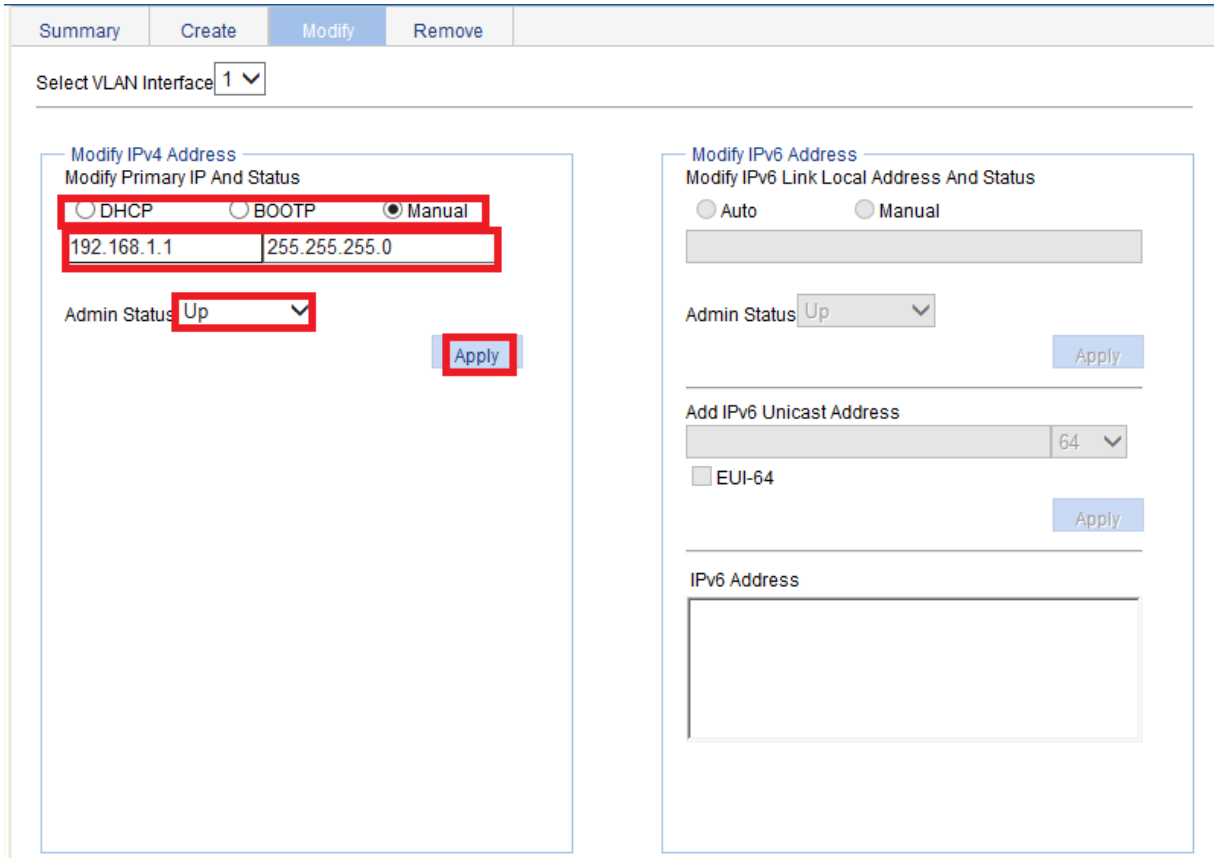
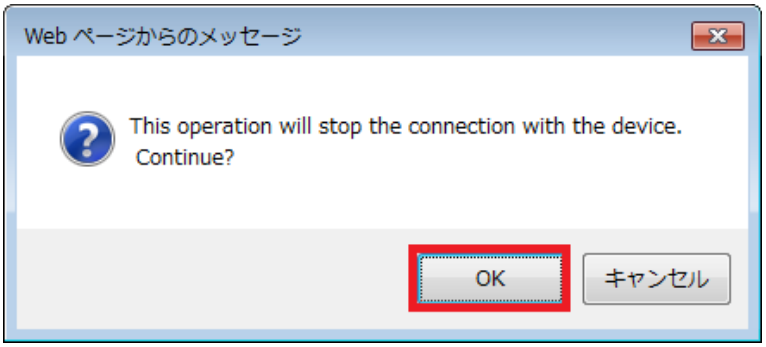


図 4-15 VLAN インタフェースの変更確認ダイアログ



4.2.4 VLAN インタフェースの削除

“VLAN Interface”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Remove”をクリックします。図 4-16に示すような画面が表示されます。

“Remove Interface”をクリックします。

注意：

VLAN インタフェースを削除した場合、Web インタフェースの接続が切断されます。図 4-17 に示すようなダイアログが表示されます。

図 4-16 VLAN インタフェースの削除

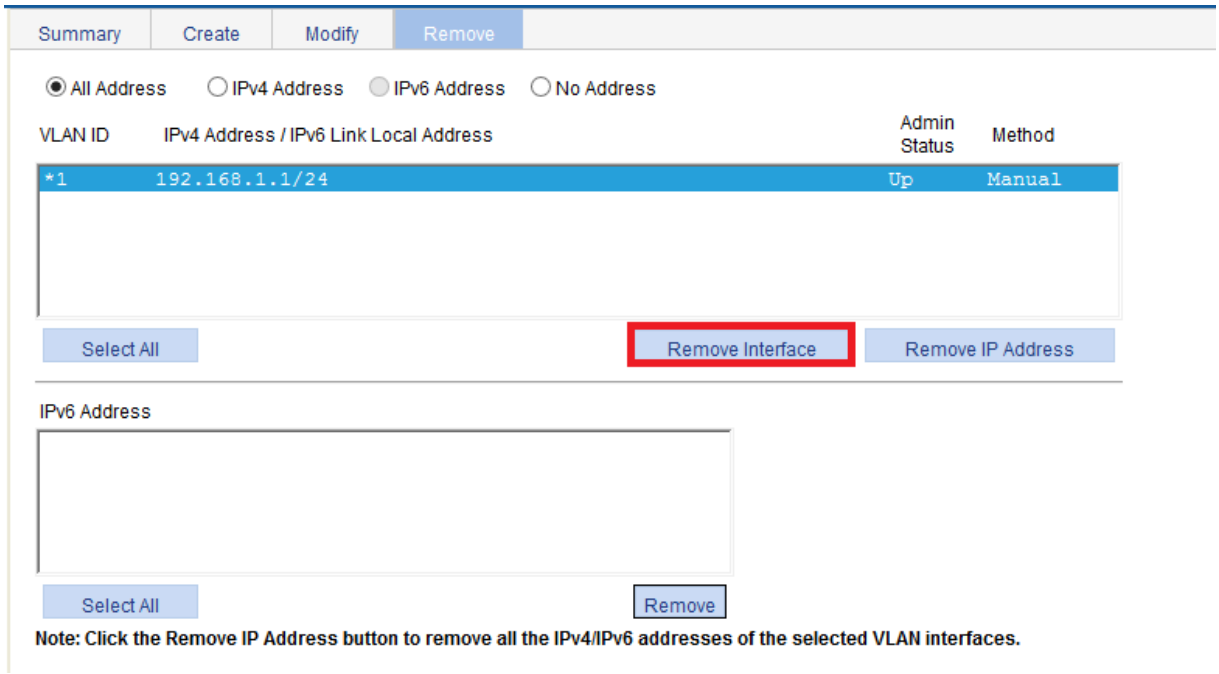
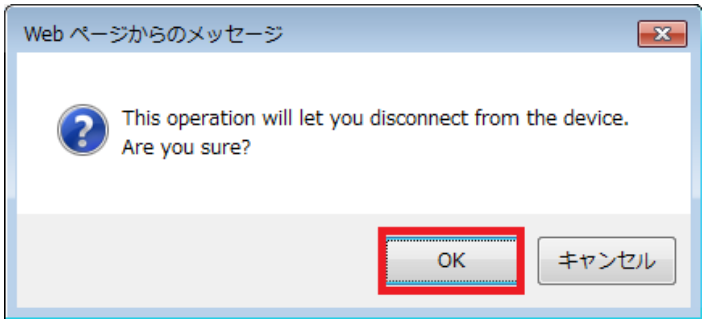


図 4-17 VLAN インタフェースの削除確認ダイアログ

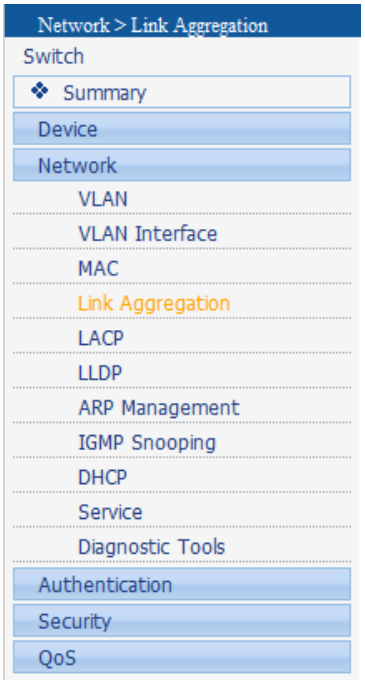


4.3 リンクアグリゲーション

“Network” メニューのサブ設定、情報メニューで “Link Aggregation” をクリックします。

リンクアグリゲーションの設定、表示を行います。

図 4-18 リンクアグリゲーションの選択

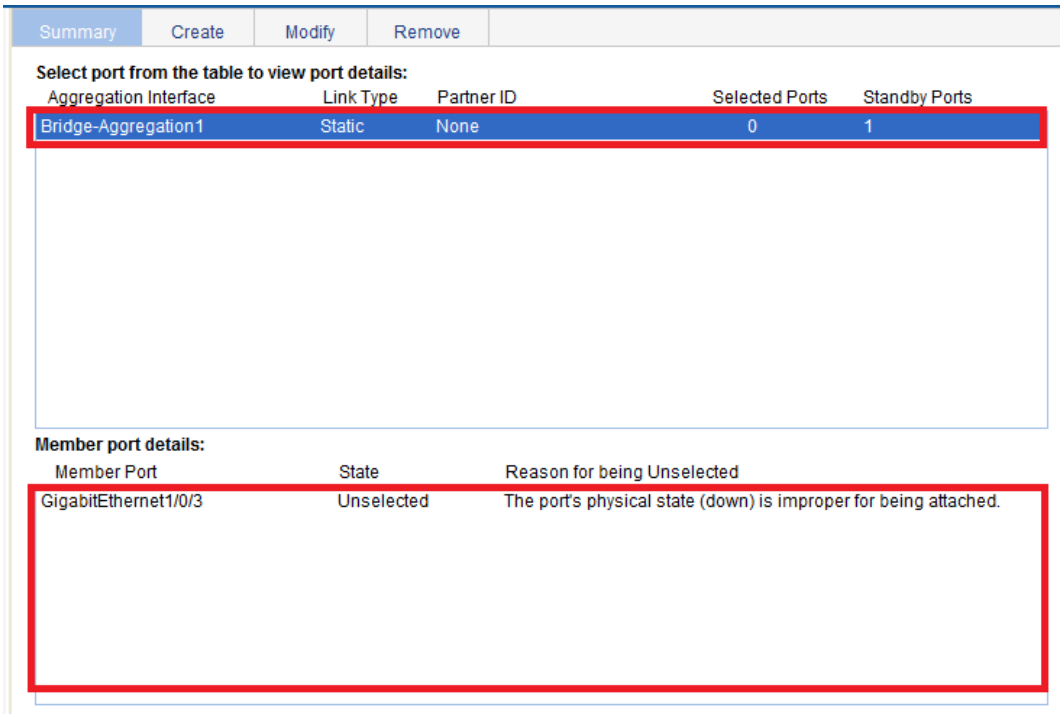


4.3.1 リンクアグリゲーションの概要

“Link Aggregation”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Create”をクリックします。図 4-19に示すような画面が表示されます。

“Select port from the table to view port details:”のリンクアグリゲーションインタフェースをクリックします。リンクアグリゲーションインタフェースの詳細情報が“Member port details:”に表示されます。

図 4-19 リンクアグリゲーションの概要

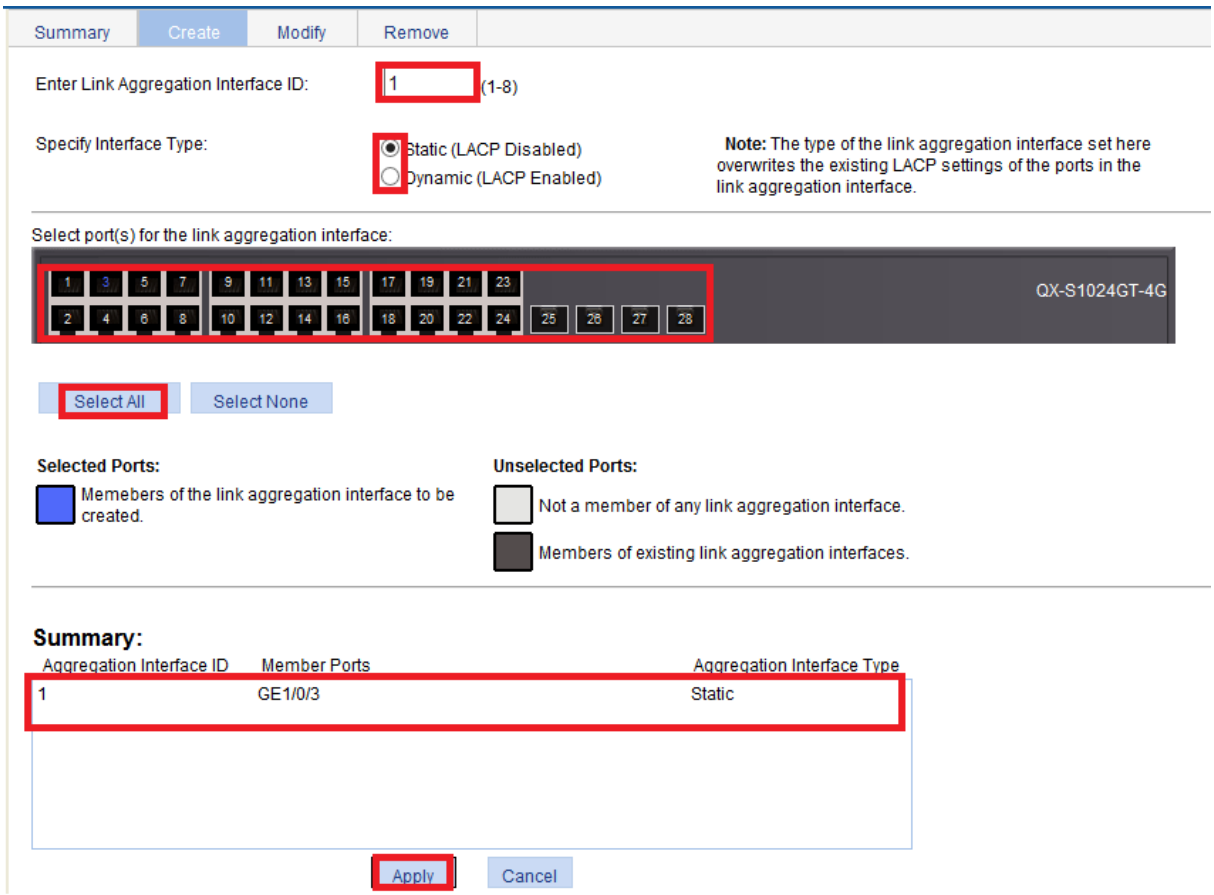


4.3.2 リンクアグリゲーションインタフェースの作成

“Link Aggregation”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Create”をクリックします。図 4-20に示すような画面が表示されます。

1) “Enter Link Aggregation Interface ID:”でリンクアグリゲーションインタフェースの ID を入力します。
2) “Specify Interface Type:”でリンクアグリゲーションのタイプを選択します。
3) 装置前面のポートを選択します。あるいは“Select All”をクリックします。
4) “Summary”に選択したポートが表示されます。
5) “Apply”をクリックします。

図 4-20 リンクアグリゲーションインタフェースの作成

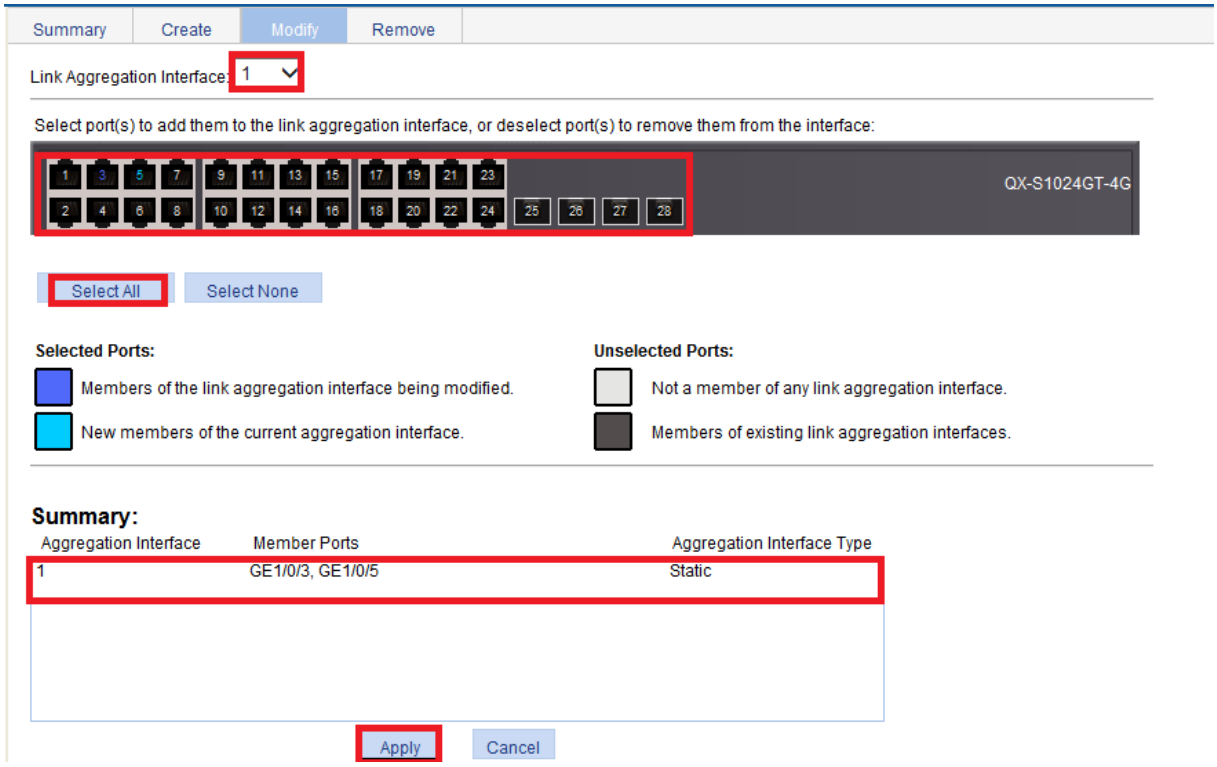


4.3.3 リンクアグリゲーションインタフェースの変更

“Link Aggregation”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Modify”をクリックします。図 4-21に示すような画面が表示されます。

1) “Link Aggregation Interface:”で変更するリンクアグリゲーションインタフェースを選択します。
2) 装置前面のポートを選択します。あるいは“Select All”をクリックします。
3) “Summary”に選択したポートが表示されます。
4) “Apply”をクリックします。

図 4-21 リンクアグリゲーションインタフェースの変更



4.3.4 リンクアグリゲーションインタフェースの削除

“Link Aggregation”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Remove”をクリックします。図 4-21に示すような画面が表示されます。

1) “Select the link aggregation interfaces you want to remove:”で削除するリンクアグリゲーションインタフェースを選択します。あるいは“Select All”をクリックします。
2) “Remove”をクリックします。図 4-23に示すようなリンクアグリゲーションインタフェースの削除画面が表示されます。

図 4-22 リンクアグリゲーションインタフェースの削除

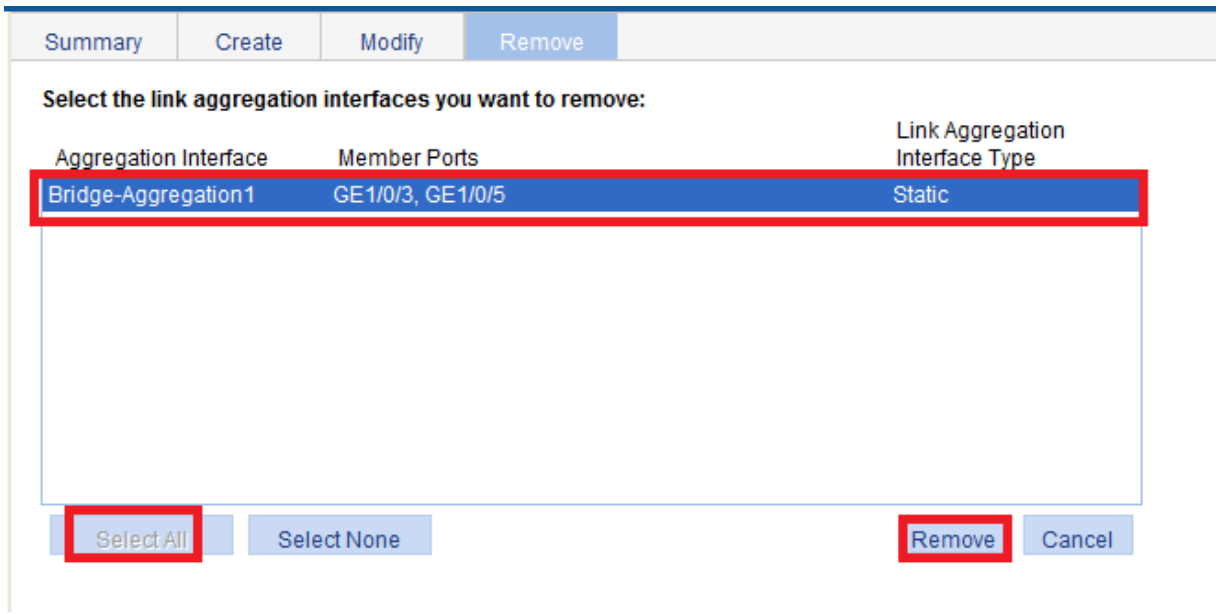
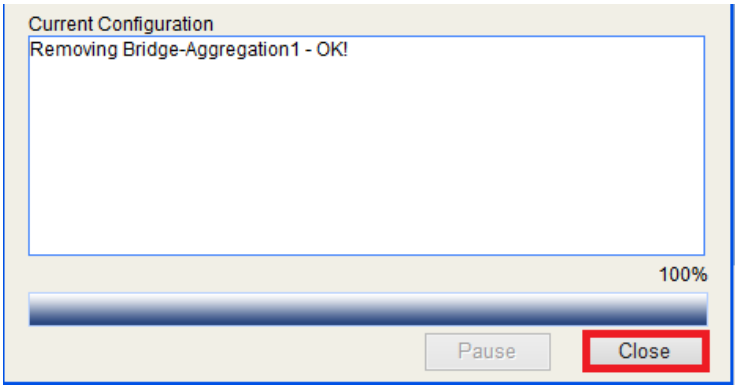


図 4-23 リンクアグリゲーションインタフェースの削除画面



4.4 LACP

“Network” メニューのサブ設定、情報メニューで “LACP” をクリックします。

LACP の設定、表示を行います。

図 4-24 LACP の選択

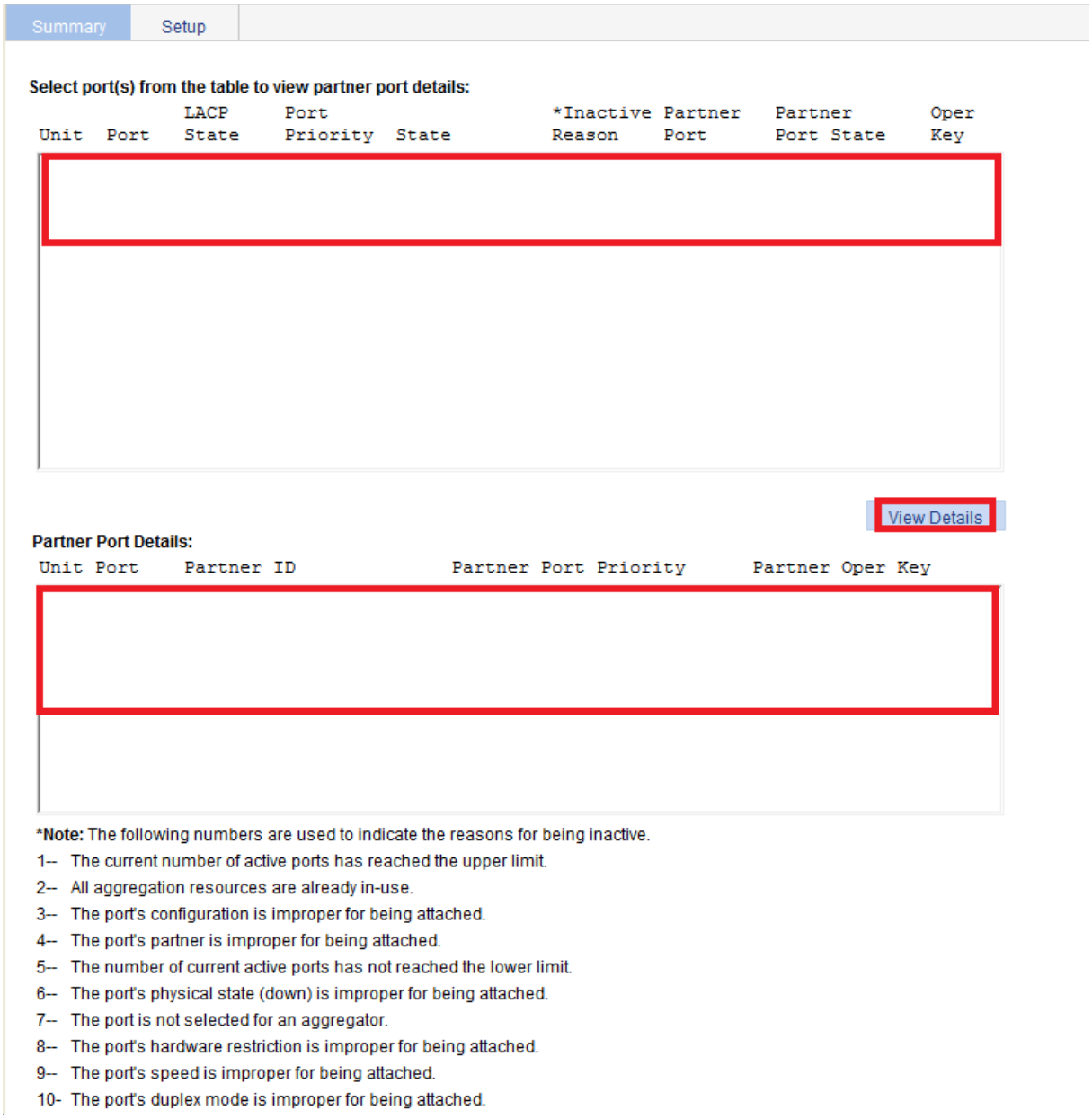
4.4.1 LACP の概要

“LACP”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Summary”をクリックします。図4-25に示すような画面が表示されます。

対向先のポートの情報が表示されます。

1) “Select port(s) from the table to view partner port details:”で対向先のポートをクリックします。
2) “View Detail”をクリックします。
3) “Partner Port Details:”に対向先のポートの詳細情報を表示します。

図 4-25 LACP の概要



4.4.2 LACP の設定

“LACP” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Setup” をクリックします。図 4-26 に示すような画面が表示されます。

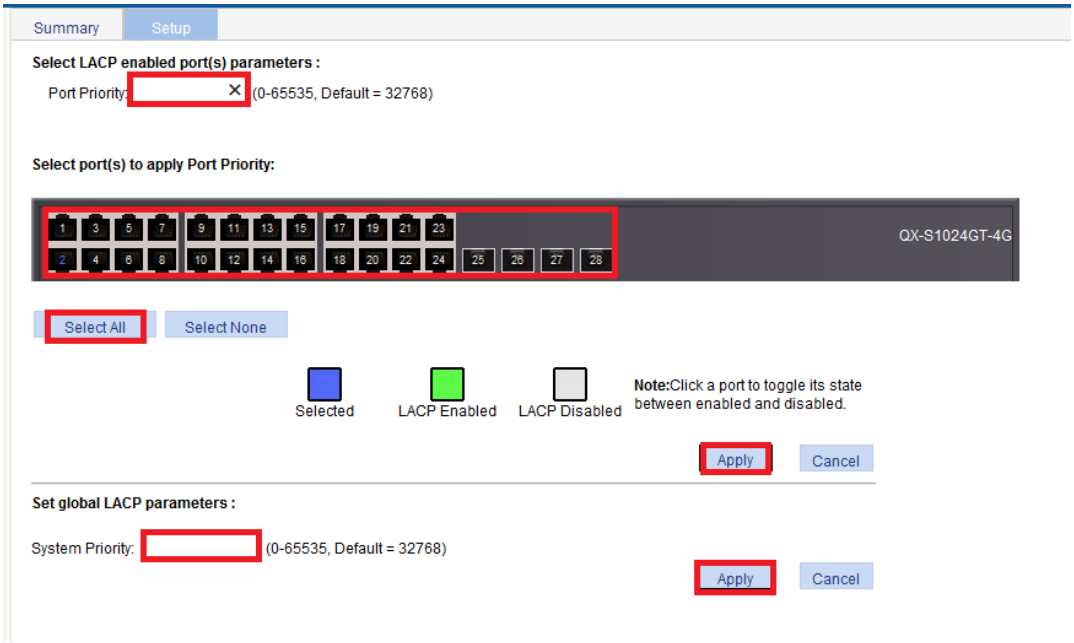
ポートの LACP プライオリティを設定する場合、以下の作業を行います。

1) ポートのプライオリティを入力します。
2) 装置前面のポートを選択します。あるいは “Select All” をクリックします。
3) “Apply” をクリックします。

グローバルの LACP プライオリティを設定する場合、以下の作業を行います。

1)　“System Priority:” にプライオリティを入力します。
2)　“Apply” をクリックします。

図 4-26 LACP の設定

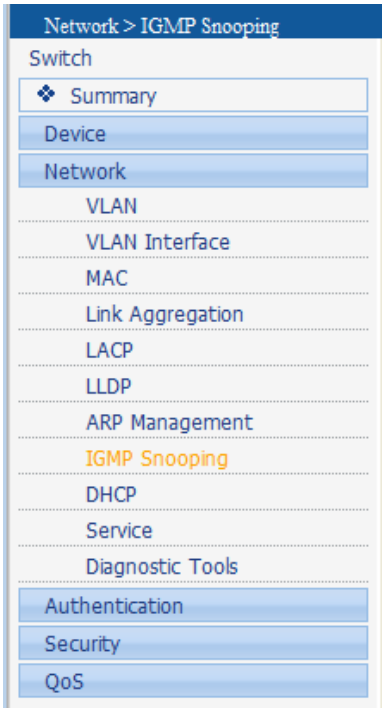


4.5 IGMP Snooping

“Network” メニューのサブ設定、情報メニューで “IGMP Snooping” をクリックします。

IGMP Snooping の設定、表示を行います。

図 4-27 IGMP Snooping の選択



4.5.1 IGMP Snooping の基本設定

“IGMP Snooping”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Basic”をクリックします。図 4-28に示すような画面が表示されます。

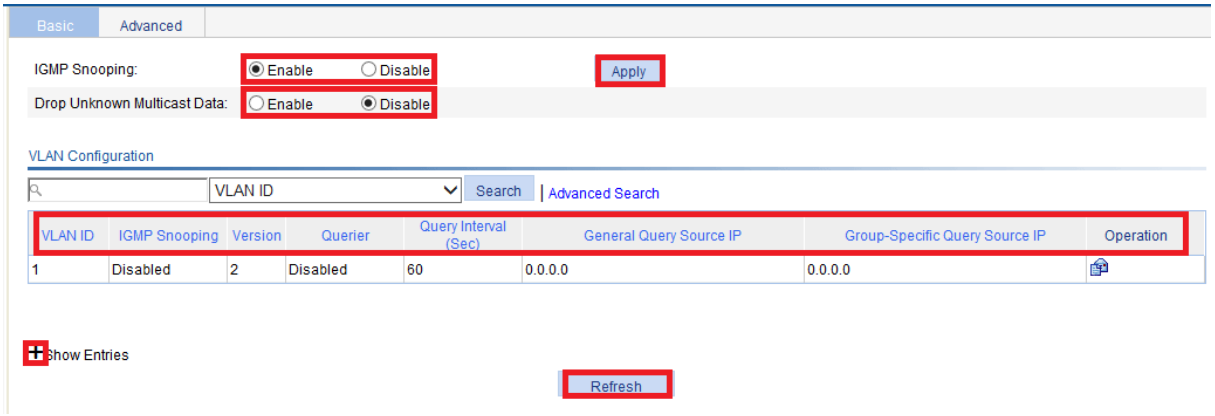
1) “IGMP Snooping:”で IGMP Snooping を有効にするかどうか選択します。
2) “Drop Unknown Multicast Data:”で未知のマルチキャストデータの廃棄機能を有効にするかどうか選択します。
3) “Apply”をクリックします。

VLAN の設定は“VLAN ID”、“IGMP Snooping”、“Version”、“Querier”、“Query Interval (Sec)”、“General Query Source IP”、“Group-Specific Query Source IP”、“Operation”をクリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

“Operation”の編集マークをクリックすると VLAN の設定を変更することができます。

エントリを表示する場合、“＋”をクリックします。情報を更新する場合“Refresh”をクリックします。

図 4-28 IGMP Snooping の基本設定



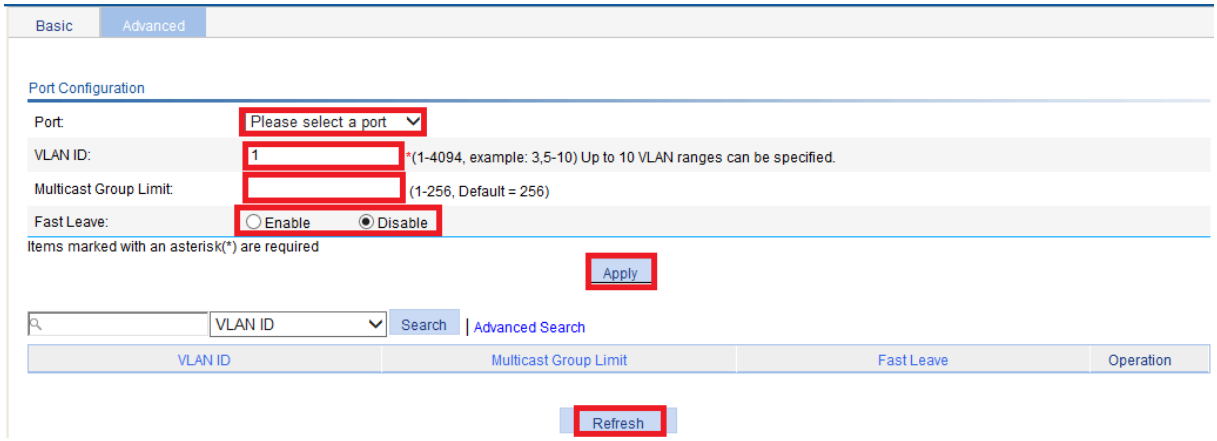
4.5.2 IGMP Snooping の拡張設定

“IGMP Snooping” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Advanced” をクリックします。図 4-29に示すような画面が表示されます。

1) ポートを選択します。
2) VLAN の VLAN ID を入力します。
3) ポートで参加可能なマルチキャストグループの最大数を入力します。
4) Fast Leave 処理機能を有効にするか選択します。
5) “Apply” をクリックします。

“VLAN ID”、“Multicast Group Limit”、“Fast Leave”、“Operation” をクリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

図 4-29 IGMP Snooping の拡張設定

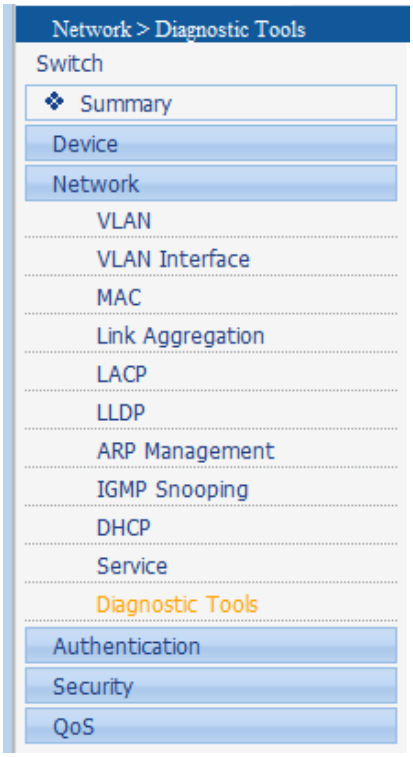


4.6 診断ツール

“Network” メニューのサブ設定、情報メニューで “Diagnostic Tools” をクリックします。

診断ツールを実行します。

図 4-30 Diagnostic Tools の選択

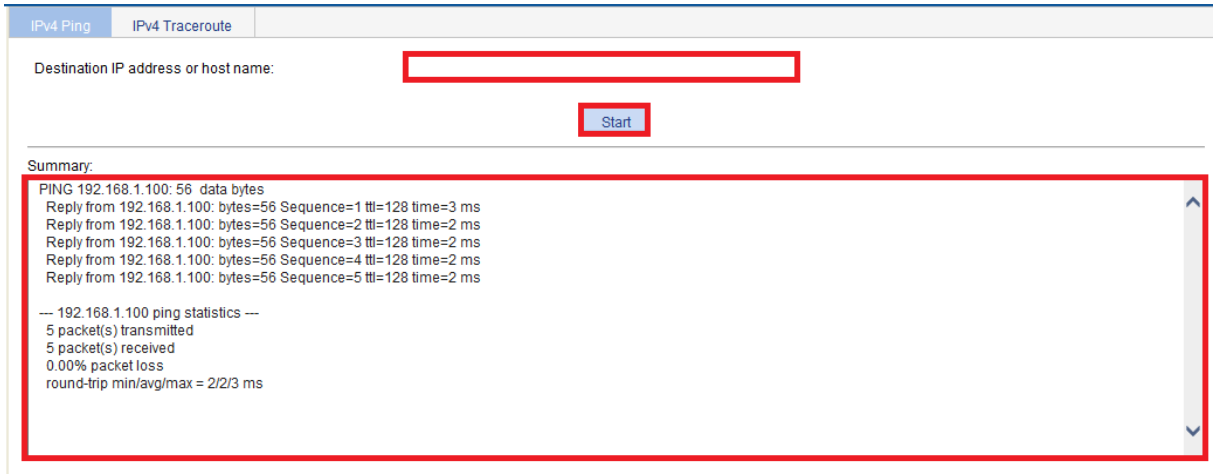


4.6.1 IPv4 Ping

“Diagnostic Tools”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“IPv4 Ping”をクリックします。図 4-31に示すような画面が表示されます。

1) “Destination IP address or host name:”に IP アドレスを入力します。
2) “Start”をクリックします。
3) “Summary”に結果が表示されます。

図 4-31 IPv4 Ping の実行

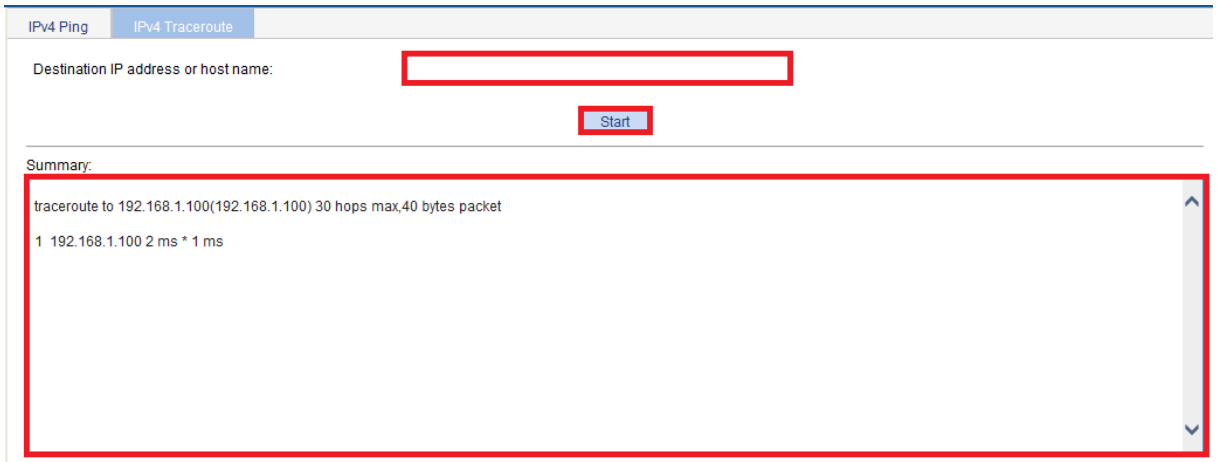


4.6.2 IPv4 Traceroute

“Diagnostic Tools”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“IPv4 Traceroute”をクリックします。図 4-32に示すような画面が表示されます。

1) “Destination IP address or host name:”に IP アドレスを入力します。
2) “Start”をクリックします。
3) “Summary”に結果が表示されます。

図 4-32 IPv4 Traceroute の実行



目次

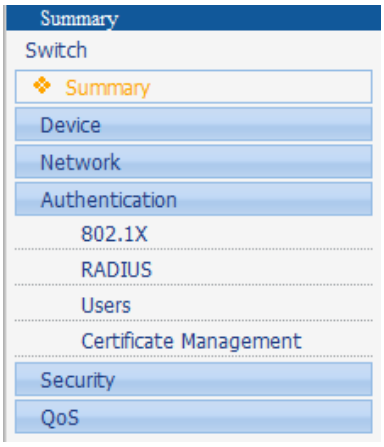
5 章 認証 5-1
5.1 ユーザ 5-1
5.1.1 ローカルユーザの設定 5-2
5.1.2 ユーザグループの設定 5-4

5章 認証

設定、情報メニューで“Authentication”を選択します。

“Authentication”メニューには図 5-1に示すように以下のサブ設定、情報メニューがあります。

図 5-1 Authentication メニューのサブ設定、情報メニュー画面



- **802.1X**－802.1X の設定、表示を行います。
- **RADIUS**－RADIUS の設定、表示を行います。
- **ユーザ（Users）**－ユーザの設定、表示を行います。
- **Certificate Management**－PKI、証明書管理を行います。

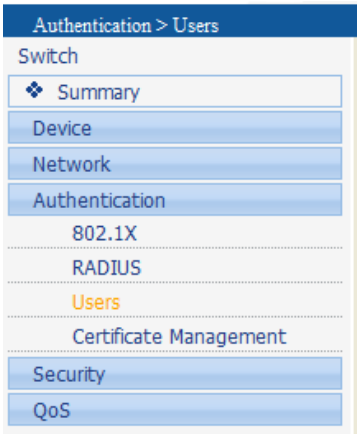
本章では 802.1X、RADIUS、Certificate Management の記述を省略します。*QX-S1000G シリーズコマンドマニュアル*、*QX-S1000G シリーズオペレーションマニュアル*を参照してください。

5.1 ユーザ

“Authentication”メニューのサブ設定、情報メニューで“Users”をクリックします。

ユーザの設定、表示を行います。

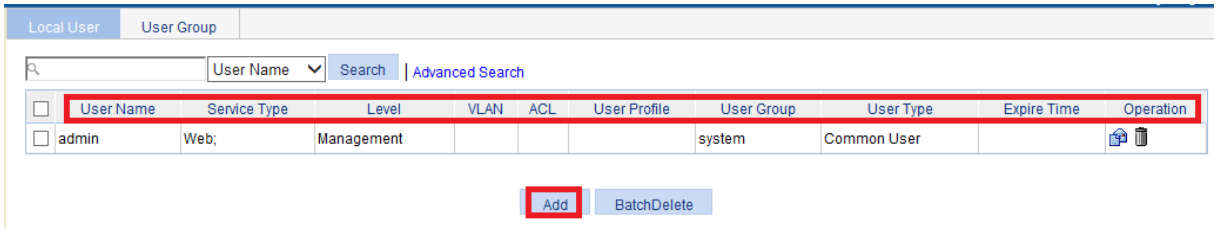
図 5-2 Users の選択



5.1.1 ローカルユーザの設定

“Users” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Local User” をクリックします。図 5-3に示すような画面が表示されます。

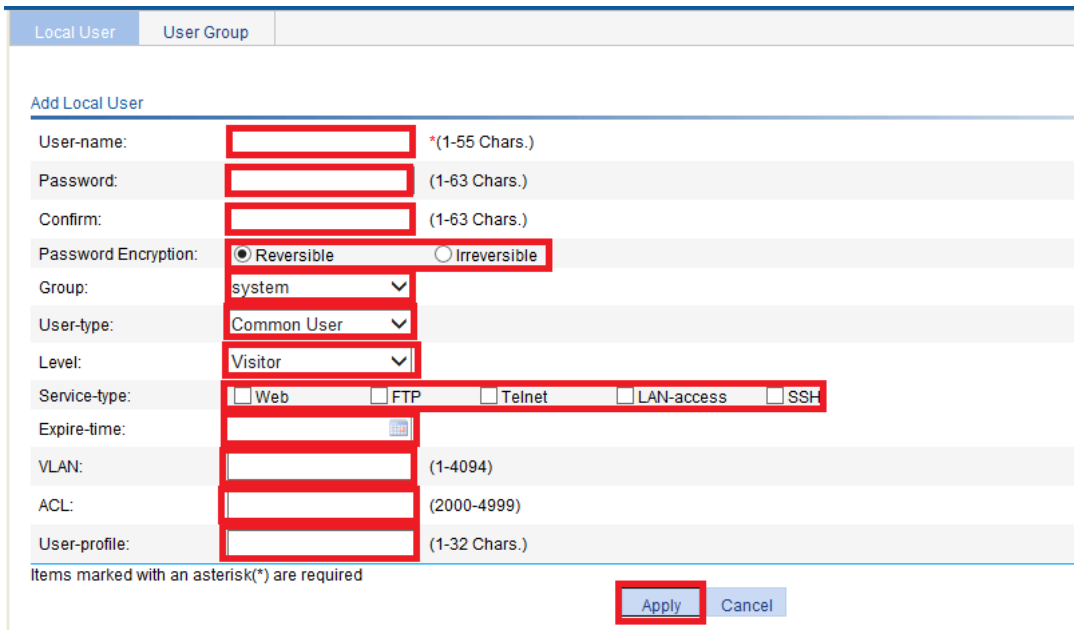
図 5-3 ローカルユーザの設定



“User Name”、“Service Type”、“Level”、“VLAN”、“ACL”、“User Profile”、“User Group”、“User Type”、“Expire Time”、“Operation” クリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

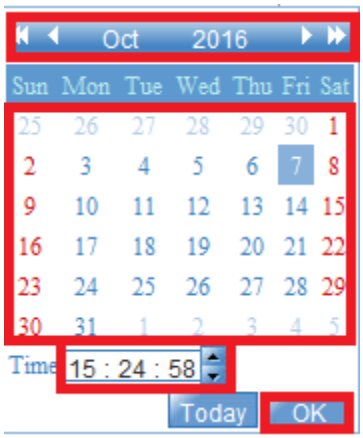
1) ” Add “をクリックします。図 5-4に示すような SNMP コミュニティの追加画面が表示されます。

図 5-4 ローカルユーザの追加



2) “User Name:” を入力します。
3) “Password:” を入力します。
4) “Confirm:” を入力します。
5) パスワードの暗号タイプを選択します。
6) “Group” を選択します。
7) “User-type:” を選択します。
8) サービスタイプを選択します。
9) 有効期限を設定します。図 5-5に示すように “Expire-time:” の “カレンダーマーク” をクリックします。年月、日、時間を選択し、“OK” をクリックします。

図 5-5 有効期限のカレンダー表示



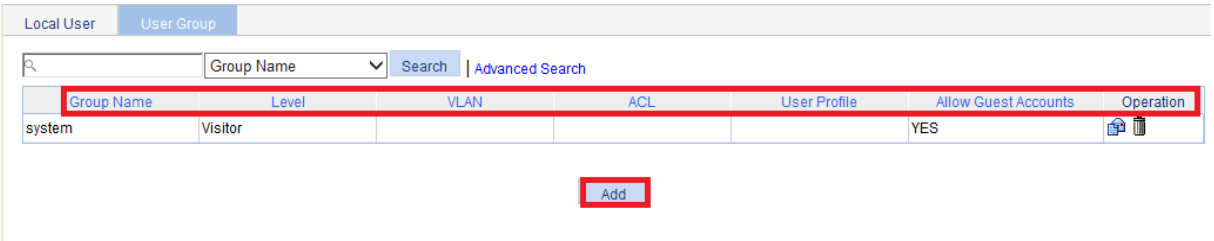
10) “VLAN” を入力します。
11) “ACL” を入力します。
12) “User-profile” を入力します。

13)　“Apply” をクリックします。

5.1.2 ユーザグループの設定

“Users” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “User Group” をクリックします。図 5-6に示すような画面が表示されます。

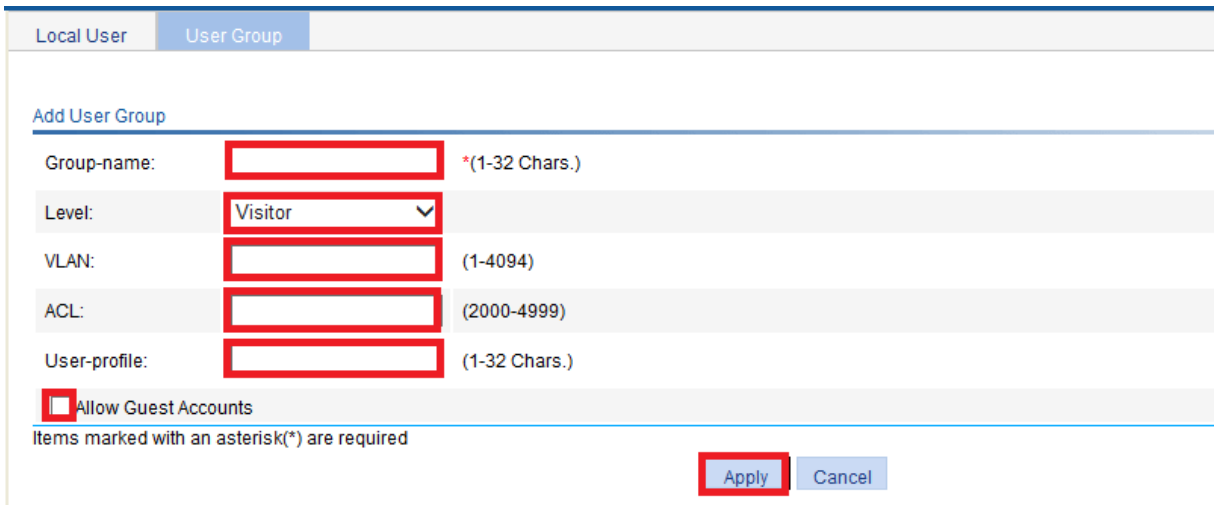
図 5-6 ユーザグループの設定



“Group Name”、“Level”、“VLAN”、“ACL”、“User Profile”、“Allow Guest Accounts”、“Operation” クリックすることで、項目ごとにソートすることができます。

1)　” Add “をクリックします。図 5-7に示すようなユーザグループの追加画面が表示されます。

図 5-7 ユーザグループの追加



2)　“Group-Name” を入力します。
3)　“Level” を選択します。
4)　“ACL” を入力します。
5)　“User-Profile” を入力します。
6)　ゲストアカウントを許可する場合、“Allow Guest Accounts” をチェックします。
7)　“Apply” をクリックします。

目次

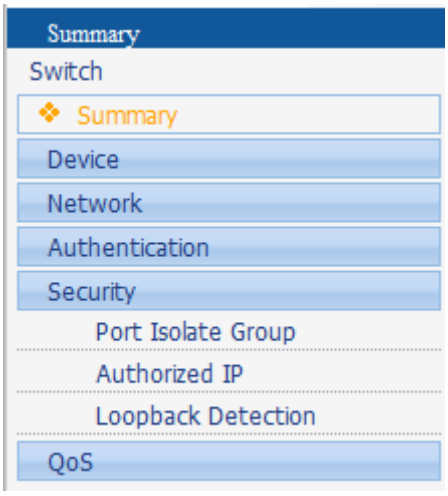
6 章 セキュリティ 6-1
6.1 Port Isolation 6-1
6.1.1 Port Isolation の概要 6-2
6.1.2 Port Isolation の設定 6-2
6.2 ループバック検出機能 6-3

6章 セキュリティ

設定、情報メニューで“Security”を選択します。

“Security”メニューには図 6-1に示すように以下のサブ設定、情報メニューがあります。

図 6-1 Security メニューのサブ設定、情報メニュー画面



- **Port Isolation（Port Isolate Group）**－Port Isolation の設定、表示を行います。
- **Telnet、HTTP（Authorized IP）**－Telnet、HTTP の許可設定、表示を行います。
- **Loopback Detection**－ループバック検出の設定、表示を行います。

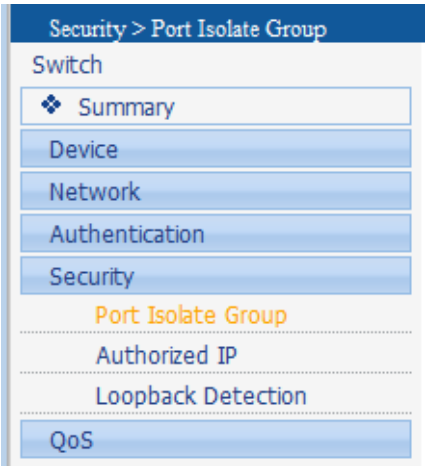
本章では Telnet、HTTP（Authorized IP）の許可設定の記述を省略します。*QX-S1000G シリーズコマンドマニュアル*、*QX-S1000G シリーズオペレーションマニュアル*を参照してください。

6.1 Port Isolation

“Security”メニューのサブ設定、情報メニューで“Port Isolate Group”をクリックします。

Port Isolation の設定、表示を行います。

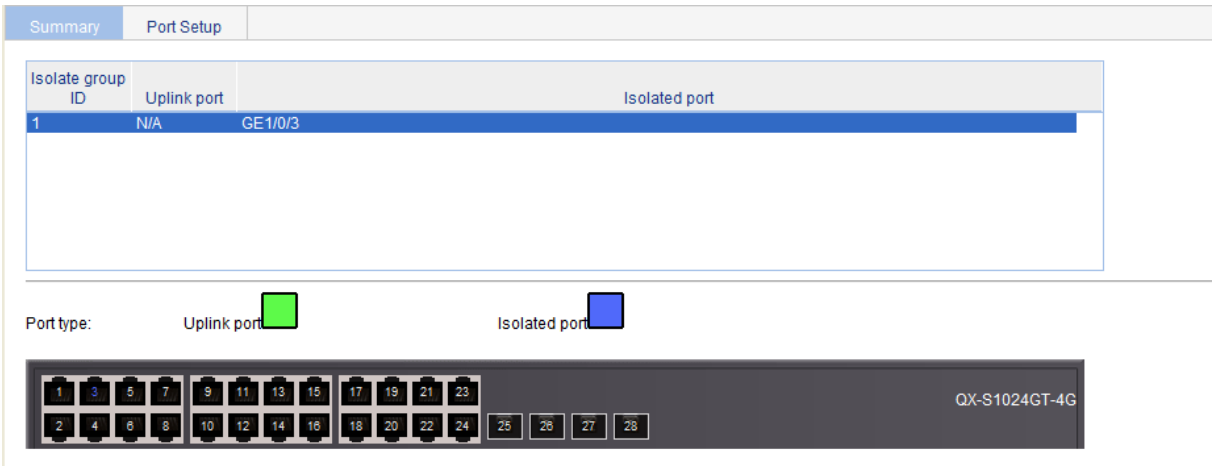
図 6-2 Port Isolation の選択



6.1.1 Port Isolation の概要

“Port Isolate Group”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Summary”をクリックします。図 6-3に示すような画面が表示されます。

図 6-3 Port Isolation の概要



6.1.2 Port Isolation の設定

“Port Isolate Group”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Port Setup”を選択します。図 6-4に示すような画面が表示されます。

1) 装置前面のポートを選択します。あるいは“Select All”をクリックします。
2) “Apply”をクリックします。図 6-5に示すようなポート追加確認ダイアログが表示されます。

図 6-4 Port Isolation の設定

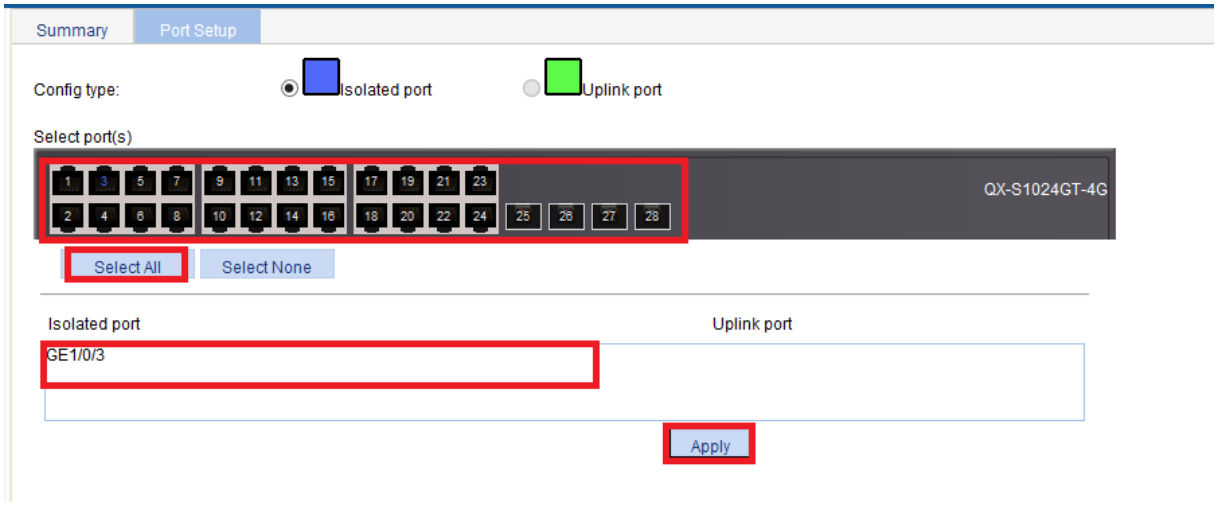
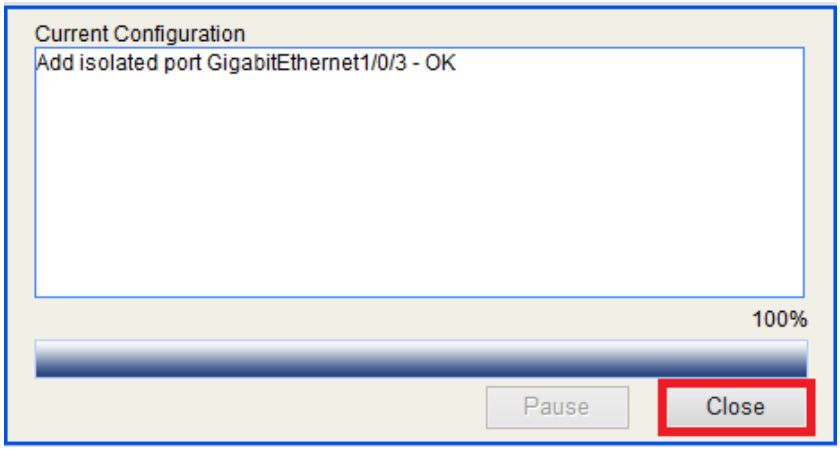


図 6-5 ポート追加確認ダイアログ



6.2 ループバック検出機能

“Security” メニューのサブ設定、情報メニューで “Loopback Detection” をクリックします。

ループバック検出機能の設定、表示を行います。

図 6-6 ループバック検出機能の選択

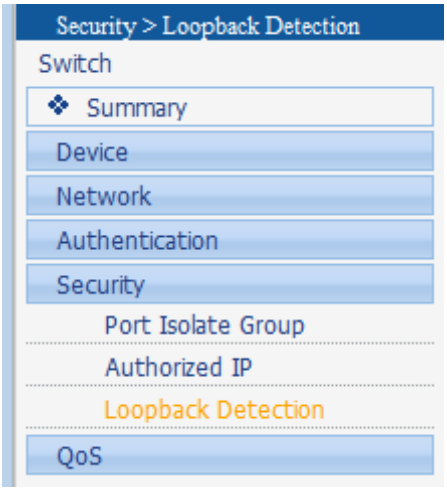


図 6-7に示すような画面が表示されます。

1) “Enable loopback detection on the system” にシステムでループバック検出機能を有効にするかどうかクリックします。
2) ループバック検出間隔を入力します。
3) “Apply” をクリックします。
4) “Loopback Detection”、“Detection Control”、“Detection in VLAN” を設定します。

インタフェースごとに “Loopback Detection”、“Detection Control”、“Detection in VLAN” を設定するか、一度にすべてのインタフェースを設定することができます。

- インタフェースごとに設定する場合、以下の作業を行います。

a) 指定インタフェースの “Loopback Detection” を選択します。

b) 指定インタフェースの “Detection Control” を選択します。ポートタイプがハイブリッド、トランクのみ選択します。アクセスの場合は選択できません。

c) 指定インタフェースの “Detection in VLAN” を選択します。ポートタイプがハイブリッド、トランクのみ選択します。アクセスの場合は選択できません。

d) “Apply” をクリックします。図 6-8に示すようなループバック検出機能の設定確認画面が表示されます。

- 一度にすべてのインタフェースの設定を行う場合、以下の作業を行います。

a) “Enable All” あるいは “Disable All” をクリックします。図 6-8に示すようなループバック検出機能の設定確認画面が表示されます。“Close” をクリックします。

“Interface Name” をクリックすることでインタフェースごとにソートすることができます。

図 6-7 ループバック検出機能の設定

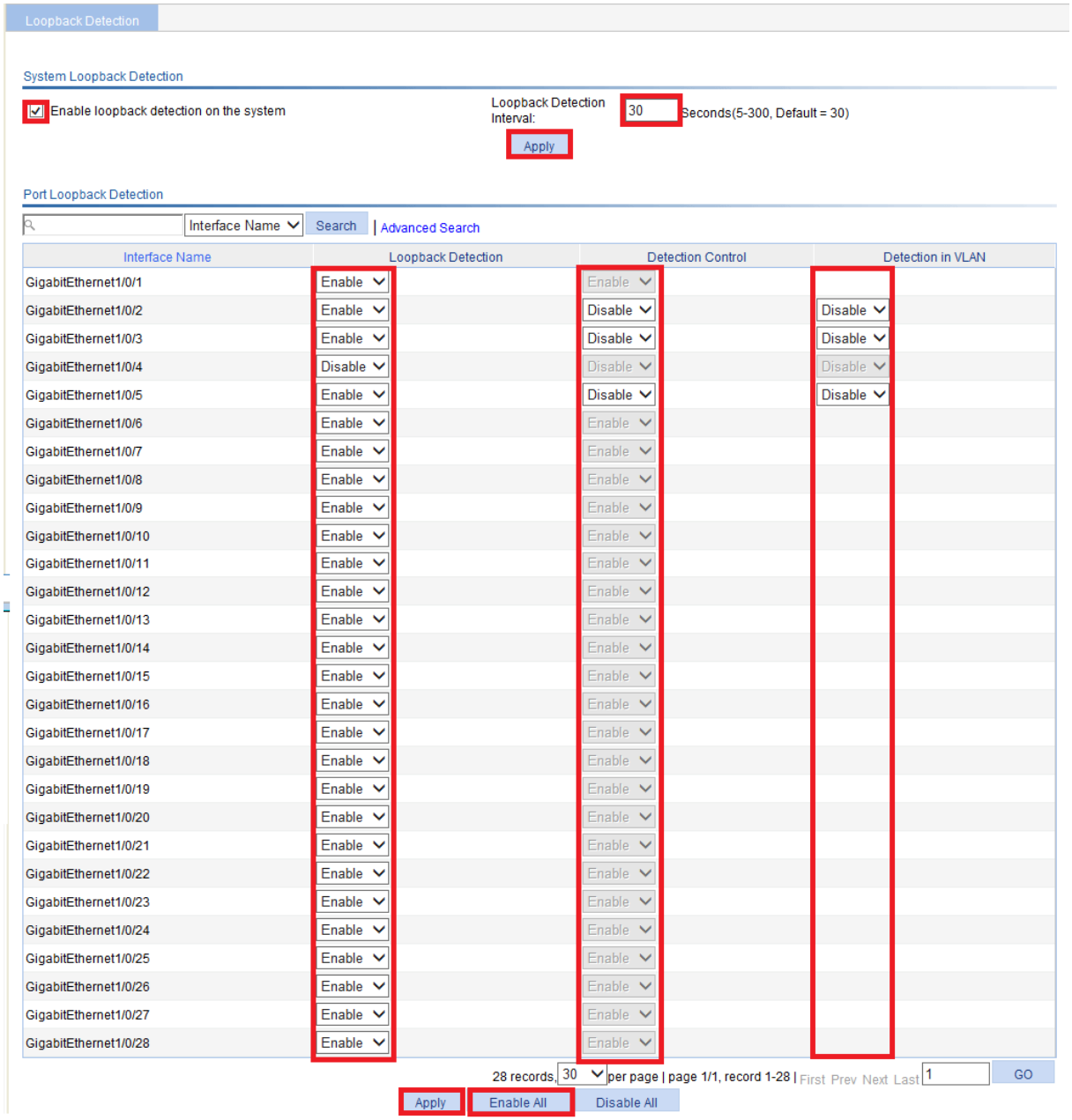
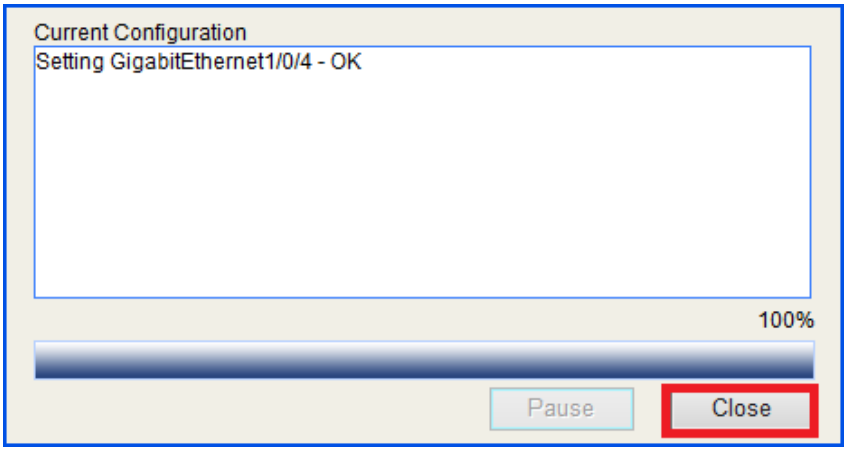


図 6-8 ループバック検出機能の設定確認画面



目次

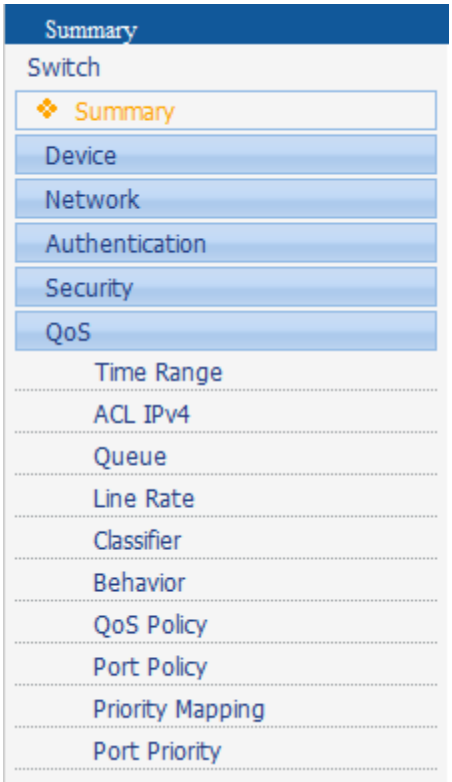
7 章 QoS 7-1
7.1 IPv4 ACL 7-2
7.1.1 IPv4 ACL の概要 7-2
7.1.2 IPv4 ACL の追加 7-3
7.1.3 標準 IPv4 ACL の設定 7-4
7.1.4 拡張 IPv4 ACL の設定 7-5
7.1.5 L2 ACL の設定 7-7
7.1.6 ACL の削除 7-8

7章 QoS

設定、情報メニューで“QoS”を選択します。

“QoS”メニューには図 7-1に示すように以下のサブ設定、情報メニューがあります。

図 7-1 QoS メニューのサブ設定、情報メニュー画面



- **タイムレンジ（Time Range）**－タイムレンジの設定、表示を行います。
- **IPv4 ACL（ACL IPv4）**－IPv4 ACL の設定、表示を行います。
- **輻輳制御（Queue）**－輻輳制御の設定、表示を行います。
- **レートリミット（Line Rate）**－レートリミットの設定、表示を行います。
- **トラフィッククラス（Classifier）**－トラフィッククラスの設定、表示を行います。
- **トラフィック動作（Behavior）**－トラフィック動作の設定、表示を行います。
- **QoS ポリシー（QoS Policy）**－QoS ポリシーの設定、表示を行います。
- **ポートポリシー（Port Policy）**－インタフェースへの QoS ポリシーの設定、表示を行います。
- **プライオリティマッピング（Priority Mapping）**－プライオリティマッピングの設定、表示を行います。
- **ポートプライオリティ（Port Priority）**－プライオリティの表示を行います。

本章では“タイムレンジ”、“輻輳制御”、“レートリミット”、“トラフィッククラス”、“トラフィック動作”、“QoS ポリシー”、“ポートポリシー”、“プライオリティマッピング”、

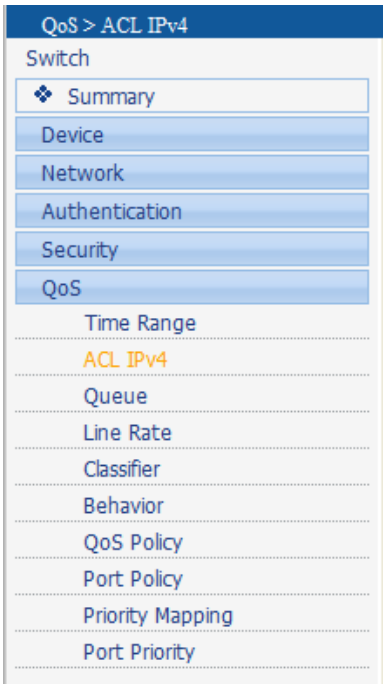
ポートプライオリティの記述を省略します。*QX-S1000G シリーズコマンドマニュアル*、*QX-S1000G シリーズオペレーションマニュアル*を参照してください。

7.1 IPv4 ACL

“QoS”メニューのサブ設定、情報メニューで“ACL IPv4”をクリックします。

IPv4 ACL の設定、表示を行います。

図 7-2 IPv4 ACL の選択

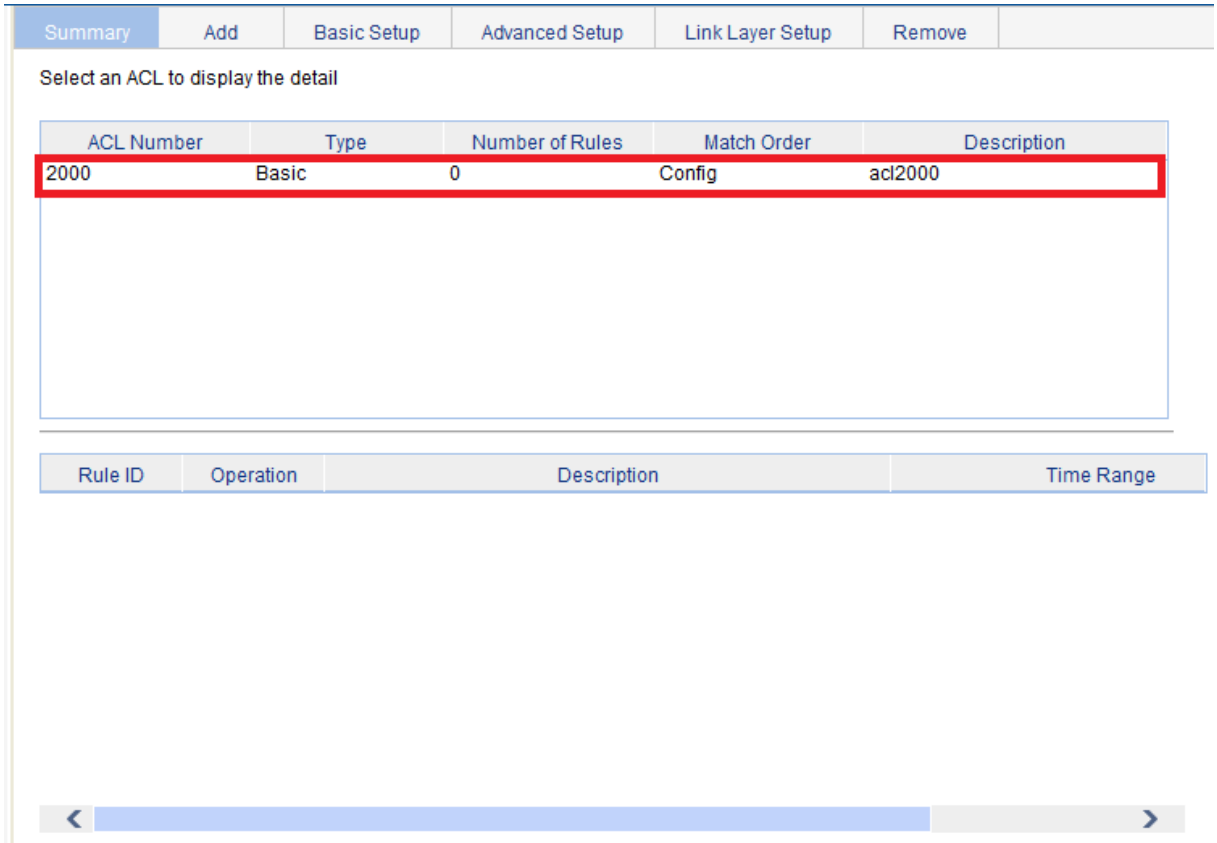


7.1.1 IPv4 ACL の概要

“ACL IPv4”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Summary”をクリックします。図 7-3に示すような画面が表示されます。

ACL を選択すると、下段に詳細な ACL の情報を表示します。

図 7-3 IPv4 ACL の概要

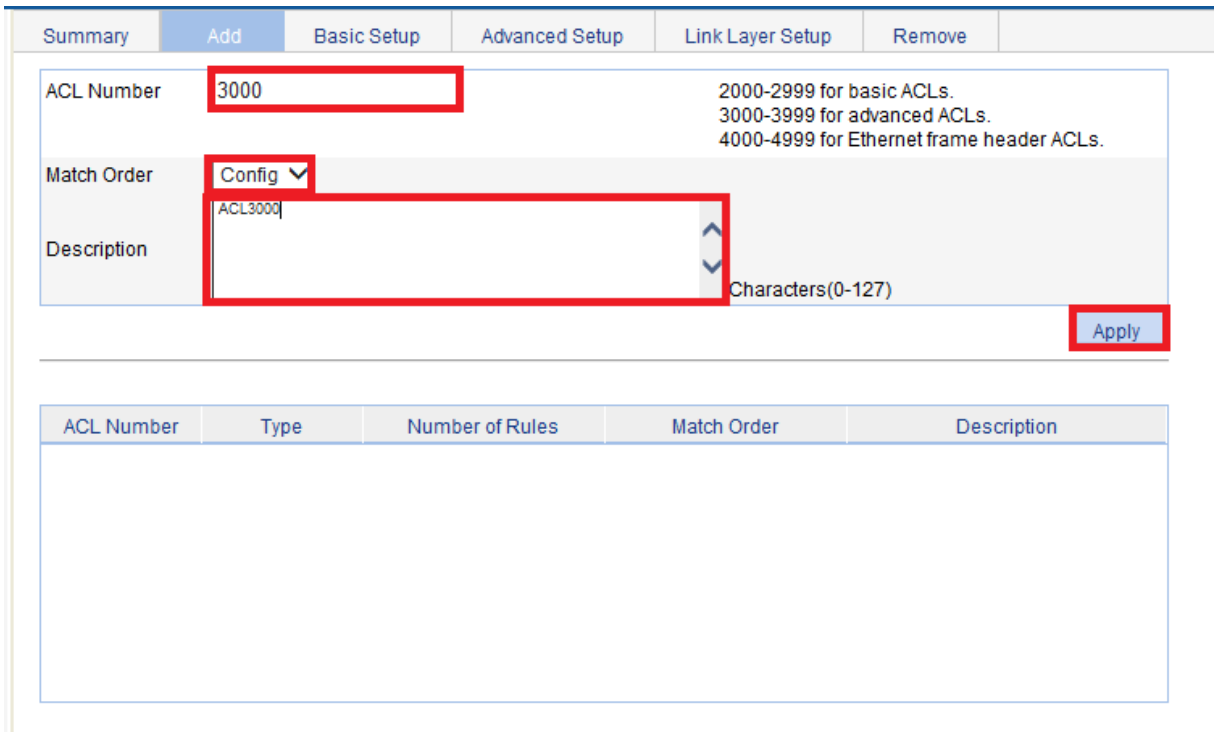


7.1.2 IPv4 ACL の追加

“ACL IPv4” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Add” をクリックします。図 7-4 に示すような画面が表示されます。

1) ACL 番号を入力します。
2) 一致条件を選択します。
3) ACL の説明を入力します。
4) “Apply” をクリックします。

図 7-4 IPv4 ACL の追加



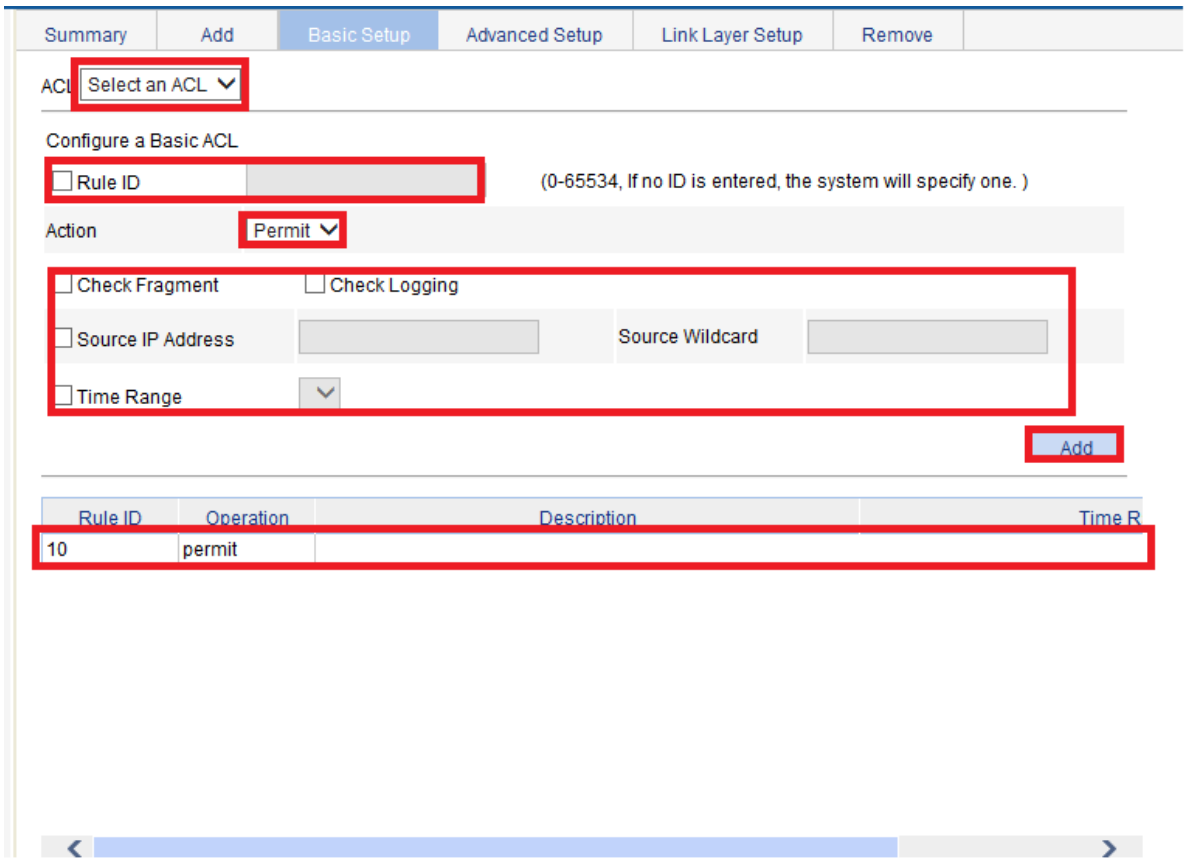
7.1.3 標準 IPv4 ACL の設定

“ACL IPv4”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Basic Setup”をクリックします。図 7-5に示すような画面が表示されます。

1) 追加された ACL 番号を選択します。
2) ルール ID を設定する場合、“Rule ID”をチェックします。値を入力します。
3) アクションを選択します。
4) 最初のフラグメントではないフラグメントを指定する場合、“Check Fragment”をチェックします。
5) 送信元 IP アドレス、ワイルドカードを指定する場合、“Source IP Address”、“Source Wildcard”をチェックします。
6) “Add”をクリックします。

設定される ACL が下段に表示されます。

図 7-5 標準 IPv4 ACL の設定



7.1.4 拡張 IPv4 ACL の設定

“ACL IPv4”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Advanced Setup”をクリックします。図 7-6に示すような画面が表示されます。

1) 追加された ACL 番号を選択します。
2) ルール ID を設定する場合、“Rule ID”をチェックします。値を入力します。
3) アクションを選択します。
4) 最初のフラグメントではないフラグメントを指定する場合、“Check Fragment”をチェックします。
5) IP アドレスのフィルタを行う場合、“Source IP Address”、“Source Wildcard”、“Destination IP Address”、“Destination Wildcard”をチェックし、値を入力します。
6) プロトコルを選択します。

“ICMP”を選択した場合、“ICMP Type”を選択、入力します。

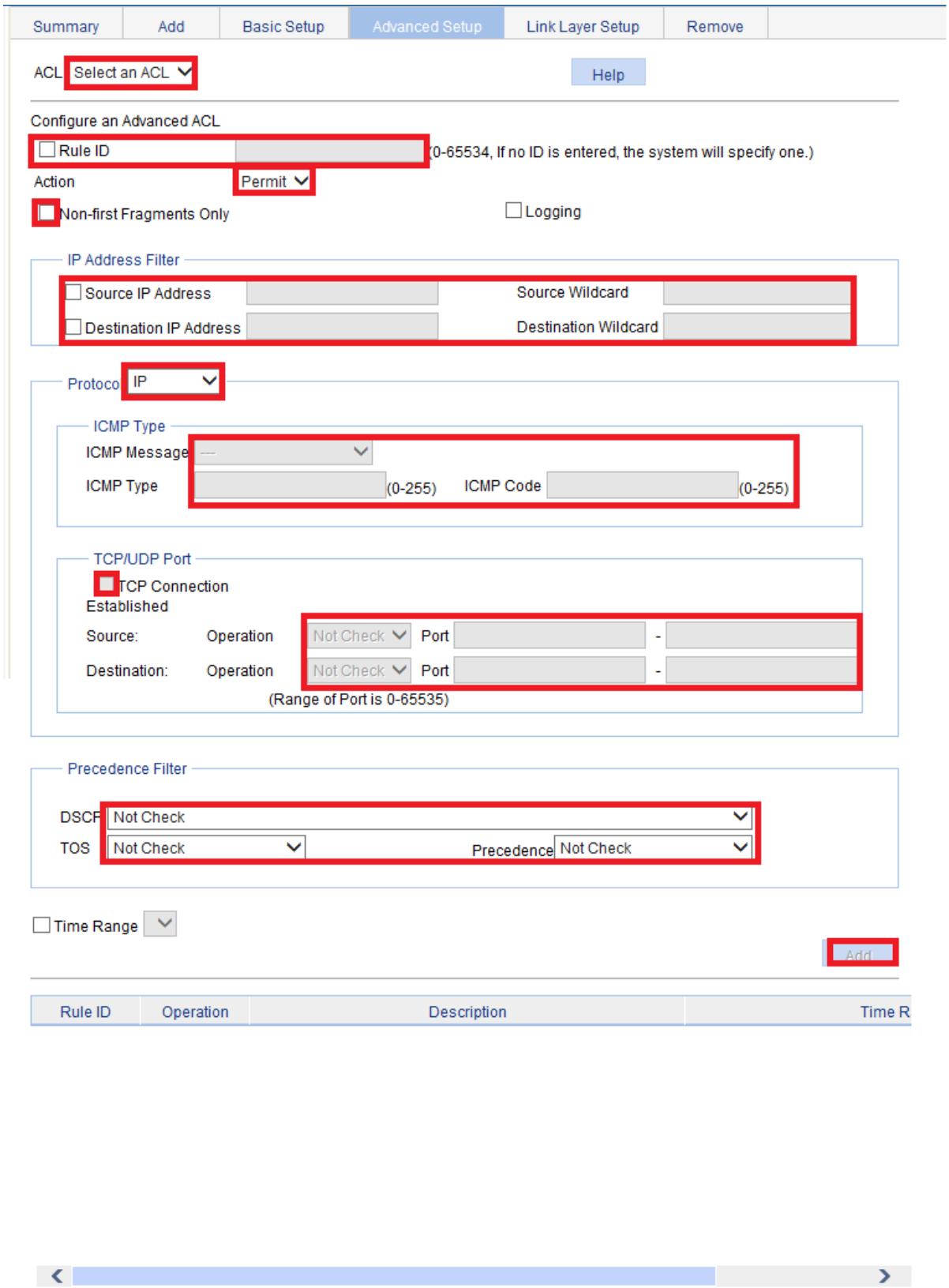
“TCP”、あるいは”UDP“を選択した場合、“TCP/UDP Port”を選択、入力します。

“Precedence Filter”を設定する場合、“DSCP”、“TOS”、“Precedence”を選択します。

7) “Add”をクリックします。

設定される ACL が下段に表示されます。

図 7-6 拡張 IPv4 ACL の設定



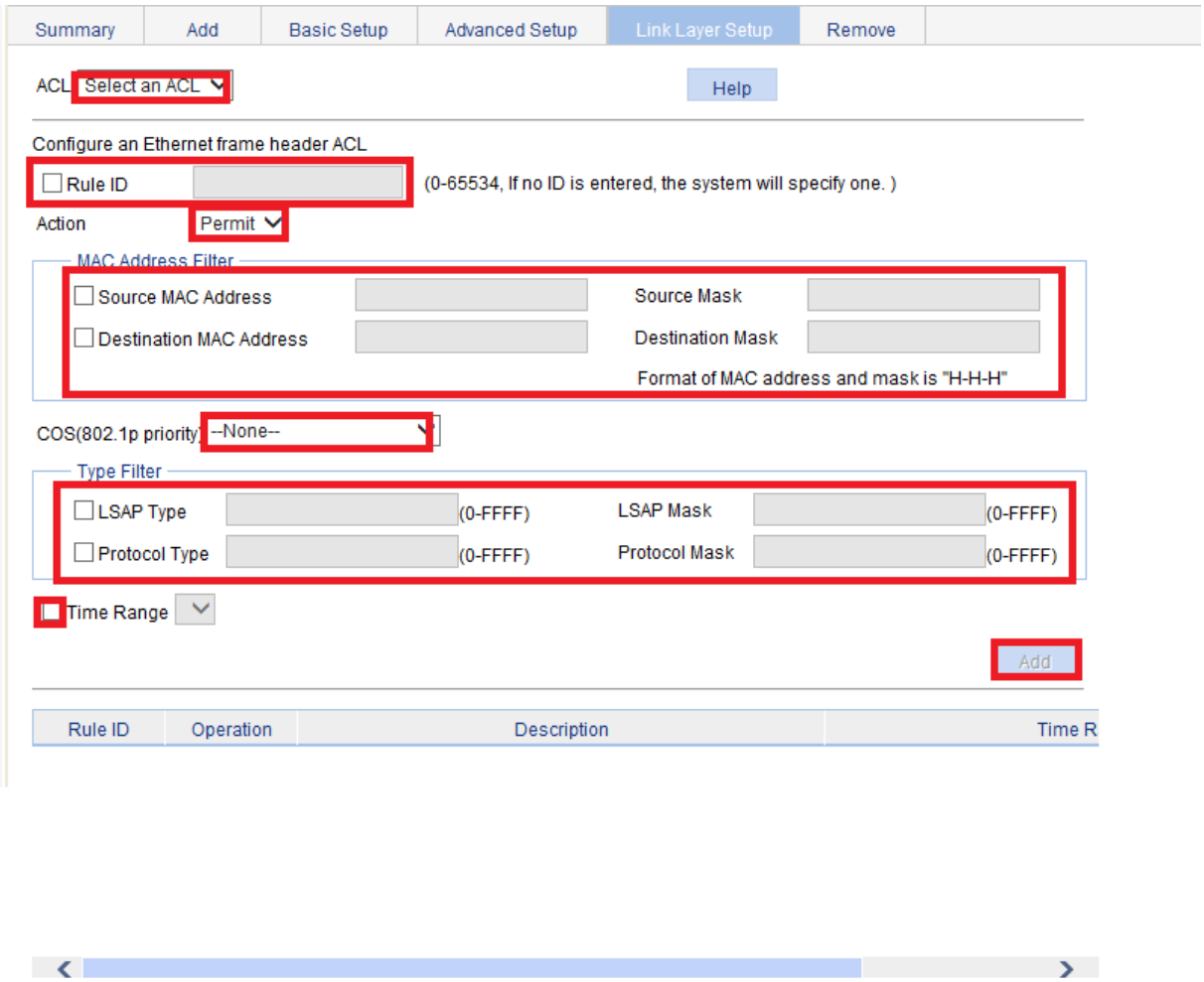
7.1.5 L2 ACL の設定

“ACL IPv4” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Link Layer Setup” をクリックします。図 7-7に示すような画面が表示されます。

1) 追加された ACL 番号を選択します。
2) ルール ID を設定する場合、“Rule ID” をチェックします。値を入力します。
3) アクションを選択します。
4) MAC アドレスのフィルタを行う場合、“Source MAC Address”、“Source Mask”、“Destination MAC Address”、“Destination Mask” をチェックし、値を入力します。
5) 802.1 プライオリティを設定する場合、“COS(802.1p priority)”を選択します。“Type Filter” をチェックし、値を入力します。
6) “Add” をクリックします。

設定される ACL が下段に表示されます。

図 7-7 L2 ACL の設定



7.1.6 ACL の削除

“ACL IPv4”サブ設定、情報メニューの切り替えタブで“Remove”をクリックします。図 7-8に示すような画面が表示されます。

ACL を指定する方法と、ルール ID を指定する方法があります。

ACL を指定する場合、以下の作業を行います。

1) 削除する ACL を選択します。あるいは“Select All”をクリックします。
2) “Remove”をクリックします。図 7-9に示すような ACL の削除確認ダイアログが表示されます。

ルール ID を指定する場合、以下の作業を行います。

1) ルール ID をチェックします。
2) “Remove”をクリックします。図 7-9に示すような ACL の削除確認ダイアログが表示されます。

図 7-8 ACL の削除

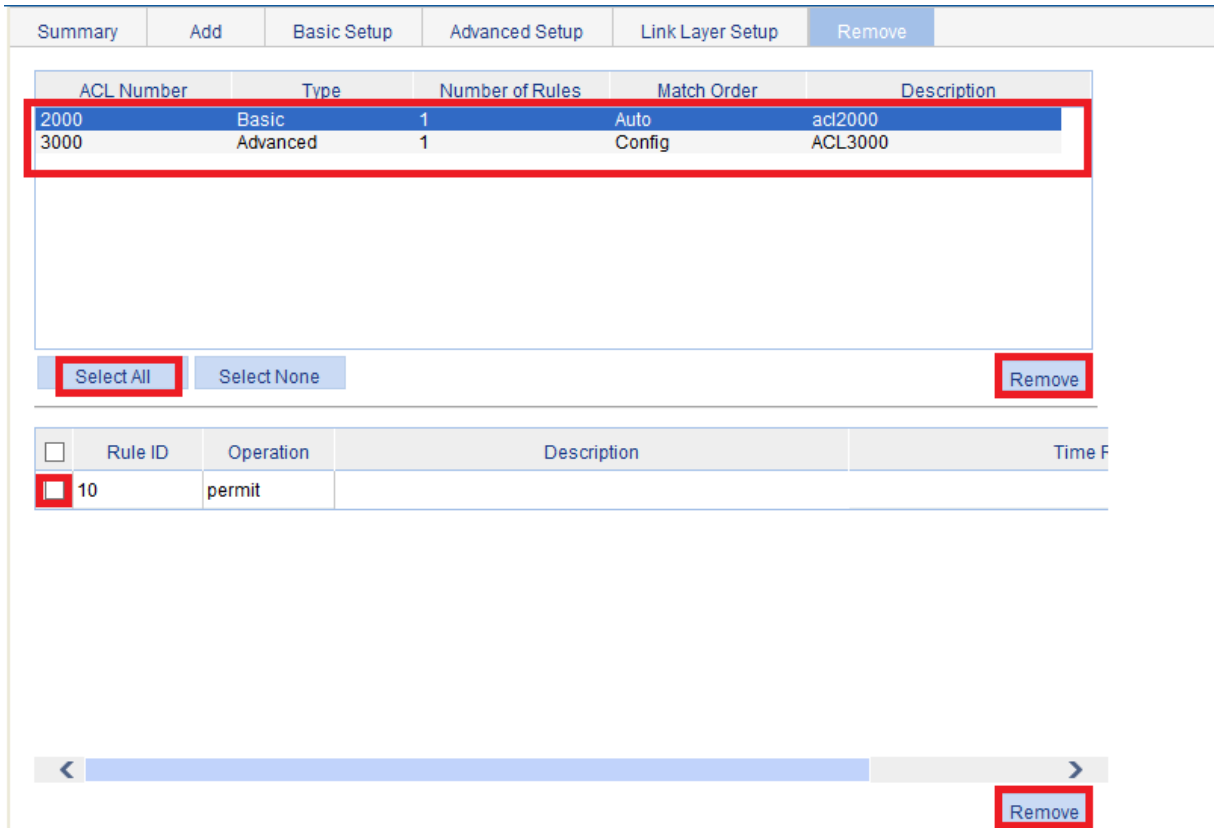
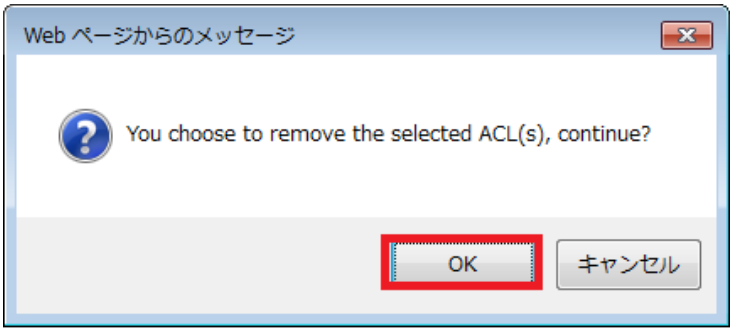


図 7-9 ACL の削除確認ダイアログ



目次

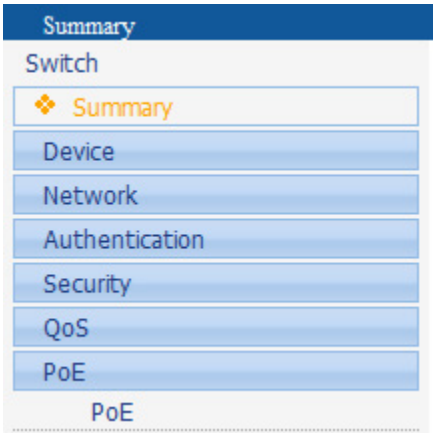
8 章 PoE 8-1
8.1 PoE 8-1
8.1.1 PoE の表示 8-2
8.1.2 PSE の設定 8-2
8.1.3 ポートの設定 8-3

8章 PoE

設定、情報メニューで“PoE”を選択します。

“PoE”メニューには図 8-1に示すように以下のサブ設定、情報メニューがあります。

図 8-1 PoE メニューのサブ設定、情報メニュー画面



- **PoE**－PoE の設定、表示を行います。

8.1 PoE

“PoE”メニューのサブ設定、情報メニューで“PoE”をクリックします。

PoE の設定、表示を行います。

図 8-2 PoE の選択

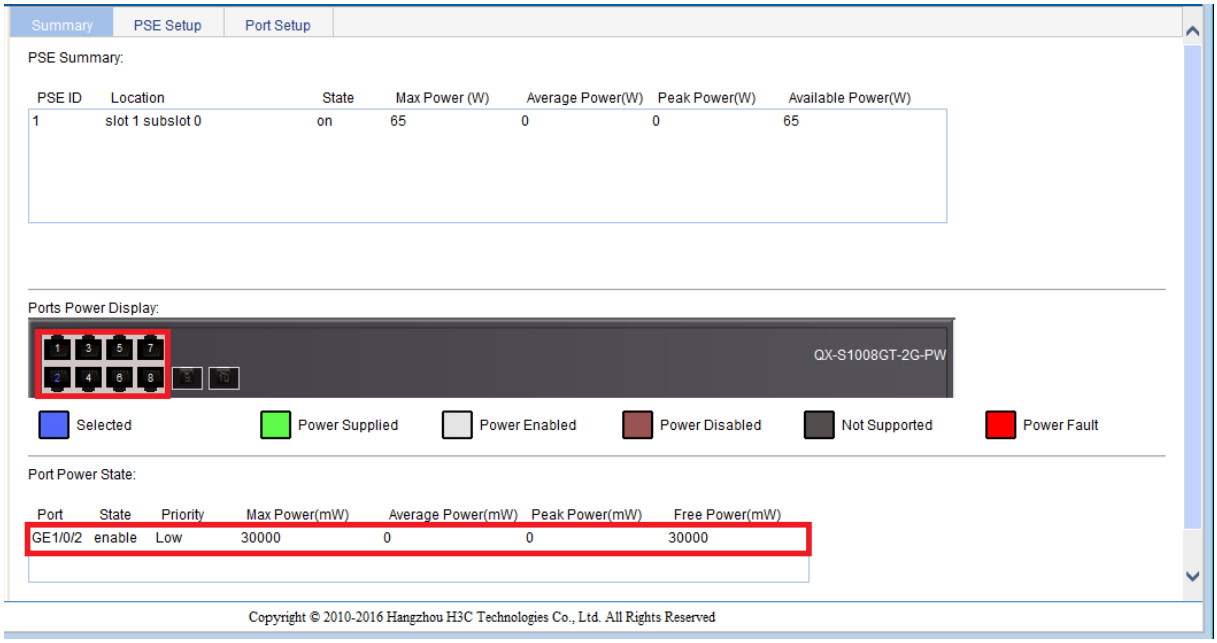
8.1.1 PoE の表示

“PoE” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Summary” をクリックします。図 8-3 に示すような画面が表示されます。

PoE の概要を表示します。

1) 装置前面のポートを選択します。
2) 選択されたポートの PoE の詳細情報を表示します。

図 8-3 PoE の概要



8.1.2 PSE の設定

“PoE” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “PSE Setup” をクリックします。図 8-4に示すような画面が表示されます。

1) “Non-Standard PD Compatibility “を選択します。
2) “Apply” をクリックします。図 8-5に示すような設定完了ダイアログが表示されます。

図 8-4 PSE の設定

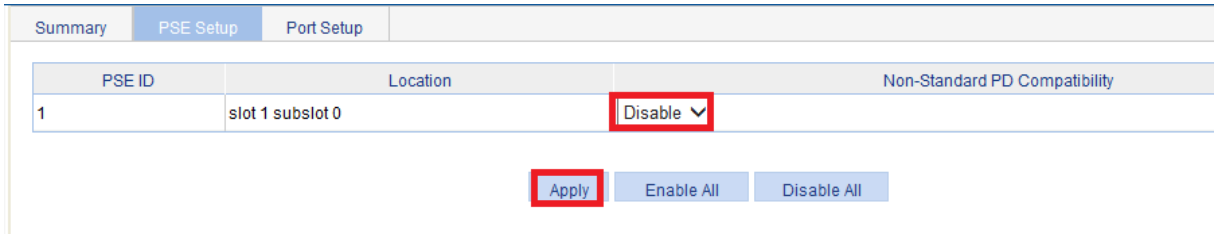
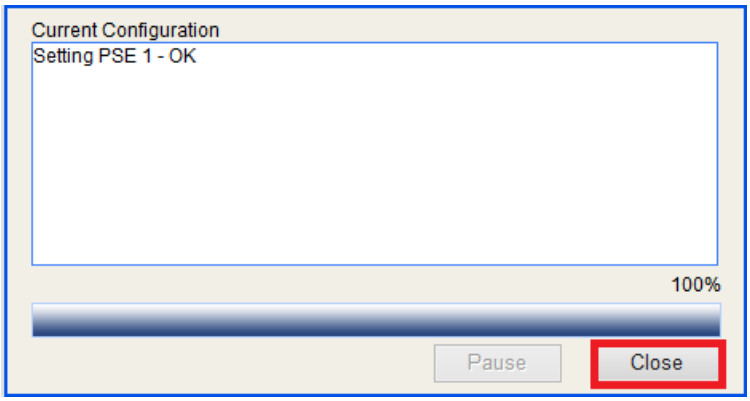


図 8-5 PSE 設定完了ダイアログ



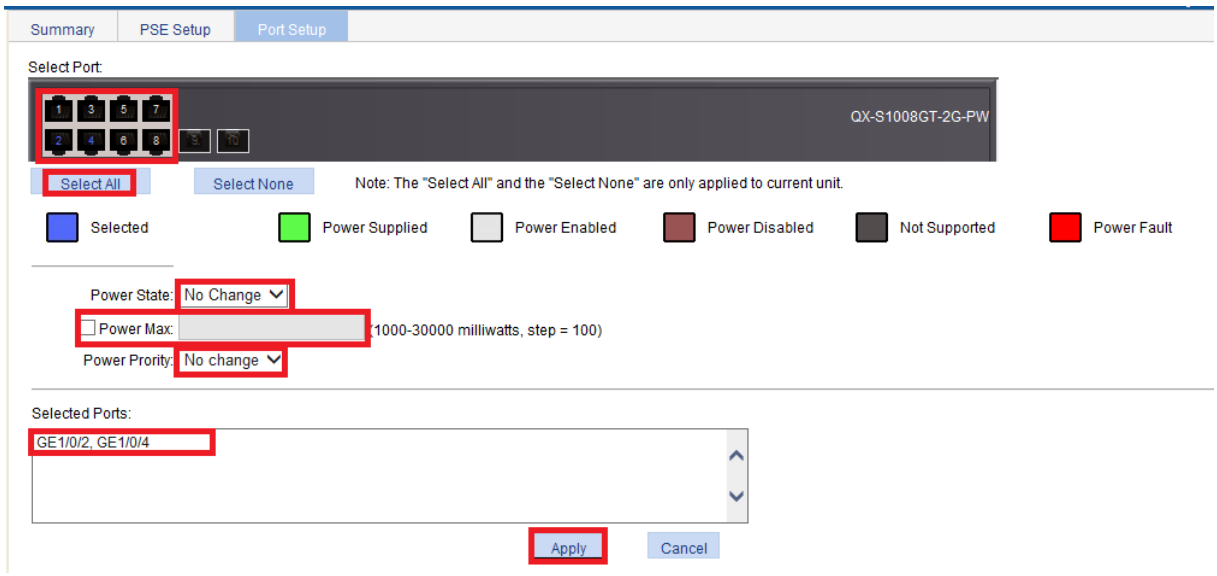
8.1.3 ポートの設定

“PoE” サブ設定、情報メニューの切り替えタブで “Port Setup” をクリックします。図 8-3 に示すような画面が表示されます。

PoE の概要を表示します。

1) 装置前面のポートを選択します。あるいは “Select All” をクリックします。
2) “Power State:” を選択します。
3) “Power Max:” チェックし、値を入力します。
4) “Power Prority:” を選択します。
5) “Apply” をクリックします。

図 8-6 ポートの設定


Summary
PSE Setup
Port Setup
Select Port:
QX-S1008GT-2G-PW
Select All
Select None
Note: The "Select All" and the "Select None" are only applied to current unit.
Selected
Power Supplied
Power Enabled
Power Disabled
Not Supported
Power Fault
Power State: No Change
Power Max:
(1000-30000 milliwatts, step = 100)
Power Prority: No change
Selected Ports:
GE1/0/2, GE1/0/4
Apply
Cancel